

留学生のための

講義概要

2022-2023

1. 日本語・日本事情科目 (留学生向け科目)

2. グローバル科目 (留学生・日本人学生向け科目)

(使用言語:日本語/日本語と英語/英語)

この小冊子は、留学生のための「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」の概要を説明しています。

- ・「日本語・日本事情科目」:日本語科目は日本語習得を目的とした言語ベースの科目です。 プレイスメントテストで受講するレベルを決めます。
- ・「グローバル科目」: 大分について学ぶ授業の他、言語学、ソーシャルメディア、教育、経済、理工、サステナビリティ、ポピュラー・カルチャー等の科目が、日本語、英語、日本語&英語で開講されます。

正規生は「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」を履修することができますが、日本語 $1 \sim 3$ を履修しても単位認定されませんので注意してください。学位取得のための単位に関する詳細については所属学部に必ず確認を行ってください。

JAPANESE LANGUAGE AND JAPANESE STUDIES COURSES FOR INTERNATIONAL STUDENTS

(2022-2023)

- 1. Japanese Language and Japanese Studies Courses for International Students
- 2. Global Studies Courses for International and Japanese Students (offered in either English, Japanese, or an integration of both)

This booklet provides an introduction to Japanese Language, Japanese Studies, and Global Studies courses.

- Japanese Language and Japanese Studies Courses: designed to improve Japanese language skills. Students will enroll in the appropriate level of Japanese language course based on the result of a placement exam.
- Global Studies Courses: develop international and global perspectives as well as an
 understanding of Oita's region-specific issues through a variety of courses in the
 areas of linguistics, social media, education, economics, applied engineering and
 science, sustainability, and popular culture. Courses are offered in either Japanese,
 English, or an integration of both.

All Global Studies courses are available to all international students. However, please note that credits for Japanese courses 1~3 are not granted to international students seeking an undergraduate degree. If you are a degree-seeking student, you must contact your faculty regarding credit requirements for your degree.

2022年度 前期

1. 日本語·日本事情科目

| 授業科目名 | 時間 | 単位数 | 学部等 | 担当教員 | レベル (使用言語) | 頁 |
|---|------|-----|-----------------------|-----------|---------------|----|
| 日本語1文法 | 火1 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 1 |
| 日本語1会話 | 水 2 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 2 |
| 日本語 1 総合 | 木2 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 3 |
| 日本語1読解 | 月 4 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 入門・初級 | 4 |
| 日本語 2 文法 | 火2 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三 | 初級 | 5 |
| 日本語2会話 | 水1 | 2 | 国際教育推進センター | 南 里 敬 三 | 初級 | 6 |
| 日本語 2 総合 | 金2 | 2 | 国際教育推進センター | 南 里 敬 三 | 初級 | 7 |
| 日本語 2 読解 | 月1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 初級 | 8 |
| 日本語 3 文法 | 水 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 9 |
| 日本語3会話 | 月1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 10 |
| 日本語 3 読解 II | 火1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 11 |
| 日本語 3 作文 II | 木2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 初中級 | 12 |
| 多読で学ぶ日本語 | 木3 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 中級~上級 | 13 |
| 日本語4文法Ⅱ | 火2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 中級 | 14 |
| 日本語4スピーキング | 木1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 中級 | 15 |
| 日本語4読解Ⅱ | 金2 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 中級 | 16 |
| 日本語4作文Ⅱ | 水1 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 中級 | 17 |
| 日本語 4 応用 II | 月 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 中級 | 18 |
| 日本語 5 スピーキング | 木2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 上級 | 19 |
| 日本語 5 読解・作文 II | 水1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 上級 | 20 |
| 日本語 5 文法 II | 金1 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 上級 | 21 |
| Independent Research Project I | 金5 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語 | 78 |
| 日本研究 II (日研生対象) | 金5 | 2 | 国際教育推進センター | 南里・センター教員 | 日本語 | 22 |
| 大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象) | - | - | 国際教育推進センター | センター教員 | 日本語 初級 | 23 |
| 医学部学生補講 (会話) | 月1・2 | - | 国際教育推進センター | センター教員 | 日本語 初級~中級 | - |

2. グローバル科目

| 授業科目名 | 時間 | 単位数 | 学部等 | 担当教員 | レベル (使用言語) | 頁 |
|---|-----|-----|-----------------------|-------------|---------------|-----|
| 日本語文法分析 | 火 2 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 日本語 超級 | 35 |
| ビジネスジャパニーズ演習 3 | 月 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 日本語 超級 | 36 |
| ビジネスジャパニーズ演習 4 | 火1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 日本語 超級 | 37 |
| 狂言で大分を学ぶ | 火 4 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三・西島順子 | 日本語&英語 | 38 |
| Sustainability & Glocal Development in Oita 2サステナビリティ大分 2 | 木4 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 英語&日本語 | 39 |
| City Project:Oita and Beppu 歩いて楽しい街:大分と別府 | 金3 | 2 | 国際教育推進センター | 南 里 敬 三 | 日本語&英語 | 40 |
| 大分地域理解 | 水 2 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 日本語 中級~超級 | 41 |
| Intercultural Communication | 火 3 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語&日本語 | 42 |
| Japanese Popular Culture Studies | 水 4 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語&日本語 | 43 |
| Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | 水 3 | 2 | 国際教育推進センター | 長池一美・南里敬三 | 英語&日本語 | 44 |
| Introduction to Japanese History, Culture and Society | 月 3 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語 | 45 |
| Ethnographic Study on Rural Japan | 水 3 | 2 | 経済学部 | 久保田 亮 | 英語 | 102 |
| Globalization of Japan's Economy | 木2 | 2 | 経済学部 | 柴 田 茂 樹 | 英語 | 103 |
| The Politics and Economics of the EU | 木3 | 2 | 経済学部 | DAY Stephen | 英語 | 104 |
| 多文化健康・福祉・心理共同学習 | 集中 | 2 | 福祉健康科学部 | ラングリー・松本 | 日本語&英語 | 46 |

2022年度 日本語·日本事情科目時間割 (前期)

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----------------------|--|---|--|---|--|
| | 医学部学生補講 (会話) | 日本語 1 文法 (ブルカート) | 日本語2会話 (南里) | 日本語4スピーキング (前田) | 日本語5文法 II (西島) |
| 1 (8:30- 10:00) | 日本語2読解 (前田) | 日本語3読解 II (大坪) | 日本語4作文Ⅱ (西島) | | |
| | 日本語3会話 (大坪) | ビジネスジャパニーズ 演習4 (前田) | 日本語5読解·作文Ⅱ (大坪) | | |
| | 医学部学生補講 (会話) | 日本語2文法 (南里) | 日本語 1 会話 (ブルカート) | 日本語 1 総合 (ブルカート) | 日本語2総合 (南里) |
| 2 | ビジネスジャパニーズ 演習3 (前田) | 日本語4文法Ⅱ (大坪) | 日本語3文法 (大坪) | 日本語3作文 II (前田) | 日本語4読解Ⅱ (西島) |
| (10 : 10- 11 : 40) | 日本語4応用 II (大坪) | 日本語文法分析(西島) | 大分地域理解 (西島) | 日本語5スピーキング (大坪) | |
| | | | | Globalization of Japan's Economy (SHIBATA) | |
| 3 (13:10- | Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE) | Intercultural Communication (NAGAIKE) | Japanese Aesthetics & Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI) | The Politics and Economics of the EU (DAY) | City Project : Oita and Beppu (NANRI) |
| 14:40) | | | Ethnographic Study on Rural Japan (KUBOTA) | 多読で学ぶ日本語 (大坪) | |
| 4 (14 : 50- | 日本語1読解 (長池) | 狂言で大分を学ぶ (南里・西島) | Japanese Popular Culture Studies (NAGAIKE) | Sustainability & Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分2 (BURKART) | |
| 16 : 20) | | | | | |
| 5 | | | | | 日本研究 II (日研生) (南里他) |
| (16 : 30- 18 : 00) | | | | | Independent Research Project I (NAGAIKE) |

2022年度 後期

1. 日本語·日本事情科目

| 授業科目名 | 時間 | 単位数 | 学部等 | 担当教員 | レベル (使用言語) | 頁 |
|---|------|-----|-----------------------|-----------|---------------|----|
| 日本語1文法 | 火2 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 1 |
| 日本語1会話 | 水1 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 2 |
| 日本語1総合 | 木2 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 入門・初級 | 3 |
| 日本語1読解 | 月 4 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 入門・初級 | 4 |
| 日本語2文法 | 火1 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三 | 初級 | 5 |
| 日本語 2 会話 | 水2 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三 | 初級 | 6 |
| 日本語 2 総合 | 金2 | 2 | 国際教育推進センター | 南 里 敬 三 | 初級 | 7 |
| 日本語 2 読解 | 木1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 初級 | 8 |
| 日本語 3 文法 | 火2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 9 |
| 日本語 3 会話 | 木2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 10 |
| 日本語 3 読解 I | 水2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 初中級 | 24 |
| 日本語 3 作文 I | 月1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 初中級 | 25 |
| 日本語 4 文法 I | 月 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 中級 | 26 |
| 日本語 4 スピーキング | 水2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 中級 | 15 |
| 日本語 4 読解 I | 金1 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 中級 | 27 |
| 日本語 4 作文 I | 木2 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 中級 | 28 |
| 日本語 4 応用 I | 火1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 中級 | 29 |
| 日本語5スピーキング | 月1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 上級 | 19 |
| 日本語 5 読解・作文 I | 水1 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 大 坪 美奈子 | 上級 | 30 |
| 日本語 5 文法 I | 金2 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 上級 | 31 |
| レポート・論文作成 | 木3 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 超級 | 32 |
| Independent Research Project II | 金5 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語 | 89 |
| 日本研究 I (日研生対象) | 金5 | 2 | 国際教育推進センター | 南里・センター教員 | 日本語 | 33 |
| 大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象) | _ | - | 国際教育推進センター | センター教員 | 日本語 初級 | 23 |
| 医学部学生補講 (会話) | 月1・2 | - | 国際教育推進センター | センター教員 | 日本語 初級~中級 | - |

2. グローバル科目

| 授業科目名 | 時間 | 単位数 | 学部等 | 担当教員 | レベル (使用言語) | 頁 |
|---|-----|-----|-----------------------|-------------|---------------|-----|
| 日本語表現技術 | 火 4 | 2 | 国際教育推進センター | 西島順子 | 日本語 中級~超級 | 47 |
| 日本語学 I | 水 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 星 野 智 子 | 日本語 超級 | 48 |
| ビジネスジャパニーズ演習 1 | 月 2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 日本語 超級 | 49 |
| ビジネスジャパニーズ演習 2 | 木2 | 2 | 国際教育推進センター (非常勤講師) | 前 田 京 子 | 日本語 超級 | 50 |
| Intercultural Communication | 月 3 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語&日本語 | 42 |
| Manga Studies | 水 3 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語&日本語 | 51 |
| Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | 金4 | 2 | 国際教育推進センター | 長池一美・南里敬三 | 英語&日本語 | 44 |
| Introduction to Japanese History, Culture and Society | 水 4 | 2 | 国際教育推進センター | 長 池 一 美 | 英語 | 45 |
| Japanese Grammar and Discourse | 金3 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三 | 英語&日本語 | 52 |
| ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ | 火3 | 2 | 国際教育推進センター | 南里敬三 | 日本語&英語 | 53 |
| Sustainability & Glocal Development in Oita サステナビリティ大分 | 木4 | 2 | 国際教育推進センター | ブルカート香織 | 英語&日本語 | 54 |
| The Politics and Economics of Globalization | 木3 | 2 | 経済学部 | DAY Stephen | 英語 | 117 |
| 認知言語学から見た日英対照分析 | 木4 | 2 | 教育学部 | 橋 本 美喜男 | 英語 | 55 |
| 情報技術入門 | 木4 | 2 | 理工学部 | 紙 名 哲 生 | 英語 | 56 |
| Japanese Management and Sustainable Development | 金3 | 2 | 経済学部 | 碇 邦生 | 英語 | 120 |

2022年度 日本語・日本事情科目時間割(後期)

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------------|---|---------------------------------------|--|--|--|
| | 医学部学生補講 (会話) (GAIA教員) | 日本語2文法 (南里) | 日本語1会話 (ブルカート) | 日本語2読解 (前田) | 日本語4読解 I (西島) |
| 1 (9:00-10:30) | 日本語3作文 I (前田) | 日本語4応用 I (大坪) | 日本語5読解·作文 I (大坪) | | |
| | 日本語5スピーキン グ (大坪) | | | | |
| | 医学部学生補講 (会話) (GAIA教員) | 日本語1文法 (ブルカート) | 日本語2会話 (南里) | 日本語1総合 (ブルカート) | 日本語2総合 (南里) |
| 2 | 日本語4文法 I (大坪) | 日本語3文法 (大坪) | 日本語3読解 I (大坪) | 日本語3会話 (大坪) | 日本語5文法 I (西島) |
| (10:40-12:10) | ビジネスジャパニー ズ演習1 (前田) | | 日本語4スピーキン グ (前田) | 日本語4作文 I (西島) | |
| | | | 日本語学 I (星野) | ビジネスジャパニー ズ演習2 (前田) | |
| 3 | Intercultural Communication (NAGAIKE) | ソーシャルネットワー クと大分からの発信 II (南里) | Manga Studies (NAGAIKE) | レポート・論文作成 (西島) | Japanese Grammar and Discourse (NANRI) |
| (13:10-14:40) | | | | The Politics and Economics of Globalization (DAY) | Japanese Management and Sustainable Development (IKARI) |
| | 日本語1読解 (長池) | 日本語表現技術 (西島) | Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE) | 認知言語学から見た 日英対照分析 (橋本) | Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI) |
| 4 (14:50–16:20) | | 江漢大学ゼミナール1 | | Sustainability & Glocal Development in Oita サステナビリティ大分 (BURKART) | |
| | | | | 情報技術入門 (紙名) | |
| 5 | | | | | 日本研究 I (日研生) (南里他) |
| (16:30–18:00) | | | | | Independent Research Project II (NAGAIKE) |

Spring Semester, April 2022 - August 2023

1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

| SUBJECT | Day and Time | CREDITS | FACULTY | LECTURER | Level (Language) | PAGE |
|--|-----------------|---------|---------------------|---------------------|---|------|
| Japanese 1 Grammar | Tue.1 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 57 |
| Japanese 1 Conversation | Wed.2 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 58 |
| Japanese 1 Integrated Activities | Thu.2 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 59 |
| Japanese 1 Reading | Mon.4 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | Novice | 60 |
| Japanese 2 Grammar | Tue.2 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 61 |
| Japanese 2 Conversation | Wed.1 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 62 |
| Japanese 2 Integrated Activities | Fri.2 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 63 |
| Japanese 2 Reading | Mon.1 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Novice-High | 64 |
| Japanese 3 Grammar | Wed.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 65 |
| Japanese 3 Conversation | Mon.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 66 |
| Japanese 3 Reading II | Tue.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 67 |
| Japanese 3 Writing II | Thu.2 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Intermediate-Low | 68 |
| Extensive Reading in Japanese | Thu.3 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate- Advanced | 69 |
| Japanese 4 Grammar II | Tue.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate | 70 |
| Japanese 4 Speaking | Thu.1 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Intermediate | 71 |
| Japanese 4 Reading II | Fri.2 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Intermediate | 72 |
| Japanese 4 Writing II | Wed.1 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Intermediate | 73 |
| Japanese 4 Contextual Japanese II | Mon.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate | 74 |
| Japanese 5 Speaking | Thu.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Advanced | 75 |
| Japanese 5 Reading / Writing II | Wed.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Advanced | 76 |
| Japanese 5 Grammar II | Fri.1 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Advanced | 77 |
| Independent Research Project I | Fri.5 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 78 |
| Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students | - | - | GAIA | Instructors of GAIA | Japanese&English | 79 |
| Japanese for Medical Students : Conversation | Mon.1·2 | - | GAIA | Instructors of GAIA | Japanese&English (Novice-Intermediate) | - |

2. Global Studies Courses

| SUBJECT | Day and Time | CREDITS | FACULTY | LECTURER | Language | PAGE |
|---|-------------------|---------|-------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|------|
| Analysis of Japanese Grammar | Tue.2 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Japanese | 91 |
| Business Japanese Seminar 3 | Mon.2 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Japanese | 92 |
| Business Japanese Seminar 4 | Tue.1 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Japanese | 93 |
| Learning OITA Through Kyogen | Tue.4 | 2 | GAIA | NANRI NISHIJIMA | Japanese&English | 94 |
| Sustainability & Glocal Development in Oita 2 | Thu.4 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | English&Japanese | 95 |
| City Project : Oita and Beppu | Fri.3 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Japanese&English | 96 |
| Oita Area Studies | Wed.2 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Japanese Intermediate-Advanced | 97 |
| Intercultural Communication | Tue.3 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 98 |
| Japanese Popular Culture Studies | Wed.4 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English&Japanese | 99 |
| Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | Wed.3 | 2 | GAIA | NAGAIKE NANRI | English&Japanese | 100 |
| Introduction to Japanese History, Culture and Society | Mon.3 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 101 |
| Ethnographic Study on Rural Japan | Wed.3 | 2 | Economics | KUBOTA Ryo | English | 102 |
| Globalization of Japan's Economy | Thu.2 | 2 | Economics | SHIBATA Shigeki | English | 103 |
| The Politics and Economics of the EU | Thu.3 | 2 | Economics | DAY Stephen | English | 104 |
| International Comparative Life and Health Support | Intensive lecture | 2 | Health and Welfare Science | Langley, Raymond & Matsumoto, Yumi | Japanese&English | 105 |

 $\ensuremath{\ensuremath{\%}}$ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center

COURSE SCHEDULE (Fall Semester, October 2022 - February 2023)

| | MON | TUE | WED | THU | FRI |
|------------------------|---|--|--|--|--|
| | Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA) | Japanese 2 Grammar (NANRI) | Japanese 1 Conversation (BURKART) | Japanese 2 Reading (MAEDA) | Japanese 4 Reading I (NISHIJIMA) |
| 1 (9:00-10:30) | Japanese 3 Writing I (MAEDA) | Japanese 4 Contextual Japanese I (OTSUBO) | Japanese 5 Reading / Writing I (OTSUBO) | | |
| | Japanese 5 Speaking (OTSUBO) | | | | |
| | Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA) | Japanese 1 Grammar (BURKART) | Japanese 2 Conversation (NANRI) | Japanese 1 Integrated Activities (BURKART) | Japanese 2 Integrated Activities (NANRI) |
| 2 (10:40- | Japanese 4 Grammar I (OTSUBO) | Japanese 3 Grammar (OTSUBO) | Japanese 3 Reading I (OTSUBO) | Japanese 3 Conversation (OTSUBO) | Japanese 5 Grammar I (NISHIJIMA) |
| (10:40- 12:10) | Business Japanese Seminar 1 (MAEDA) | | Japanese 4 Speaking (MAEDA) | Japanese 4 Writing I (NISHIJIMA) | |
| | | | Japanese Linguistics I (HOSHINO) | Business Japanese Seminar 2 (MAEDA) | |
| 3 (13:10- | Intercultural Communication (NAGAIKE) | Social Networks and Introduction of Oita to the World II (NANRI) | Manga Studies (NAGAIKE) | Academic Writing in Japanese (NISHIJIMA) | Japanese Grammar and Discourse (NANRI) |
| 14:40) | | | | The Politics and Economics of Globalization (DAY) | Japanese Management and Sustainable Development (IKARI) |
| | Japanese 1 Reading (NAGAIKE) | Presentation Skill (NISHIJIMA) | Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE) | Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (HASHIMOTO) | Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI) |
| 4 (14:50- 16:20) | | Jinghan University 3+1 Program 1 | | Sustainability and Glocal Development in Oita (BURKART) | |
| | | | | Introduction to Information Technology (KAMINA) | |
| 5 (16:30- | | | | | Independent Research Project II (NAGAIKE) |
| 18:00) | | | | | |

Fall Semester, October 2022 - February 2023

1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

| SUBJECT | Day and Time | CREDITS | FACULTY | LECTURER | Level (Language) | PAGE |
|--|-----------------|---------|---------------------|---------------------|---|------|
| Japanese 1 Grammar | Tue.2 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 57 |
| Japanese 1 Conversation | Wed.1 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 58 |
| Japanese 1 Integrated Activities | Thu.2 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | Novice | 59 |
| Japanese 1 Reading | Mon.4 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | Novice | 60 |
| Japanese 2 Grammar | Tue.1 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 61 |
| Japanese 2 Conversation | Wed.2 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 62 |
| Japanese 2 Integrated Activities | Fri.2 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Novice-High | 63 |
| Japanese 2 Reading | Thu.1 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Novice-High | 64 |
| Japanese 3 Grammar | Tue.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 65 |
| Japanese 3 Conversation | Thu.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 66 |
| Japanese 3 Reading I | Wed.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate-Low | 80 |
| Japanese 3 Writing I | Mon.1 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Intermediate-Low | 81 |
| Japanese 4 Grammar I | Mon.2 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate | 82 |
| Japanese 4 Speaking | Wed.2 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Intermediate | 71 |
| Japanese 4 Reading I | Fri.1 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Intermediate | 83 |
| Japanese 4 Writing I | Thu.2 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Intermediate | 84 |
| Japanese 4 Contextual Japanese I | Tue.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Intermediate | 85 |
| Japanese 5 Speaking | Mon.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Advanced | 75 |
| Japanese 5 Reading/ Writing I | Wed.1 | 2 | GAIA (Part-time) | OTSUBO Minako | Advanced | 86 |
| Japanese 5 Grammar I | Fri.2 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Advanced | 87 |
| Academic Writing in Japanese | Thu.3 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Advanced | 88 |
| Independent Research Project II | Fri.5 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 89 |
| Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students | _ | _ | GAIA | Instructors of GAIA | Japanese&English | 79 |
| Japanese for Medical Students : Conversation | Mon.1·2 | _ | GAIA | Instructors of GAIA | Japanese&English (Novice-Intermediate) | _ |

2. Global Studies Courses

| SUBJECT | Day and Time | CREDITS | FACULTY | LECTURER | Language | PAGE |
|---|-----------------|---------|---------------------------|------------------|-----------------------------------|------|
| Presentation Skill | Tue.4 | 2 | GAIA | NISHIJIMA Yoriko | Japanese Intermediate-Advanced | 106 |
| Japanese Linguistics I | Wed.2 | 2 | GAIA (Part-time) | HOSHINO Tomoko | Japanese | 107 |
| Business Japanese Seminar 1 | Mon.2 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Japanese | 108 |
| Business Japanese Seminar 2 | Thu.2 | 2 | GAIA (Part-time) | MAEDA Kyoko | Japanese | 109 |
| Intercultural Communication | Mon.3 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 110 |
| Manga Studies | Wed.3 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 111 |
| Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | Fri.4 | 2 | GAIA | NAGAIKE NANRI | English&Japanese | 112 |
| Introduction to Japanese History, Culture and Society | Wed.4 | 2 | GAIA | NAGAIKE Kazumi | English | 113 |
| Japanese Grammar and Discourse | Fri.3 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | English&Japanese | 114 |
| Social Networks and Introduction of Oita to the World II | Tue.3 | 2 | GAIA | NANRI Keizo | Japanese&English | 115 |
| Sustainability and Glocal Development in Oita | Thu.4 | 2 | GAIA | BURKART Kaori | English&Japanese | 116 |
| The Politics and Economics of Globalization | Thu.3 | 2 | Economics | DAY Stephen | English | 117 |
| Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics | Thu.4 | 2 | Education | HASHIMOTO Mikio | English | 118 |
| Introduction to Information Technology | Thu.4 | 2 | Science and Technology | KAMINA Tetsuo | English | 119 |
| Japanese Management and Sustainable Development | Fri.3 | 2 | Economics | IKARI Kunio | English | 120 |

 $\ensuremath{\ensuremath{\%}}$ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center

COURSE SCHEDULE (Fall Semester, October 2022 - February 2023)

| | MON | TUE | WED | THU | FRI |
|-----------------------|---|---|--|--|--|
| | Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA) | Japanese 2 Grammar (NANRI) | Japanese 1 Conversation (BURKART) | Japanese 2 Reading (MAEDA) | Japanese 4 Reading I (NISHIJIMA) |
| 1 (8:30- 10:00) | Japanese 3 Writing I (MAEDA) | Japanese 4 Contextual Japanese I (OTSUBO) | Japanese 5 Reading / Writing I (OTSUBO) | | |
| | Japanese 5 Speaking (OTSUBO) | | | | |
| | Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA) | Japanese 1 Grammar (BURKART) | Japanese 2 Conversation (NANRI) | Japanese 1 Integrated Activities (BURKART) | Japanese 2 Integrated Activities (NANRI) |
| 2 (10:10- | Japanese 4 Grammar I (OTSUBO) | Japanese 3 Grammar (OTSUBO) | Japanese 3 Reading I (OTSUBO) | Japanese 3 Conversation (OTSUBO) | Japanese 5 Grammar I (NISHIJIMA) |
| 11:40) | Business Japanese Seminar 1 (MAEDA) | | Japanese 4 Speaking (MAEDA) | Japanese 4 Writing I (NISHIJIMA) | |
| | | | Japanese Linguistics I (HOSHINO) | Business Japanese Seminar 2 (MAEDA) | |
| 3 (13:10- | Intercultural Communication (NAGAIKE) | Social Networks and Introduction of Oita to the World II (NANRI) | Manga Studies (NAGAIKE) | Academic Writing in Japanese (NISHIJIMA) | Japanese Grammar and Discourse (NANRI) |
| 14:40) | | | | The Politics and Economics of Globalization (DAY) | Japanese Management and Sustainable Development (IKARI) |
| 4 | Japanese 1 Reading (NAGAIKE) | Presentation Skill (NISHIJIMA) | Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE) | Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (HASHIMOTO) | Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI) |
| (14:50- 16:20) | | Jinghan University 3+1 Program 1 | | Sustainability and Glocal Development in Oita (BURKART) | |
| | | | | Introduction to Information Technology (KAMINA) | |
| 5 (16:30- | | | | | Independent Research Project II (NAGAIKE) |
| 18:00) | | | | | |

1. 日本語・日本事情科目 (留学生向け科目)

| 授業科目名 | 日本語 1 文法 | | |
|---------------------------|--|--|----------------------------------|
| 担当教員 | ブルカート香織 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期:火曜1限 後期:火曜2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3階 3番 | 097-554-61 | 71 kburkart@oita-u.ac.jp |
| 授業のねらい | 日本語基本文法及び言語機能の習得 | | |
| 具体的な 到達目標 | ひらがな、カタカナの習得 自己紹介、依頼、好き・嫌い、 法の習得 | 、理由、欲求等 | の言語機能を使うのに必要な文 |
| 授業の内容 | 教科書に (カタ) 第 1 2 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 3 週 : 第 1 4 週 : 第 1 3 週 : 第 1 4 週 : 第 1 5 | がな導入・簡単 カナ導入) アイビティを図る。 で習得を図る。 | いて基礎を学び、ワークブック 講義で用いられた配布物や板書 |
| 時間外学習 | 各課が終了したところで、ワークブ: 文法を用いた宿題も完了させる。小っ 復習に3時間程度の学習時間が必要。 | テストに備えた | |
| 教科書 | 初級日本語(げんき)Ⅰ第3版(ジュ | ャパンタイムズ | 社)ISBN: 978-4789017305 |
| 参考書 | 1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社) | ipan Times) | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 1. 小テスト・宿題(40%) 2. 中間テスト(30%) 3. 期末テスト(30%)*出席 | 率に注意 | |
| 備考・注意事項 | 出席率70%以下(講義4回欠席)の 出席することが基礎日本語を習得する | | |

| 授業科目名 | 日本語 1 会話 | | | | |
|---------------------------|--|-------------|--------------------------|--|--|
| 担当教員 | ブルカート香織 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期:水曜2限 後期:水曜1限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3階 3番 | 097-554-61 | 71 kburkart@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | 日本語の初歩的な会話能力の習得 | | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 限られた状況で適切な挨拶と 2. 自己紹介、依頼、好き・嫌い | | | | |
| 授業の内容 | 教科書に従って、文法、言語機能も取り入れる。 第1週:オリエンテーション・あいさつ表現を使った口頭練習 第2週:第1課 第3週:第2課 第4週:第3課 第5週:第4課 第6週:第5課 第7週:第6課 第8週:中間テスト(文法、語彙、会話を含む。) 第9週:第7課 第10週:第8課 第11週:第9課 第12週:第10課 第13週:第11課 第14週:第12課 第15週:全課の復習 【学生がより深く学べるための工夫】 講義時間内には real-life situation を基盤とした口頭練習を積み重ね、基礎会話力を培う。ワークブックの聴解練習や実践会話を通した宿題で基本の習得を図る。講義で用いられた配布物や板書は Moodle に掲載する。 | | | | |
| 時間外学習 | 各課が終了したところで、ワークブ、 練習の宿題も完了させる。小テストレークでである。 や復習に3時間程度の学習時間が必要 | こ備えた勉強は | | | |
| 教科書 | 初級日本語(げんき)Ⅰ第3版(ジュ | ャパンタイムズ | 社)ISBN: 978-4789017305 | | |
| 参考書 | 1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社) | pan Times) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 1. 小テスト・宿題 (40%) 2. 中間テスト (30%) 3. 期末テスト (30%) *出席 | 率に注意 | | | |
| 備考・注意事項 | 出席率70%以下(講義4回欠席)の 出席することが基礎日本語を習得する | | | | |

| 授業科目名 | 日本語 1 総合 | | |
|---------------------------|---|--|---|
| 一 技术符号名 | | | |
| 担当教員 | ブルカート香織 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期・後期:木曜2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3階 3番 | 097-554-61 | 71 kburkart@oita-u.ac.jp |
| 授業のねらい | 日本語基礎文法・言語機能の導入後、 うになる。 | 日常生活で総合 | 合的に活用することができるよ |
| 具体的な 到達目標 | 基礎的な言語機能、限られた語彙や文好き・嫌い、理由、欲求等を表現する | | |
| 授業の内容 | 日本語 1 で学習した 文法・言語機能 7 で学習した 文法・言語機能 7 で学習した 文法会話話等を含めた 第 2 週:第 1 課の文法会話話等を含めた 第 3 週:第 3 週:第 3 週:第 3 週:第 5 3 週:第 6 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 | がだだだだされたんん とびだだだだだだがいたい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はい はい はい は | たんな挨拶の習得) (カタカナ練習を含む。) なタスク活動練習を行う。語彙、 |
| 時間外学習 | 各課が終了したところで、ワークブ も次週までに完了させる。小テストに3時間程度の学習時間が必要。 | | |
| 教科書 | 初級日本語(げんき)【第3版(ジュ | ャパンタイムズ | 社)ISBN: 978-4789017305 |
| 参考書 | 1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社) | ipan Times) | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 1. 小テスト・宿題(40%) 2. 中間テスト(30%) 3. 期末テスト(30%)*出席 | 率に注意 | |
| 備考・注意事項 | 出席率70%以下(講義4回欠席)の 出席することが基礎日本語を習得する | | |

| 授業科目名 | 日本語 1 読解 | | | |
|---------------------------|---|--|---|--|
| 担当教員 | 長池一美(後期) | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 月曜 4限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 | nagaike@ | oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | ひらがなとカタカナを習得させ、毎週 使った基礎的文章の読解力をつける。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. ひらがなとカタカナの読み書きる 2. 毎週学習する漢字と熟語が読め記 3. 簡単な和文(伝言、手紙、物語 | 書けること。 | た短文が書けること。 | |
| 授業の内容 | 原則として日本語1の教者によりの教育によりの教育によりの教育によりの表書によりの表書を表示を表書により、第2課はカタカナの読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読み書きを表示の漢字の読みの漢字の読みみ書きを表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を | きぎ習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習 | に集中的練習を行う。 に集中的練習を行う。 た文章の読解練習。 た文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 方た文文章の読解練習。 方に文文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文文章の読解練習。 方に大文章の読解練習。 方に大文文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 方にたた文章の読解練習。 | |
| 時間外学習 | 毎週の新出漢字の習得には時間外の約 ること。 | 棟習が不可欠な | ので、毎日読み書きの練習をす | |
| 教科書 | 初級日本語(げんき) I 第3版(ジャパン・タイムズ社)(初版の教科書は使用できないので、必ず第3版の教科書を購入して下さい。) | | | |
| 参考書 | 日英辞典(研究社) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 小テスト(毎週)40%・宿題(毎減 但し、出席率70%以下の場合は期ま | | | |
| 備考・注意事項 | 漢字の習得には毎週授業に出て必ず ある。 | その週に学習し | た漢字を覚えることが必須で | |

| 授業科目名 | 日本語2文法 | | | | |
|---------------------------|--|---|---|--|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 2限 後期 火曜 1限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097 | -554-7635 keiz | zo-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | 日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事 手との社会関係を配慮した表現が選択 | こコメントが出 | 来るようになる。また、聞き | | |
| 具体的な 到達目標 | 一文中での二つの出来事の前後関係の明示方法、意志形を使った予定の報告の仕 方、受け身、使役表現を使った出来事の説明の説明方法、敬語を使った丁寧な話 し方を習得し、初級レベルの文法習得を完了する。 | | | | |
| 授業の内容 | 第1-2週:所称では、「かられる。」 第2週:対して、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノででをををををある。」 第10回に、第10回に、第10回に、第11回に、第1回に、第 | るトつの表出 知てずび可 壊かるトつの表出 切日」、抗出 習をとやのりを事 、本をへ力来 ・チをり詳も使の 構語使りの事 会ェ説もしらっ前 文でっく出の 話ッ明らいいて後 のはてだ来引 練クすい説経レ関 正話確っ事き 習す | る経験を話す 明を活す のを話す のででででででででででででいる。 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで | | |
| 時間外学習 | 予習・復習それぞれに2時間の学習時 | 寺間が必要。 | | | |
| 教科書 | げんき II (ジャパンタイムズ出版) | | | | |
| 参考書 | 日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版) | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 語彙聞き取りクイズ(毎週:10%)、エッセイ1、エッセイ2 (各5%)、中間テスト (15%)、大分散策 (5%)、会話テスト1、会話テスト2 (それぞれ10%、15%)、期末テスト (25%)、宿題 (10%) | | | | |
| 備考・注意事項 | 70%以上の出席がないと期末試験は語2総合と一緒に受講しなければなる | | この科目は日本2会話、日本 | | |

| 授業科目名 | 日本語 2 会話 | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 水曜 1限 後期 水曜 2限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097· | -554-7635 keiz | co-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | 日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事は 手との社会関係を配慮した表現が選択 | こコメントが出 | 来るようになる。また、聞き | | |
| 具体的な 到達目標 | 自分のスケジュールの説明、不可抗力で発生した出来事の報告、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことの報告などを取り交ぜて会話が対話形式で最低8分間できるようになる。また、その際、敬語の基本的使用ができるようになる。 | | | | |
| 授業の内容 | 第1-2週:特別では、 | るトつの表出 知てずぶ可 壊がる このてや現来 り日」、抗出 習をとやのりを事 、本をへ力来 ・チーをり詳も使の 構語使りの事 会ェ説もしらっ前 文でっく出の 話ッ明らいいて後 のはてだ来引 練クすい説経レ関 正話確っ事き 習す | 「る 経験を活す を活す を活す を活すする。「たら」「前 をおきずる。「たら」「前 を性手であいたら」「前 を性手で表のはいる をときが話いいと をときが話いいと ではいる でがある で話かる ではなります。 ではなります。 ではなります。 ではない。 ではない。 ででのでのではない。 ででのでのではない。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 | | |
| 時間外学習 | 予習・復習それぞれに2時間の学習時間が必要。 | | | | |
| 教科書 | げんき II (ジャパンタイムズ出版) | | | | |
| 参考書 | 日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版) | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 語彙聞き取りクイズ (毎週:10%)、エッセイ1、エッセイ2 (各5%)、中間テスト (15%)、大分散策 (5%)、会話テスト1、会話テスト2 (それぞれ10%、15%)、期末テスト (25%)、宿題 (10%) | | | | |
| 備考・注意事項 | 70%以上の出席がないと期末試験は 語2総合と一緒に受講しなければなら | | この科目は日本2会話、日本 | | |

| 授業科目名 | 日本語 2 総合 | | | |
|---------------------------|---|----------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 金曜 2限 後期 金曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097· | -554-7635 keiz | o-nanri@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | 日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事 手との社会関係を配慮した表現が選択 | こコメントが出 | 来るようになる。また、聞き | |
| 具体的な 到達目標 | 自分のスケジュール、不可抗力で発生した出来事、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことのなどのトピックをテーマにした会話文が読めて理解できるようになる。自分の将来の計画について660 字程度の作文が辞書なしで書けるようになる。 | | | |
| 授業の内容 | 第1-2週:テ形、普通体、「~んです」表現の復習 第2週:可能形を使って自分ができることを説明する 第3週:授受表現を使ってプレゼントのやりもらい経験を話す 第4週:連体修飾節を使ってモノにつての詳しい説明を行う 第5-6週:授受表現を使って行為のやりもらい経験を話す 第6-7週:人から聞いた話を伝聞表現を使ってレポートする。「たら」「前に」「てから」などを使って二つの出来事の前後関係を広告する。 第8-9週:復習 第10週:他動詞と自動詞の違いを知り、構文の正確性を高める 第11週:尊敬語を学ぶことを通して日本語では話し手と聞き手の社会関係がコード化されていることを学ぶ。「はず」を使って確信できる事柄の説明をする。 第12週:謙譲語1、謙譲語2を学び、へりくだった表現ができるようになる 第13週:間接受け身文を使って不可抗力の出来事について言及する 第13週:できる表現を使って、出来事の引き起こしについて言及する 【学生がより深く学べるための工夫】 授業の基本は「文法説明・パターン練習・会話練習」学生の理解度は宿題でチェック。基礎が理解できているかどうかをチェックするために毎週宿題のプリント | | | |
| 時間外学習 | 予習・復習それぞれに2時間の学習 | 持間が必要。 | | |
| 教科書 | げんき II (ジャパンタイムズ出版) | | | |
| 参考書 | 日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 語彙聞き取りクイズ(毎週:10%)、 ト(15%)、大分散策(5%)、会話テ 15%)、期末テスト(25%)、宿題(1 | スト1、会話っ | | |
| 備考・注意事項 | 70%以上の出席がないと期末試験は語2総合と一緒に受講しなければなら | | この科目は日本2会話、日本 | |

| 授業科目名 | 日本語 2 読解 | | | |
|---------------------------|--|---|----------------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期・月曜 1限 後期・木曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | │ │初級前半修了程度の学習者の読解力の │ | の向上のための | 新たな語彙、表現、漢字の習得 | |
| 具体的な 到達目標 | ・約300の基本漢字の書き方と読み: ・基本漢字から派生する語彙の習得・短い文章の読解 ・身近な出来事についての作文 | 方 | | |
| 授業の内容 | 1. オ初ののでは、 1. オ初級ののおもし、 2. オ初級のおもし、 3. 日本ののおもし、 4. 日本ののおもし、 5. 悩ががが、 5. 日本のがが、 5. 日本ののは、 5. 日本ののは、 5. 日本ののは、 7. 日本のは、 7. 日本ののは、 7. 日本ののは、 7. 日本ののは、 7. 日本ののは、 7. 日本ののは、 7. 日本のは、 7. | | | |
| 時間外学習 | 課題や自主学習に週 4 時間取り組む必要がある。 予習・復習は必須。予習をしている前提で授業を進める。 | | | |
| 教科書 | 『初級日本語 げんきⅡ 第2版』(The Japan Times) | | | |
| 参考書 | 『新漢英字典』(研究社) 『日本語基本文法辞典』 (The Japan Times) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への積極的な参加(10%)、宿題(20%)、小テスト(10%)、 中間・期末テスト(60%) | | | |
| 備考・注意事項 | 出席率が 70%を割る場合は、期末テ 本授業計画は受講者の理解度・習熟原 | | | |

| 授業科目名 | 日本語 3 文法 | | | |
|---------------------------|---|-------------|-------------------------|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期: 水曜 2限 後期: 火曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | このコースは初級レベルを修了した た基本的な文法を、話題や場面に応り 日常会話を支障なく行うために必要 る。 | じて適切に運用 | できるよ う になること、また、 | |
| 具体的な 到達目標 | 日常生活の様々な場面において必要とされる文型や語彙を学ぶ。 話題や場面に応じて必要となる文法や文型を自ら選び出し、適切に運用できるようになる。 日常会話が支障なく行えるよう、正確に話せるようになる。 さまざまな場面の会話を聞き取り、内容把握ができるようになる。 | | | |
| 授業の内容 | 以下のトピックを話すときに必要となる文型、語彙、表現を学ぶ。 1. 友人や家族の紹介 2. 子供のころの思い出 3. 性格 4. 状況の説明 5. 自国の紹介 6. 自国を旅行する友だちへのアドバイス 7. 旅行の計画 8. 生活の変化 9. 国民性の比較 10. 日本の生活習慣や印象 11. 将来の希望や夢 12. 30年後の世界 13. 食と健康 14. ストレス解消法 15. 若者言葉 【学生がより深く学べるための工夫】 コミュニケーション能力の向上のため、毎回ペアワークやロールプレイ、聴解練習 | | | |
| 時間外学習 | を取り入れる。 聴解練習、各課の予習・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を課す。 | | | |
| 教科書 | 『J Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社) | | | |
| 参考書 | 『日本語文法辞典(中級編)』(The Japan Times) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | レッスンテスト (30%)、 期末テスト (30%)、 単語テスト (15%)、 宿題・態度など (25%) 出席率が 70%以下の場合は、期末テストを受ける資格 がなくなる。 | | | |
| 備考・注意事項 | 日本語2修了、またはプレースメントることを履修の条件とする。 日本語3文法と日本語3会話は同時/ | | | |

| 授業科目名 | 日本語 3 会話 | | | | |
|---------------------------|---|-------------------|------------------------|--|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日•時限 | 前期: 月曜 1限 後期: 木曜 2限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | | |
| 授業のねらい | このコースは初級レベルを修了した た基本的な文法を、話題や場面に応し 日常会話を支障なく行うために必要 る。 | じて適切に運用 | できるようになること、また、 | | |
| 具体的な 到達目標 | 日常生活の様々な場面において必要とされる文型や語彙を学ぶ。 話題や場面に応じて必要となる文法や文型を自ら選び出し、適切に運用できるようになる。 日常会話が支障なく行えるよう、正確に話せるようになる。 さまざまな場面の会話を聞き取り、内容把握ができるようになる。 | | | | |
| 授業の内容 | 以下のトピックを話すときに 1. 友人のの紹介 2. 子供のころの思い出 3. 性格 4. 状別国の紹介する 6. 自国をが引動ののではあるがであるがであるがであるがであるがであるがであるがであるがであるがであるがで | すう。 ベイス | | | |
| 時間外学習 | 聴解練習、各課の予習・復習など毎週 | 園 2 時間程度の | の時間外学習を課す。 | | |
| 教科書 | 『J Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社) | | | | |
| 参考書 | 『日本語文法辞典(中級編) 』(The Japan Times) | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | レッスンテスト (30%)、 期末テス 宿題・態度など (25%) 出席率が がなくなる。 | | | | |
| 備考・注意事項 | 日本語2修了、またはプレースメントることを履修の条件とする。 日本語3文法と日本語3会話は同時/ | | | | |

| 授業科目名 | 日本語3読解Ⅱ | | | |
|---------------------------|--|-------------|---|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | |
| 授業のねらい | 身近な日本についての初中級レベルの | の短い文章を読 | み、理解できる。 | |
| 具体的な 到達目標 | ・文章の構成を理解する。 ・文章の中から必要な情報をすばや・ ・接続詞や副詞の適切な使い方を学 ・日本の生活や文化について学ぶ。 | | | |
| 授業の内容 | 1. ガネ物① 2. 読み物② 4. 読み物③ 5. 読み物⑤ 5. 読み物⑥ 6. 読み物⑥ 8. 中計ののでは、 9. 読みのでは、 11. 読みのでは、 12. 読みのでは、 13. 読みのでは、 14. 読みのでは、 14. では、 15. では、 16. 期末がより、 16. 関本がより、 17. で内容について話して、 18. では、 19. で | | న ం | |
| 時間外学習 | 復習や小テストの準備などの時間外学習を必要とする。 | | | |
| 教科書 | 毎回、教材を配布する。 | | | |
| 参考書 | 参考書は指定しない | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への取組み・態度、小テスト等 出席率が 70%を割った場合は期末テ | • | , | |
| 備考・注意事項 | この授業は初級レベルを修了した学生上と判定された学生が対象である。持 | | | |

| 授業科目名 | 日本語 3 作文Ⅱ | | | |
|---------------------------|---|-------------|--------------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 木曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | 初中級レベルの文法、表現、語彙を使 程度の作文が書けるようになる。 | 使用し、身近な | トピックについて 600~700 字 | |
| 具体的な 到達目標 | ・段落を意識した作文が書けるようになる。 ・文の構成を理解し接続詞や副詞を効果的に使った文章を書く。 ・原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。 | | | |
| 授業の内容 | 1. ガイダンス 2. 許可を求める 3. 感謝を表す 4. 誘い、依頼を断る 5. 商品を宣伝する 6. 自己 PR する 7. 復習 8. 中間試験 9. イベント情報を伝える 10. 感情を表現する 11. アドバイスする① 12. アドバイスする② 13. 将来を予測する 14. 過去と現在を比較する 15. 復習 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 | | | |
| 時間外学習 | 各授業でペアワークや短い発表をする。 授業後の復習 発表の練習 | | | |
| 教科書 | 毎時間教師がハンドアウトを配布する。 | | | |
| 参考書 | 授業で提示する | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度・宿題(10%)、課題(20%)、発表(15%)、試験(55%) | | | |
| 備考・注意事項 | この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字300字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。出席率が70%以下の場合は期末試験を受けられない。 | | | |

| 授業科目名 | 多読で学ぶ日本語 | | |
|---------------------------|--|--|---|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 木曜 3限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | |
| 授業のねらい | 多読とは、辞書を使わないで読めるやで、効果的な外国語学習法です。この始め、少しずつ長さと日本語のレベルり速く、より多く読めるようになるだしています。 | 授業では、やさ を上げていくこ | しく短い読み物を読むこと から とで、日本語で書かれた 本をよ |
| 具体的な 到達目標 | ・日本語で書かれた本や多読用図書を ・本を読む習慣を身に付け、日本語で ・日本語を速く読む力、読解力、語彙 ・話す力と書く力を含む日本語能力を | 読むことに対す 力を身に付ける 向上させる | る抵抗をなくす |
| 授業の内容 | 教における。 教とでは、 を表すする。 を表すする。 を表すする。 を表すする。 を表すする。 を表すす。 のでででででする。 のででででする。 のででででする。 のでででする。 のでででする。 のでででする。 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの | 受業外でで、できる。 できる できれ かからい でいい からい でいい からい でっぱい でっぱい でっぱい でっぱい でっぱい でっぱい でっぱい でっぱ | るだけたくさんの本を読み ます。 て気付いたことを記録 し、提出 ます。 その他、物語を一つ書き を一冊選んでブックトレーラーを もめていくことが中心の授業で、 、ます。 紹介) |
| 時間外学習 | 多読を行う | | |
| 教科書 | 『レベル別日本語多読ライブラリー』 が用意する。 | 『日本語多読ブッ | クス』などの多読用 教材は教員 |
| 参考書 | 『多読で学ぶ英語』(2006, リチャート | ・デイ他) | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 多読した本の冊数(20%)、読書記録表書く(15%)、ブックトレーラーの発表 | | |
| 備考・注意事項 | プレイスメントテストでレベル3~6 | と判定された学: | 生を対象とする |

| 授業科目名 | 日本語4文法Ⅱ | | | | |
|---------------------------|--|----------------|----------|-------|-------|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推 | 進センター | (非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 | 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | | |
| 授業のねらい | 1年を通じて文法 I と文法 II を履修す 正しく使えるようにする。 | けることで、中 | 級レベル文 | 法の理解を | を深め、 |
| 具体的な 到達目標 | 名詞修飾や副詞・接続詞などを理解し | ン、適切に使え | るようにな | ることを目 | 指す。 |
| 授業の内容 | 日本語 4 文 文 注 I と I と I と I と I と I と I と I と I 表 | の言葉① | | | 学ぶ。 |
| 時間外学習 | 宿題・復習など毎週2時間程度の時間外学習を必要とする。 | | | | |
| 教科書 | 『中級日本語文法要点整理ポイント 20 』 スリーエーネットワーク社 | | | | |
| 参考書 | 『日本語基本文法辞典』『日本語文法辞典(中級編)』ジャパンタイムズ | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への取組み・態度等 (30%)、中 出席率が 70%を割った場合は、期末 | ` , | | ` ' | |
| 備考・注意事項 | この授業は日本語中級レベルの学習を 判定された者を対象とする。少なくと 授業は日本語でおこなう。 | | | | |

| 授業科目名 | 日本語4スピーキング | | | | |
|---------------------------|---|---|---|--|--|
| 担当教員 | 前田 京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期:木曜1限 後期:水曜2限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | | |
| 授業のねらい | 中級後半レベルの学習者を対象に、大面に対応できるスピーキング能力と聴ている大分県の情報を集め、町に出て、探り、日本について理解を深める。 | 解力の向上を目 | 指す。また、自分たちが暮 らし | | |
| 具体的な 到達目標 | クラスメートや日本人との日本語によるコミュニケーションを通じ、適切な表現を使用し、一般的な話題について正確かつ活発に会話ができる。 総合的な日本語の運用能力を高め、ある程度まとまった量の話ができる。 フォーマルな場面とインフォーマルな場面での表現の使い分けを習得する。 自然なスピードで話される様々な場面の会話を聞き取り、内容を説明できる。 | | | | |
| 授業の内容 | 前半の大分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分分 | が得る。 での結 での結 での結 での結 での結 でのま でのま でのま でのま でのま でのま でのま でのま | マを決め、日本人にインタビュー、テーマとした場 所を実際に訪 ビデオにま とめてクラスで発表) 析 ほし合い ニエラーの修正やフィードバック | | |
| 時間外学習 | を行い、各学生が自分の弱点に気付き、自ら修正できる能力を身につけることを目指す。 聴解練習、日本人へのインタビュー調査、実地調査準備、発表の準備など毎週 2 時 間 程度の時間外学習を課す。 | | | | |
| 教科書 | 『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中上級編』くろしお出版 | | | | |
| 参考書 | 『にほんご会話上手!』ask 出版 | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 宿題 (10%)、単語クイズ (10%)、中間試験 (30%)、期末試験 (15%)、 口頭発表 (10%)、 プロジェクト (15%)、クラス参加・態度など (10%) | | | | |
| 備考・注意事項 | 日本語 3 修了、またはプレースメンれることを履修の条件とする。 出席率が 70%以下の場合は、最終ブ | | | | |

| 授業科目名 | 日本語 4 読解 II | | |
|---------------------------|--|---|----------------------|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 金曜 2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 1-7667 y-ni: | shijima@oita-u.ac.jp |
| 授業のねらい | この授業のねらいは、論説文や小説、 文章を読みながら、中上級レベルの記 である。これらの読解を通して、日本 それぞれのテーマについて自ら考える | 吾彙や表現を習 の社会や文化へ | 得し、読解力を身に付けること |
| 具体的な 到達目標 | 1. 多様なジャンルのまとまった文章 2. 文章を読んで、未知の情報や筆記 3. 文章を読んで得た知識を身近なこ | 当の考えを正確 | に理解することができる。 |
| 授業の内容 | オリエンテーション/論説文① エリセイ① 論説文② エッセイ② 論説文③-1 論説文③-2 申請 小説① 論説文④-2 小説② 小説② 小説② エッセイ④ 無計 原表 場末試験 「学ぶための工夫】 「学がある作家、本人気がある作家、本人気がある作家、本人気がある作家、本人気がある作家、本人気がある作家の理解だけではなく、自身の問題ではなることで、自身の問題である。 | 是起されている | 問題やテーマについて、話した |
| 時間外学習 | 毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのための復習をする。 | | |
| 教科書 | 教材配布 | | |
| 参考書 | 西原純子他、『中上級学習者向け日本語 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | とを読む』アルク、2012 |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験(30%)、期末試験(30%)、 | 課題(20%)、 | 単語クイズ(20%) |
| 備考・注意事項 | このコースを受講できるかどうかは、 ベルの日本語学習者を対象とし、漢字 を前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期 | 字 500 字、語彙 | : 3000 語程度の知識があること |

| 授業科目名 | 日本語4作文Ⅱ | | | |
|---------------------------|--|--------------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 水曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 1-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | この授業のねらいは、さまざまなテーりやすく、詳細に文章が書けるように 学び、アカデミック・ライティングの | こなることであ | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. テーマに関連した語彙や表現を記 2. やや複雑なことでも、意見や情報 3. 800 字以上の論理的なレポートか | 最を伝えること | ができる。 | |
| 授業の内容 | 1. オリン () は () | を選んでいる。 苦手意識を克服 | する。また、ピアリーディング | |
| 時間外学習 | 原則として、毎週課題を提出する。 | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 藤尾喜代子、『大学で学ぶための日本語ライティング』ジャパンタイムズ、2006 杉浦千里、『書くことを楽しむ 中級作文』凡人社、2020 伊集院郁子『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』ASK、2020 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間レポート (30%)、期末レポート (30%)、各課題 (40%) | | | |
| 備考・注意事項 | このコースを受講できるかどうかは、 ベルの日本語学習者を対象とし、漢字 を前提としている。 出席率が70%に満たない場合は、期 | 字 500 字、語彙 | 3000 語程度の知識があること | |

| 授業科目名 | 日本語 4 応用 II | | | |
|---------------------------|--|-------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 月曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | |
| 授業のねらい | この授業は中級レベル日本語学習で能力を実践的な文脈に応用させるこのいて日本語で議論や分析を行うことで | とを目的として | いる。また様々なトピックにつ | |
| 具体的な 到達目標 | ・日本語で簡単なディスカッションが ・日本語で自己表現が行えるようにない ・日本の文化や社会についての理解を | なる 。 | なる。 | |
| 授業の内容 | 1. 2. 4. カラッカンス 2. メデデアアからららららららららららららららららららららららららららららららららら | | どを学び、学習者同士の簡単な | |
| 時間外学習 | 復習・課題など、毎週2時間程度の雪 | 学習を必要とす | る。 | |
| 教科書 | 毎回、教材を配布する。 | | | |
| 参考書 | 参考書は指定しない | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業での積極的な討議参加 (20%)、 その他課題 (20%)、期末試験 (30% | | (30%), | |
| 備考・注意事項 | この授業を履修する学生は、日本語写済みであること、または同時に履修る出席率が 70%に満たない場合、期末 | することを勧め | る。 | |

| 授業科目名 | 日本語5スピーキング | | | |
|---------------------------|---|-------------------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日•時限 | 前期:木曜 2限 後期:月曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | |
| 授業のねらい | この授業では、上級レベルの学習者I 内容の話ができるように、日本語会語 | | | |
| 具体的な 到達目標 | ・複数の段落で構成されたまとまりのある話が3分間程度できるようになる。 ・詳しい描写や複雑なことの説明、できごとの説明などができるようになる。 ・失礼にならない話し方や話題に適した話し方ができるようになる。 ・異なる考えを認めながら、よい話し手・聞き手になる。 | | | |
| 授業の内容 | 1. ガ自つではいいでは、 対しては、 対しては、 対しては、 対しては、 がいたが、 がいが、 がい | ける。 現的に学ぶこと | | |
| 時間外学習 | 単語やフレーズの復習、宿題など毎減 | 周2時間程度の | 時間外学習を必要とする。 | |
| 教科書 | その都度教材を配布する | | | |
| 参考書 | 『日本語上級話者への道』スリーエ- | ーネットワーク | <u></u> 社 | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への取組み・態度等(30%)、中間 出席率が70%を割った場合は、期末 | • • • | * * | |
| 備考・注意事項 | この授業は日本語上級レベルの学習を (成績 B 以上)、あるいはプレイスメン ことが必要である。 第1回目の授業で受講者を決めるため | ノトテストでレ | ベル5以上と判定されている | |

| 授業科目名 | 日本語 5 読解・作文 Ⅱ | | | |
|---------------------------|---|-----------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 水曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | |
| 授業のねらい | この授業は上級レベルの学習者を対象にし、日本語5読解・作文 I では扱わなかった 分野の論説文を読むことにより、専門分野の論文を読むための読解力の基礎をさらに 充実させることを目指す。それと同時に、日本語5読解・作文 I とは異なった作家の 短編小説を読み、さらに現代の日本文学に親しみ、論説文とは違う分野の語彙や表現 の習得を目指す。また、論理的な文章が書けるようになることを目指す。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 1200 字程度の短い論説文から 2000 字程度の論説文へと段階的にすすみ、内容を把握し、語彙や表現を増やす。 2. 論文を読むための基礎となる文章の論理構造について学び、大意を把握したり、必要な情報を読み取る。 3. 日本語で書かれた小説の内容を理解する。 4. 日本人の物の見方や考え方、日本文化などに触れ、意見を述べることができる。 5. 段落の構成について学び、文章の要約や意見文が書ける。 | | | |
| 授業の内容 | I. 読解: 各週、以下の構造に注目し、現在の日本社会で問題となっている話題に関した論説文を読む。 1. 書き言葉の特徴 2. 段落内の構造 3. アウトラインと複文 4. 文の構造と論の展開方法 1 5. 論の展開方法 2 (文末表現) 6. 要約 7. 中間試験 II. 作文: 各週、以下の文章の組み立て方や表現を習得し、作文を書く。 8. 作文の基本(文体と表現) と原稿用紙の使い方 9. 状況説明と意見の述べ方 10. 対比と比較のしかた 11. 文章の要約のしかた III. 小説: 各週、現代の短編小説を読み、内容を理解し、言葉や表現について学ぶ。 12-15. 小説 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 作文はピアリーディングによるフィードバックを行い、学生同士で学び合いができるようにする。ピアと教師両者によるフィードバックを参考にして書き直し、再提出す | | | |
| 時間外学習 | 本文の予習・復習、作文等毎週 2 時間 | 司程度時間外学習 | 日を課す。 | |
| 教科書 | 『大学・大学院留学生の日本語3 論文 その他ハンドアウトを配布する。 | に読解編』アルク | 7 | |
| 参考書 | 『大学・大学院留学生の日本語 2 作文編』アルク 『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』アルク | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、作文 (20%)、宿題(10%)、 クラス参加・態度など (10%) | | | |
| 備考・注意事項 | 受講可能かどうかはプレイスメントテ 文 I を受講している必要はないが、日 が望ましい。出席率が70%以下の場合 | 本語能力試験N | 1程度の日本語能力がある こと | |

| 授業科目名 | 日本語 5 文法 🏻 | | | |
|---------------------------|--|--------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 金曜 1 限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 1-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | 日常会話の多様な表現、あるいは大学 身に付けるため、中・上級表現文型と 運用する力をつける。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 上級レベル(N1)の日本語文法 2. 類似表現の意味や使い方の違いる 3. 類似表現の違いを理解したうえる | を理解できる。 | | |
| 授業の内容 | 1. オリンテーション/比較 2. 状別 3. 例情 5. 基準 6. 基準 6. 結中間能・ 7. 8. 中可意料 9. 意料 10. 料否定 11. 料否定 14. そ総括 15. 期末 12. 名のの 14. そ総括 15. 期末 16. 期がよりであるの 16. 期がよりでする。 17. はいかの 18. はいかの 19. はいかの 19 | = | | |
| 時間外学習 | 予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。 | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサ-チ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験(40%)、期末試験(40%)、 | 課題(20%) | | |
| 備考・注意事項 | この授業は上級レベルの学習者を対象法の知識があることを前提としているイスメントテストの結果による。 出席率が70%に満たない場合は、期 | る。このコース | を受講できるかどうかは、プレ | |

| 授業科目名 | 日本研究II | | | |
|---------------------------|---|----------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 南里 敬三、GAIA 教員 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 金曜 5限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097 | -554-7635 keiz | o-nanri@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | このコースは、日本語日本文化研修会 き上げることを目的とする。 | 生を対象として | おり、(日本語で)論文を書 | |
| 具体的な 到達目標 | 仮説の微調整とデータの収集の微調 身につける。論文の長さは1万字前行 | | 得し論文を書きあげる技術を | |
| | 第1 週 - 第5 週: 仮説の絞り込み。 【学生がより深く学べるための工夫】 抽象的仮説から具体的表現を使用した仮説へと移行していく。その一方でデータ 収集も始める。仮説が具体化していくのは通常5 月の初めから中旬にかけて。ステップ・バイ・ステップで論文指導をしていく。また、指導教員、論文支援チューター、日研生と三人がチームを組んで論文作成に当たるので安心して論文が書けるだろう。 第6 週 - 第10 週: 仮説の微調整とデータ分析。 【学生がより深く学べるための工夫】 集めたデータの中には実際に仮説の検証に必要なものとそうでないものがある。いらないデータがなんであるのか、それは仮説がしっかりたてられているかによる。自分の立てた仮説をしっかり理解してデータ分析を行う。データ分析の記述については既にテンブレートがあるのでそれに沿ってデータ分析の箇所を書いていく。 第11 週 - 第15 週: 論文を完成させる。 【学生がより深く学べるための工夫】アウトラインが出来上がり、それに沿って論文に文字通り肉付けしていく作業が中心となるが、仮説の採取調節とそれに基づいて論文の「はじめに」の部分などがこの段階で完成し、論文全体の完成となる。すべてステップ・バイ・ステップで進んでいくので安心して論文指導が受けられるだろう。 | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| | | | | |
| 時間外学習 | 3 時間の予習と1 時間の復習が必要である。 | | | |
| 教科書 | なし。 | | | |
| 参考書 | 学生の研究分野・テーマごとに必要7 | な参考文献リス | トを配布する。 | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 論文(100%) | | | |
| 備考・注意事項 | 論文の内容は、日研生プログラムの る。 | 開始時の日研生 | の日本語力にあわせて設定す | |

| 授業科目名 | 大学院入学前予備教育日本語初級集中 | | | |
|---------------------------|---|-------------|------------|--|
| 担当教員 | GAIA 教員 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 未定 | 学期 曜日・時限 | 未定 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 | | | |
| 授業のねらい | このコースは、国費留学生を対象としく、読むの四技能を学びます。文法記必要となります。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | ・基礎的な日常会話ができるようにない ・ひらがな、カタカナ、基本漢字の記 ・短い文章が読め、書けるようになる | 売み書きができ | るようになる | |
| 授業の内容 | 以下の場面で必要となる文法、表現、語彙を学ぶ 1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 数・時間を表す 4. 買い物 5. 予定を話す 6. 約束をする 7. 誘う 8. 場所を説明する 9. 過去のことを話す 10. 好き嫌いを表す 11. 理由を話す 12. 依頼する 13. 許可する 14. 禁止する 15. 家族紹介 【学生がより深く学べるための工夫】 学生はターゲットとなる文法について予め文法解説を読み、基礎知識を得た上で、CDで口頭練習を行ってから授業に参加する。授業内では実践に近い状況を設定し、教師対学生、学生対学生による会話練習を行う。 | | | |
| 時間外学習 | 各課の予習・復習など毎週2時間程原 | 度の時間外学習 | を課す。 | |
| 教科書 | 『初級日本語げんき I』(The Japan T 『初級日本語げんき I ワークブック | • | Times) | |
| 参考書 | 『日本語文法辞典』 (The Japan Times) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 小テスト・宿題 (30%)、 会話テスト (30%)、 期末テスト (40%) | | | |
| 備考・注意事項 | 大学院入学前予備教育の国費留学生を | を対象とする。 | | |

| 授業科目名 | 日本語3読解 I | | |
|--|---|-------------|-----------------|
| | | | |
| 担当教員 ———————————————————————————————————— | 大坪 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 水曜 2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | |
| 授業のねらい | 言葉を覚えながら、初中級レベルの3 | 文章が理解でき | るようになることを目指す。 |
| 具体的な 到達目標 | ・文章の構成を理解する。 ・文章の中から必要な情報をすばや・ ・接続詞や副詞の適切な使い方を学え ・日本の生活や文化について学ぶ。 | | |
| 授業の内容 | ガか物① 読み物① 読み物③ 読み物⑤ 読み物⑤ 読みり物⑥ 売みり間かり 読みりり 読みりり 読みりり 読みりり 読みりり 読みりり 読みりり 読みりり は、 <l< td=""><td></td><td>రం</td></l<> | | ర ం |
| 時間外学習 | 復習や小テストの準備などの時間外質 | 学習を必要とす | る。 |
| 教科書 | その都度教材を配布する | | |
| 参考書 | 参考書は指定しない | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への取組み・態度、小テスト等 出席率が 70%を割った場合は期末テ | , , | , , , |
| 備考・注意事項 | この授業は初級レベルを修了した学生上と判定された学生が対象である。打 | | |

| 授業科目名 | 日本語 3 作文 I | | | |
|---------------------------|---|-------------|--------------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 月曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | 初中級レベルの文法、表現、語彙を何程度の作文が書けるようになる。 | 吏用し、身近な | トピックについて 600~700 字 | |
| 具体的な 到達目標 | ・段落を意識した作文が書けるようし ・文の構成を理解し接続詞や副詞をす ・原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。 | | 文章を書く。 | |
| 授業の内容 | 1. ガイダンス 2. 自己紹介 3. みんなに友だちを紹介する 4. 依頼する 5. 物事を描写する 6. ニュースを伝える 7. 復習 8. 中間試験 9. 意見を述べる 10. 将来を予測する 11.考えを主張する 12. 日本人のイメージ 13. インタビューの準備 14. インタビューの結果とまとめ 15. 発表 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 | | | |
| 時間外学習 | 授業後の復習 発表の練習 | - | | |
| 教科書 | 毎時間教師がハンドアウトを配布する | 5 . | | |
| 参考書 | 授業で提示する | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度・宿題(10%)、課題(15%)、発表(20%)、試験(55%) | | | |
| 備考・注意事項 | この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字300字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。出席率が70%以下の場合は期末試験を受けられない。 | | | |

| 授業科目名 | 日本語4文法 [| | | |
|---------------------------|--|----------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 月曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | |
| 授業のねらい | 1年を通じて文法 I と文法 II を履修す 正しく使えるようにする。 | することで、中 | 級レベル文法の理解を深め、 | |
| 具体的な 到達目標 | 気持ちを表す助詞や、硬い文章、丁寧な表現などを理解し、適切に使えるようにな ることを目指す。 | | | |
| 授業の内容 | 日本語 4 文法 II と同じ教書を使い 3. ガイダンス 2. いろいろな働きをする助詞 3. 話題の働きをする言葉 1 5. 助詞の働きをする言葉 2 7. 助詞の働きをする言葉 3 8. 中間試験 9. 名詞化の方法②/語彙を広ずる 11. 語彙を立る言葉 3 8. 中間試化の方法②/語彙を広ずる 12. 硬いながる②がないないないないないないないないないないないないないないないないないないない | 1 | | |
| 時間外学習 | 宿題・復習など毎週2時間程度の時間 | 引外学習を必要 | とする。 | |
| 教科書 | 『中級日本語文法要点整理ポイントだ | 20 』スリーエ· | ーネットワーク社 | |
| 参考書 | 『日本語基本文法辞典』『日本語文法辞典(中級編)』ジャパンタイムズ | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への取組み・態度等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が 70%を割った場合は期末テストを受ける資格がない。 | | | |
| 備考・注意事項 | この授業は日本語中級レベルの学習者 判定された者を対象とする。少なくと 授業は日本語でおこなう。 | • | | |

| 授業科目名 | 日本語 4 読解 I | | | | |
|---------------------------|---|--------------------|----------------------------------|--|--|
| 担当教員 | 西島 順子 所属部局 国際教育推進セン | | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 金曜 1 限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 1-7667 y-nisl | nijima@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | この授業のねらいは、さまざまなテーながら、大学で必要なアカデミックである。また、読解を通して、日本社会ーマについて自ら考える力を身に付け | は文章を読むた 会に関する知識 | めの読解力を身に付けることで を得るだけでなく、社会的なテ | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 社会的テーマに関するまとまった文章を読むことができる。2. 文章を読んで、未知の情報やデータを正確に理解することができる。3. 文章を読んで、得た知識を身近なこととしてとらえ、考えが深められる。 | | | | |
| 授業の内容 | 1. オリエンテーション/わたしと日 2. わたしと日本② 4. わたしと日本④ 5. 子供と教育② 7. 子供と教育③ 8. 中間試験 9. 若者の感性① 10. 若者の感性② 11. 若者の感性④ 12. 若者の感性④ 13. 仕事への意識② 14. 仕事への意識② 15. 仕事への意識③ 16. 期末試験 【学生がより深く学ぶための工夫】 1つのテーマに、ディスカッションする | 5データで視野 | | | |
| 時間外学習 | 毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのため、復習をする。 | | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | | |
| 参考書 | 近藤安月子、『中級日本語教科書 わた 近藤安月子、『中・上級日本語教科書 | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験(30%)、期末試験(30%)、 | 課題(20%)、 | 単語クイズ(20%) | | |
| 備考・注意事項 | このコースを受講できるかどうかは、 ベルの日本語学習者を対象とし、漢写 を前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期 | 字 500 字、語彙 | : 3000 語程度の知識があること | | |

| 授業科目名 | 日本語 4 作文 I | | | |
|---------------------------|---|----------------|----------------------------------|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 木曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 1-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | この授業のねらいは、大学生活で必要 トや発表原稿、メールなどが書ける。 さわしい表現や文型を学ぶ。また、記 | ようになること | である。そのために、状況にふ | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 状況(メール・レポート・発表版 2. 身近なことであれば、やや複雑が 3. 800 字以上の論理的なレポートが | なことでも説明 | できる。 | |
| 授業の内容 | 1. オリスクランション (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4 | ール、基本 トンメール | ぶ。場面や条件を設定して、具 る。また、ピアリーディングを | |
| 時間外学習 | 原則として、毎週課題を提出する。 | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 石黒圭、『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク、 2009 友松悦子、『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク、2008 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間レポート(30%)、期末レポート | (30%)、各課 | 題(40%) | |
| 備考・注意事項 | このコースを受講できるかどうかは、ベルの日本語学習者を対象とし、漢字を前提としている。 出席率が70%に満たない場合は、期 | 字 500 字、語彙 | 3000 語程度の知識があること | |

| 授業科目名 | 日本語 4 応用 I | | |
|---------------------------|---|-------------|-----------------|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 火曜 1限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | |
| 授業のねらい | この授業は中級レベル日本語学習で設定がある。 能力を実践的な文脈に応用させることが いて日本語で議論や分析を行うことで | とを目的として | いる。また様々なトピックにつ |
| 具体的な 到達目標 | ・日本語で簡単なディスカッションが ・日本語で自己表現が行えるようにない ・日本の文化や社会についての理解を | なる 。 | なる。 |
| 授業の内容 | 1. 2. 3. 4. ガメディアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア | • | どを学び、学習者同士の簡単な |
| 時間外学習 | 復習・課題など、毎週2時間程度の雪 | 学習を必要とす | る。 |
| 教科書 | 毎回、教材を配布する。 | | |
| 参考書 | 参考書は指定しない | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業での積極的な討議参加 (20%)、 その他課題 (20%)、期末試験 (30% | | (30%)、 |
| 備考・注意事項 | この授業を履修する学生は、日本語写済みであること、または同時に履修る出席率が 70%に満たない場合、期末 | することを勧め | る。 |

| 授業科目名 | 日本語 5 読解・作文 I | | | | |
|---------------------------|---|-------------|-----------------|--|--|
| 担当教員 | 大坪 美奈子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 水曜 1限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp |) | | | |
| 授業のねらい | 1. 上級レベルの学習者を対象に、レポートや学術論文などを読むために必要な文法 知識や文章構造に関する知識を学びながら、論文を独力で読めるようになるため の基礎的読解力を養成する。 2. 短編小説を読み、現代の日本文学に親しむことと、論説文とは異なった分野の語 彙や表現の習得を目指す。 3. 専門的な文章を書くために必要な作文の基礎知識も学ぶ。 | | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 1200 字程度の短い論説文から、2000 字程度の論説文へと段階的に進み、内容を理解するとともに、論文を読むために必要な文法知識や語彙、表現を増やす。 2. 文章の論理構造について学び、大意を把握したり、必要な情報を素早く読み取る。 3. 日本語で書かれた小説を読み、内容を説明できる。 4. 日本人のものの見方や考え方、日本文化に触れ、意見を述べることができる。 5. 段落の構成について学び、説明文が書ける。 | | | | |
| 授業の内容 | 1. 読解:各週、以下の文章の論理構造に注目し、現在の日本社会で問題となっている話題に関した論説文を読む。 1. 書き言葉の特徴 2. トピックとメインアイデア、助詞相当語 3. 中心文と支持文、指示表現 4. 引用、接続表現と予測 5. 論の方向を示す表現、事実と筆者の考え 6. 段落構成 7. 中間試験 II. 作文:各週、以下の文章の組み立て方や表現を習得し、作文を書く。 8. 作文の基本と原稿用紙の使い方 9. 書き言葉の使い方 10. 課題の提示のしかた 11. 定義と分類のしかた III. 小説:各週、現代の短編小説を読み、内容を理解し、言葉や表現について学ぶ。12-15. 小説 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 作文はピアリーディングによるフィードバックを行い、学生同士で学び合いができるようにする。ピアと教師両者によるフィードバックを参考にして書き直し、再提出する。 | | | | |
| 時間外学習 | 本文の予習・復習、作文等毎週 2 時間 | | | | |
| 教科書 | 『大学・大学院留学生の日本語3 論文 その他ハンドアウトを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 『大学・大学院留学生の日本語2 作文 『大学・大学院留学生の日本語4 論文 | | , | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、作文 (20%)、宿題(10%)、 クラス参加・態度など (10%) | | | | |
| 備考・注意事項 | 受講可能かどうかはプレイスメントテ 試験N1程度の日本語能力があること: 験を受ける資格がなくなる。 | *** | | | |

| 授業科目名 | 日本語 5 文法 I | | | | |
|---------------------------|--|--------------|----------------------|--|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 金曜 2限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階306番 097-554 | 1-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | 日常会話の多様な表現、あるいは大学 身に付けるため、中・上級表現文型と 運用する力をつける。 | | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 上級レベル(N1)の日本語文法 2. 類似表現の意味や使い方の違いる 3. 類似表現の違いを理解したうえて | を理解できる。 | | | |
| 授業の内容 | 1. オリカー 1. オリカー 1. オリカー 2. 付時間接 4. 時間接 4. 時間接 4. 時間接 5. 条 接 中当強制 10. 心様程 2. 総制 11. 様程 4. 時間 5. 6. 接 中当強制 11. 様程 4. 機関 11. 様程 4. 機関 11. 様程 4. 機関 12. 43. 44. 表 数 4. 表 数 4. 表 数 5. 数 4. 表 数 5. 数 | _ | | | |
| 時間外学習 | 予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。 | | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | | |
| 参考書 | 友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサーチ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008 | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験(40%)、期末試験(40%)、 | 課題(20%) | | | |
| 備考・注意事項 | この授業は上級レベルの学習者を対象法の知識があることを前提としているイスメントテストの結果による。 出席率が70%に満たない場合は、期 | る。このコース | を受講できるかどうかは、プレ | | |

| 授業科目名 | レポート・論文作成 | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 木曜 3 限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3 - 6 番 097-554 | | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | この授業の目標は大学生として適切 ある。そのためにレポートや論文の特テーマの選び方や文章の構成にも目で く。 | 寺徴を知り、適 | 切な語彙や文体を学ぶ。また、 | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 話し言葉と書き言葉の語彙や文化 2. レポートを書くために必要な表現 3. 序論・本論・結論の構成で500 | 見文型を使用で | きるようになる。 | |
| 授業の内容 | 1. オリウス (硬い文) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1 | 章表現) 最初、誤用や 削をさせてもう | 問題のある個所を指摘するにと | |
| 時間外学習 | 予習を行う。また、毎月課題があるの 作成する。 | ので、授業で学 | んだことを復習し、レポートを | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 田中真理、『Good Writing へのパスポート』くろしお出版、2014 二通信子、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京 大学出版会、2009 浜田麻里、『論文ワークブック』くろしお出版、1997 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 各課題レポート(各 20%×3 回)、期 | 用末レポート(4 | 40%) | |
| 備考・注意事項 | 超級レベルの日本語学習者を対象に、 術の向上を目指す。受講者数は 20 名 かは、プレイスメントテストの結果 出席率が 70%に満たない場合は、期 | 3程度とする。 こよる。 | このコースを受講できるかどう | |

| 授業科目名 | 日本研究 I | | | | |
|---------------------------|--|----------------|-----------------------|--|--|
| 担当教員 | 南里 敬三、GAIA 教員 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 金曜 5限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097 | -554-7635 keiz | zo-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | このコースは、日本語日本文化研修会 くにあたっての下準備を行うことに | | おり、(日本語で)論文を書 | | |
| 具体的な 到達目標 | 論文を作成する上にあって最も重要な仮説の設定と仮説の検証に当たってどのようなデータを収集すべきなのかという2点において明確な計画を立てることにある。 | | | | |
| 授業の内容 | 第1週 - 第5週: 研究分野の絞り込み。 【学生がより深く学べるための工夫】 日研生が本当に研究したい分野とは何なのか、ディスカッションしながら絞り込んでいく。日研生自身が選んだトピックは最初は漠然としていているので、そのトピックを選んでどのようなことが論文に書けるのか、データは実際に集まるのか、等をテーマに論文書きのプロセスをシミュレーションしながらディスカッションをしていく。 第6週 - 第12週: 論文の構造も視野に入れた研究テーマの絞り込み。 【学生がより深く学べるための工夫】 研究分野が絞りこめてきたら今度は研究テーマを明確化していく。そのプロセスで一番大切なのは仮説の設定である。論文書きで最も大変なのはこの仮説の設定であるが、これも、シミュレーションをしながらおこなう。仮説を立ては少量のデータを集め分析を行い、仮説が実際に証明されそうであるかを考えてみる。そうやって仮説の修正とデータ収集の修正を行いながら、どんな仮説を立ててどのようなデータを集めれば学問的貢献が行えるのかを徹底してディスカッションする。 第13 週 - 第15 週: アウトライン作成。 【学生がより深く学べるための工夫】 | | | | |
| 時間外学習 | 3 時間の予習と1 時間の復習が必要 | である。 | | | |
| 教科書 | なし。 | | | | |
| 参考書 | 学生の研究分野・テーマごとに必要な参考文献リストを配布する。 | | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 論文のアウトラインの提出(50%)、アウトラインの口頭説明(50%)。 | | | | |
| 備考・注意事項 | | | | | |

2. グローバル科目

(留学生・日本人学生向け科目)

(使用言語:日本語/日本語と英語/英語)

| 授業科目名 | 日本語文法分析 | | | |
|---------------------------|---|--|--------------------------------------|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟3階3-6番 097-554 | 4-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | 日常接している日本語を様々な観点が を通じて、日本語を言語として深く現 特徴を分析する力を養う。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 言語学の基本的な考え方を学び、 2. 日本語と他の言語を比べ、共通, 3. 外国語としての日本語を効果的/ | 点と相違点が説 | 明できる。 | |
| 授業の内容 | 1. オリエンテン : 1 を : 1 を : 2 を : 2 を : 3 : 言語学からる : 2 を : 3 : 1 を : 3 : 言語学からる : 2 を : 3 : 1 を : 3 : 1 を : 3 : 5 を : | 言語の特徴 言語の機能 型/助詞/自・他 授受表現/敬語 成 | 様々な観点から分析する。その | |
| 時間外学習 | 毎週出される課題を行う。 グループ発表や模擬授業の準備をする。 | | | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 原沢伊都夫、『日本語教師のための人 ーク、2016/伊坂淳一、『新ここから 洋平、『日本語教育のスタートライン 『日本語教師のための応用認知言語 | 。はじまる日本記 /』スリーエー? | 語学』ひつじ書房、2016/荒川 ネットワーク、200/荒川洋平、 | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 期末試験(50%)、模擬授業(30%) | 、課題(10%) | クラス参加・態度(10%) | |
| 備考・注意事項 | 出席率が 70%に満たない場合は、期 留学生は日本語能力試験 N1 と同等し | | | |

| 授業科目名 | ビジネスジャパニーズ演習 3 | | | |
|---------------------------|--|----------------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 月曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | このコースは、江漢大学「3+1」プロ るニュースを聞き取り、新聞記事を記 に、それらの情報を用いて意見を述べ | 売み解く能力の [®] | 習得を目指すものである。さら | |
| 具体的な 到達目標 | ・経済に関するニュース、新聞記事の内容を理解することができるようになる。 ・ニュース、新聞記事の内容を整理し、要点をまとめることができるようになる。 ・ニュース、新聞記事の内容を正確に分かりやすく伝え、さらに議論することができるようになる。 | | | |
| 授業の内容 | 1.コースの概要説明 2.情報選択の重要性 3.新聞記事を読む 4.新聞記事の要約 5.新聞記事の批評 6.ニュースを聞く 7.ニュースの要約 8.ニュースの批評 9-13.チームで情報を選び、意見を述べる 14.発表 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 インターネットニュースなどから適切な情報を選択し、調査する。 チームによるディスカッション及びディベートの実施。 発表を録画し、ルーブリックを用いた自己評価、フィードバックを行う。 | | | |
| 時間外学習 | 日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、ニュース、新聞等に触れる習慣を身に付けること。 | | | |
| 教科書 | 経済問題を扱ったニュースなどの動画、新聞記事、ハンドアウト | | | |
| 参考書 | 日本語辞書など(その他授業で提示) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度·宿題(15%)、聴解(10%)、読解作文(15%)発表(15%)、期末試験(45%) | | | |
| 備考・注意事項 | 本コースは上記以外の留学生も受講す | 可能とする。 | | |

| 授業科目名 | ビジネスジャパニーズ演習 4 | | | |
|---------------------------|---|-----------------|------------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 1限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | このコースは、江漢大学「3+1」プロで、ビジネス場面に必要な会話能力る。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | ・企業について客観的に分析し、丁崎・様々なリソースを用いて必要な情報 ・ビジネス場面におけるマナー、会話 | 報を集め、まと な | めることができるようになる。 | |
| 授業の内容 | 1.コースの概要説明 2.3.産業・確・企業について 4.調査対象(企業)の選択 5.チームによる企画書の作成 6.情報とマナー 8.ビジネスメールを書く 9.メールを書く 9.メールを書の作成 11.中間報告 12.発表の仕方 13.情報を理 14.プレゼンテーり返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 チームでの報告書作成に加え、個人 | | | |
| 時間外学習 | 日本の社会や企業に関心を持ち、情報を集める。 また、改まった場面でのコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。 | | | |
| 教科書 | ハンドアウト | | | |
| 参考書 | 日本語辞書など(その他授業で提示) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度(10%)、課題(20%)、プ | レゼンテーショ | ン(25%)、期末試験(45%) | |
| 備考・注意事項 | 本コースは上記以外の留学生も受講す | ————— 可能とする。 | | |

| 授業科目名 | 狂言で大分を学ぶ | | | |
|---------------------------|---|-------------|---------|---------------|
| 担当教員 | 南里敬三,西島順子 | 所属部局 | 国際教育推進 | センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 火曜 | 4限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097- 教養教育棟 3 階 6 番 097- | | _ | |
| 授業のねらい | 日本の伝統芸能である狂言の基本をで作成しそれを実際に能の舞台で演じるできる人材を育てる。 | | | · · · · · · - |
| 具体的な 到達目標 | 狂言の歴史が語れるようになる。狂言の舞台で演じることで日本の伝統芸術 特徴に精通し、リサーチに基づいた教 | 能を体験する。 | 大分地域の特定 | €の文化・社会的 |
| 授業の内容 | 第1週:オリエンテーションと狂言の歴史・プロット 第2週:狂言の基本動作 第3-6週:狂言のプロット 第6週:狂言ワークショップ(能楽堂) 第7-12週:シナリオ作成 第13-15週:シナリオ修正・演技指導 第16週:演技審査(能楽堂) 【学生がより深く学べるための工夫】 座学で知識を得るだけではなく、プロの狂言師の指導を受けつつ実演するという 機会を与える。オリジナルのシナリオ作成のために大分に関する情報を積極的に 探索させる。 | | | |
| 時間外学習 | 狂言の発声・基本動作・演技について 作成のための取材、及び、シナリオイ | | | |
| 教科書 | 授業中にプリントを配布する。 | | | |
| 参考書 | 授業中に参考図書のリストを配布する。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | レポート:狂言とは(10%)、プロットアウトライン(5%)、シナリオ提出1(5%)、シナリオ提出2(5%)、シナリオ提出3(5%)、シナリオ提出4[最終版](10%)、中間演技発表(10%)、最終演技(50%)[最終演技内わけ:台詞の暗記20%、演技15%、シナリオ15%]。 | | | |
| 備考・注意事項 | 70%以上の出席がない場合は不合格の生の参加は10名を上限とし、受講者会マンスを毎回2%とする。また参加者とする。 | 全員の制限を20 | 名とする。授業 | 美でのパフォー |

| 授業科目名 | Sustainability and Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分 2 | | | |
|---------------------------|---|--|--|--|
| 担当教員 | ブルカート香織 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | Spring: Thursdays 4 th 前期:木 4 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3階 3 | 香 097-541-6 ⁻ | 171 kburkart@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | 大分の環境や人間社会の持続可 るために不可欠な知識を身近な | 「能な発展につい テーマから積み 可能な発展を支 | する身近なテーマを通じて、世界や て考える。持続可能な未来を創造す 上げ、学生自身の価値観をと向き合 援する姿勢を育み、自ら考え行動す | |
| 具体的な 到達目標 | | がいかに国際的問 | T究・調査を行う。 引題でありうるかを知る。 この考えを振り返ってまとめる。 | |
| 授業の内容 | 【学生がより深く学べるための 学生は、講義時間内外で計画さ ィスカッション、クイズゲーム | 円貨り属 画りす ヨヨヨカー はい おいま でき はい おいま いい はい はい はい はい はい はい はい はい はい ない はい はい ない はい | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| 時間外学習 | 2回オンラインディスカッションを設ける。インタビュー、フィールドワークや研修・見学に参加するなどの時間外学習も重要な一部とみなす。 | | | |
| 教科書 | 教材・資料は担当教員が配布す | る。 | | |
| 参考書 | 参考資料は随時クラスのウェブ | ブサイト Moodle I | こ掲載する。 | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40% | | | |
| 備考・注意事項 | とんど英語で行われる。授業中 | のディスカッシ | 学ぶための融合クラスで、 <u>講義はほ</u> ョンやオンラインディスカッション もしくは日本語のいずれかの言語で | |

| 授業科目名 | 歩いて楽しい街:大分と別府 | | | | |
|---------------------------|---|----------------|-----------------------|--|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 金曜 3限 | | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097- | -554-7635 keiz | zo-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | 大分市並びに別府市を人が集まる都で 考察する。考察の対象はJR大分駅周辺 区。 | | | | |
| 具体的な 到達目標 | (1)大分市の文化施設と他都市の文化施設を比較し、文化施設の工夫とは何であるかを理解する。(2)別府の古民家利用状況を確認し建物の持つ文化的価値を認識する。(3)温泉という観光資源がどこまで世界に通用するのか認識する。(4)ネット上に仮想コミュニティーを構築し大分・別府をプロモートする方法を考える。 | | | | |
| 授業の内容 | 第1回:オリエンテーション。 第2回:大分市中心部には何がある?デザイン思考で大分市立美術館を評価する。 第3回:デザイン思考をしっかり学ぶ 第4回:歴史を活用する 第5回:大分市で人を回遊させる 第6回:発表 1 第7回:別府を知る 第8回:変わりゆく観光、変わりゆく日本 第9回:研修旅行(別府) 第110回:鉄輪を知る 第11-13回:インターネットで仲間を作り、イベントを企画する 第14回:プロジェクトディスカッション(大分をプロモートする) 第15回:発表2 【学生がより深く学べるための工夫】 授業はグループディスカッションの形をとる。各グループには議長と書記がおり、この両者がグループのまとめ役となり、グループ全員が授業内容を理解しているかを確認する。また、毎週の課題提出を通して受講者の理解度のモニタリングを行い、理解が弱い箇所があれば復習を行い受講者の理解を確実なものにして | | | | |
| 時間外学習 | いく。 予習1 時間、復習2 時間が必要。 | | | | |
| 教科書 | プリントを授業で配布する。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に参考文献のリストは配布され | 1 る。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 発表 1 (20%) 、発表 2 (30%) 、課題 (10回×5%) | | | | |
| 備考・注意事項 | このコースは日本語と英語で行われる 受講者に留学生がいてコロナで渡日が は全てオンラインで行う。 | | | | |

| 授業科目名 | 大分地域理解 | | | |
|---------------------------|---|-----------------------|---|--|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期 水曜 2限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3 - 6 番 097-554 | 1-7667 y-nis | shijima@oita-u.ac.jp | |
| 授業のねらい | この授業は複数の文化や言語の視点をもって、大分の社会や歴史を学ぶ。グループワークやフィールドワークを通じて、大分を深く理解するだけではなく、異なる背景を持つ日本人学生と留学生が議論し、多様な文化や考え方から地域の問題の解決策を考察する。また、複数の言語を用いて、インターネット上に活動内容を報告することを通して、多様な言語に接し、それらへの関心を高める。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 大分という地域が持つ歴史や社会 2. それら活動を通して、異なる文化 3. 母語+1言語で活動することによ | とや言語を持つ | 者が議論し、相互理解する。 | |
| 授業の内容 | 1. オリンテーション/大分の基本 大分の連盟 | | 2回分) を明確化) 研究所・資料館;授業2回分) 方) 更することもある は複言語・複文化主義を理解し | |
| 時間外学習 | 予習、報告、フィールドワークのため | めの準備、発表 | のための準備を行う。 | |
| 教科書 | 教材配布 | | | |
| 参考書 | 参考資料は課題ごとに Moodle に掲載 | はする | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | フィールドワーク参加(10%×2)、ディスカッション(10%×2)報告(10%×2)、 最終発表とレポート(30%)、クラス参加・姿勢(10%) | | | |
| 備考・注意事項 | 積極的に課題に取り組む学生を対象の 30名を上限とする。 留学生は中級〜超級の日本語学習者で 字、語彙3000程度の知識があること 出席が70%に満たない学生は、最終 | を対象とする。中 : を前提とする。 | □級レベルの学習者は、漢字 500 | |

| 授業科目名 | 異文化コミュニケーション | | | |
|---------------------------|--|----------|-----------------------------|--|
| 担当教員 | 長池一美 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期・曜日・時限 | 前期:火(3限) 後期:月(3限) | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | グローバル化の時代において異文化コミュニケーションの知識や実践力を身に着けることが必要です。 この授業では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識と理論を学びます。 前半では日本と日本人を軸にしたトピックについて学び、後半では世界に目を向け、グローバリゼーション、多文化主義などの問題について学びます。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 日本の社会と文化の特徴を理解する: 学生は日本の社会社会・文化構造に関する 基本的な概念を説明することができる。 2. 異文化間コミュニケーションに関する理論的視点の習得: 学生は異文化間コミュニケーションの主要な理論を説明できる。 3. 多文化主義の必要性を理解する: 学生はより広い多文化の文脈の中で社会状況を 分析することができる。 | | | |
| 授業の内容 | 1) コースの概要について 2) 異文化間コミュニケーションとは何か 3-5) 日本社会の分析と日本人の心理分析(本音と建前、内と外、義理、集団意識、贈答、先輩と後輩、甘えなど) 6) ジェスチャーと非言語コミュニケーション 7) オリエンタリズムとテクノオリエンタリズム (ハリウッド映画の分析など) 8) ナショナリズムと想像の共同体 9) 多文化主義 (例:アイヌ民族の問題) 10) コミュニケーションとマスメディア (例:日本のマスメディアにおける外国人のステレオタイプ) 11) カルチャーショック 12-13) アジアの中の日本 (例:靖国神社の問題) 14-15) グループプロジェクト 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。 | | | |
| 時間外学習 | 指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。 | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | |
| 参考書 | 第一回授業で配布。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への積極的な参加 20% プロジェクト 30% 期末試験 50% | | | |
| 備考 | この授業の使用言語は主に 発表の言語は英語ですが、身 | | 説明があります。プロジェクト 日本語が選べます。 | |

| 授業科目名 | 日本ポピュラー・カルチャー研究 | | | |
|------------------|-------------------------------------|--------------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 長池一美 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期・曜日・時限 | 前期:水(4限) | |
| 担当教員の | | | | |
| 研究室 | 教養教育棟 3 階 3-4 番 097- | 554-7953 nagaike@o | ita-u.ac.jp | |
| 電話・e-mail | | | | |
| | 「ポピュラー」という単語に | はしばしば「Low=ロウ」 | (質の低い)というように解釈さ | |
| | れたが、ポピュラー・カル・ | チャーは社会・文化を分れ | 折する上で欠かすことのできな | |
| | い研究分野として注目されて | てきている。このコース | では日本のポピュラー・カルチ | |
| 授業のねらい | ャー(例 アニメ、アイドル | レ、ラノベ、映画、2.5 次 | 元等)がどのように現代日本社 | |
| | 会の特徴と問題を扱っている | るかについて考察する。 | そのうえで、日本社会、ならび | |
| | に海外における日本のポピ | ュラー・カルチャーの受 | 容について議論する。この授業 | |
| | では各時代やジャンルを代表 | 表的する作品の分析を行 | う。 | |
| | 1. ポピュラー・カルチャー | -を通して日本社会の在 | り方に精通する。 | |
| 具体的な | 2. 日本のポピュラー:カル | レチャーのグローバル化 | を通して文化を比較する視点を | |
| 到達目標 | 養う。 | | | |
| | 3. ポピュラー・カルチャー研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する | | | |
| | 1) コースの概要について | (ポピュラー・カルチャ- | ーとは?) | |
| | 2) 浮世絵(前近代のポピュラ | ラー・カルチャー) | | |
| | 3-5) アニメ | | | |
| | 6-7) ポップミュージックとアイドル | | | |
| | 8) ライトノベル 9-11) 映画 | | | |
| 授業の内容 | | | | |
| | 12) 声優 | | | |
| | 13) 2.5 次元 | | | |
| | 14)復習 | | | |
| | 【学生がより深く学べるたと | | | |
| | | ルーフ) ティスカッショ | ン、プロジェクト準備・発表を | |
| | 中心として構成される。 | 注」 | | |
| 時間外学習 | | | て、要約を行っておくこと。課 | |
| | 題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。 | | | |
| 数科書 ———————— | 特に指定しない。 | | | |
| 参考書 | 第一回授業で配布。 | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への積極的な参加 200 | % | | |
| 及び評価割合 | プロジェクト 30% | | | |
| ~ C FI M F 1 L | 期末試験 50% | | | |
| | この授業の使用言語は主に | 英語ですが、日本語での | 説明があります。プロジェクト | |
| 備考 | 発表の言語は英語ですが、 | 期末試験の言語は英語か | 日本語が選べます。 | |

| 授業科目名 | 日本の美学とファッションメデ | ィア研究 | | | | |
|----------------|---|------------------------|--------------------|--|--|--|
| 担当教員 | 長池一美・南里敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | | | |
| 単位 | 2 | 学期・曜日・時限 | 前:水(3限) 後:金(4限) | | | |
| 担当教員の | 教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | | | | | |
| 研究室 | 教養教育棟 3 階 3-3 番 097-554- | 7635 keizo-nanri@oita- | u.ac.jp | | | |
| 電話・e-mail | | | | | | |
| | 日本のファッションは各時代の | ブームと共にそれを象徴する | 美意識を生み出してきた。ファッシ | | | |
| | ョン雑誌の構成も時代のファッ | ションブームや美意識に比例 | するかのように様々な方程式を生み | | | |
| 授業のねらい | 出している。この授業では特に | 女性向けのファッション雑誌 | のレイアウト、記事内容(コンテン | | | |
| | ト)、読者などを分析し、表現さ | れている日本独自の美学につ | Oいて学ぶ。また、日本社会、ならび | | | |
| | に海外における日本のファッシ | ョン文化の受容について議論 | iし、グローバルな視野を身に付ける。 | | | |
| 具体的な | 1. 日本のファッション文化を記 | 通して日本社会の在り方に精 | 通する。 | | | |
| 到達目標 | 2. 日本のファッション文化を済 | 毎外の文化と比較することに | より、グローバルな視点を養う。 | | | |
| 到连口保 | 3. プロジェクトを通して、身 | こ付けた知識をアウトプット | する方法を学ぶ。 | | | |
| | ● 「かわいい」の歴史 | | | | | |
| | ● 「異装文化」の歴史 | | | | | |
| | ● ジャズエイジの女性ファッション (1920 年代 to 1945 年) | | | | | |
| | ● ブルージーンズと学園紛争(194 年 5-1970 年代) | | | | | |
| | ● 男性キレイめファッションの誕生(1945 年-1960 年代)とプレゼンテーション | | | | | |
| | ● 男性ファッションと日本の高度経済成長(1960 年代-1980 年) | | | | | |
| | ● 女性キレイめファッション | の誕生(1945 年-1980 年) | | | | |
| 授業の内容 | ● シブカジファッションとバブル経済(1970 年-1992 年)とプレゼンテーション | | | | | |
| | ニュートラからコンサバま | で(1980年-2006年) | | | | |
| | ● ギャルファッションとキャ | バ嬢ファッション(1992-20 | 12) | | | |
| | ● 女性キレイ目ファッションの発生から終焉まで (1970-2021) | | | | | |
| | ● コスプレ文化 | | | | | |
| | ● クィアファッション文化(女装・男装) | | | | | |
| | 【学生がより深く学べるためのご | 工夫】 | | | | |
| | この授業はレクチャー、(グルー | プ)ディスカッション、プロ | 1ジェクト準備・発表を中心として構 | | | |
| | 成される。 | | | | | |
| 時間外学習 | | | を行っておくこと。課題や自主研究 | | | |
| | に週4時間取り組む必要がある。 | | | | | |
| 教科書 ———— | 特に指定しない。 | | | | | |
| 参考書 | 第一回授業で配布。 | | | | | |
| 成績評価の方法及 | 授業への積極的な参加 20% | | | | | |
| | プロジェクト 50% | | | | | |
| が評価割合 期末試験 30% | | | | | | |
| 備考 | この授業の使用言語は主に英語 英語ですが、期末試験の言語は | | ります。プロジェクト発表の言語は | | | |

| 授業科目名 | 日本の歴史・文化・社会入門 | | | |
|---------------------------|---|-------------|----------------------|--|
| 担当教員 | 長池一美 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期・曜日・時限 | 前期:月(3限) 後期:水(4限) | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 <u>nagaike@oita-u.ac.jp</u> | | | |
| 授業のねらい | この授業では日本の歴史、神 | 社会、文化の基本的な事 | 項を学ぶ。 | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 日本の歴史に精通する。 2. 日本文化の特性を理解する(特に前近代)。 3. 現代日本の社会の特性を理解する。 4. 日本の伝統文化の体験(例 茶道)から日本について学ぶ。 | | | |
| 授業の内容 | 1) コースの概要について 2~5) 歴史 6~7) パフォーマンスアート(能 文楽 歌舞伎 宝塚) 8) 家族と家制度 9~10) 日本の伝統文化体験 11~12) 企業と労働 13) 宗教と道 14) 古典文学と美学 15) 復習 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッションを中心として構成される。授 | | | |
| 時間外学習 | 業の理解度を図るためにトピックごとの小試験が課せられる。 指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。 | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | |
| 参考書 | 第一回授業で配布。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業への積極的な参加 300 小試験 30% 期末試験 40% | % | | |
| 備考 | この授業の使用言語は主に試験の言語は英語か日本語が | | 説明があります。小試験、期末 | |

| 授業科目名 | 多文化健康・福祉・心理共同学習 | | | |
|---------------------------|--|--|---|--|
| 担当教員 | ラングリー レイモンド 松本 由美 | 所属部局 | 福祉健康科学部 | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 前期(集中講義) 曜 限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 福祉健康科学部研究棟 1 階 097-554-6117・langley@oita-u.ac.jp 心理カウンセリング、社会福祉および | 『田学療士の担 | | |
| 授業のねらい | の取組みと、健康科学の多様な側面を | | | |
| 具体的な 到達目標 | 自国の健康科学実践と、他国との比較 | だにおける類似が | 点・相違点を広く深く理解する。 | |
| 授業の内容 | 理解の決せっ、私するのは一の一学一ル 【 多し活までは、るす出れ題決でとに・日はがよって学生がおいいのようが国は、、るす出れ題に他の関一較本何の考部し含者 べ 生景のおして、たちははばりょのかって学まながといいの出のいずにのを役えのままえ べ でとに・日はがよりですれる る がまれるがよいのははま、、カラの展一ので変すれる ないの出のいずにのを役えのままえ べ 生景のよいのようが自はま、、カラの展一のでですれる ないの出のいずにのを役えのままえ べ 生景のまれる ないの出のいがよりですれる る がままれる ないのは一ののま留業。心 の すすシン、たちからメレーのののま留業。心 の すすシン、たちからメレーののを役えのままます。 と で 学書による ない は といる は は が よす 学の 受配 エ るるョン は を で が よ と で とに・日はがよす学の 授配 エ るるョン は を で は ま と で で は ま と で で とに・日はがよす学の 授配 エ るるョン は ま と で で は ま と で で は ま と で で は ま と で で は ま と で で は ま と で で は ま と で で で は ま と で で は ま と で で で と で で と で で と で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で で と で で で と で で と で で と で で と で で で と で で で と で で で で で で で で で と で | いて一えいるま止り止ぎ冷きこ を去でし とりいて一えいるま止り止ぎ冷きこ を去でし がに問国で国にめはつす践心にでな 象は英い 見特題は、々取の日い。を理対しる と、語で 込定にこ各がり方本て例学力応ょの し講とく まのいれ国、组法のもえ習ウすうで ま義日だ れトからはリルを健学ばしンるかし す、本さ るピ | に面解ンよ。とある国ソら 留テべ たッカのこれでが、ませた。よ がデ語い たりり題のするとれてのでが、まずまで、がでいる。 とまりりに でがでがいい からがい からが | |
| 時間外学習 | 授業時間以外にも、配布された資料を読み、授業で取り上げられるトピックについて各自で調べる必要があります。 | | | |
| 教科書 | 授業のなかで示します。 | | | |
| 参考書 | 授業のなかで示します。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 個人およびグループでのプレゼンテーションを通じて、発表・ディスカッションの トピックの理解度を評価します。 | | | |
| 備考・注意事項 | 留学生が来日できない場合は、この抗 意ください。 | 受業は開講され | ないことがありますので、ご注 | |

| 授業科目名 | 日本語表現技術 | | |
|---------------------------|---|---|--------------------------------------|
| 担当教員 | 西島 順子 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 火曜 4限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 3 - 6 番 097-554 | | shijima@oita-u.ac.jp |
| 授業のねらい | この授業のねらいは、積極的に議論に参加できるようになることや、伝えたいこと を的確に伝えられるようになることである。内容を精査して、論理的に話す技術も 身に付ける。また留学生と日本人学生が共にディスカッションや発表準備をすることで、相互理解を促進する。 | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 目的に応じてパワーポイント等で 2. 論理的で説得力のある話ができる 3. 多様な背景を持つ人と協力し合い | るようになる。 | |
| 授業の内容 | 1. オリステーション② 4. ディスカッショョン② 4. プレゼンテーションの手法(1) 6. プレゼンテーションの準備(2) 7. 発表② 9. 論理のは話す(2) ディンカッションのの準備(2) 11. 対立計論の準備(2) 11. 対立計論の準備(2) 12. 対立計論の準備(2) 13. 対立計論の準備(2) 14. 試合② 【学生がようなで良かったのまたででフィージを表している。一つでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で | ウションの手法 かのあする を 意見を で で で で で で で で で で で で で り で り で り で | い積極的にディスカッションを ではなく、振り返りの時間に、 |
| 時間外学習 | 原則として毎週課題をする。 発表のために授業外でグループ活動で | を行う。十分な | 準備時間を確保する。 |
| 教科書 | 教材配布 | | |
| 参考書 | 中澤務、『知のナヴィゲーター』くろ 東海大学留学生教育センター、『口頭 木南法子『論理的で正しい日本語を使 | 発表と討論の抗 うための技術と | 技術』東海大学出版会、1995 とトレーニング』ベレ出版、2013 |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | │グループディスカッション(20%)、 │課題提出(10%)、期末レポート(10 | | ョン(30%)、対立討論(30%)、 |
| 備考・注意事項 | 議題提出 (10%)、 | とする。発表時 課題の提出資格 を対象とする。中 | らはない。 中級レベルの学習者は、漢字 500 |

| 授業科目名 | 日本語学 I | | |
|---------------------------|---|--|-------------------------------------|
| 担当教員 | 星野 智子 | 所属部局 | 国際教育推進センター (非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日•時限 | 後期 水曜 2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | shinotmk10@yahoo.co.jp | | |
| 授業のねらい | 日本語の音声、語彙、文法、方言などの各分野について、基本的な仕組みを理解し、 自ら分析できる力を養い、日本語に対する知識と興味を深める | | |
| 具体的な 到達目標 | 1. 日本語の文法、音声、語彙などについて、詳しく観察を進め、規則や特徴を説明する。2. 興味を持った分野について、自ら調査し、結果について考察する。 | | |
| 授業の内容 | 1. 概略「日本語学」とはどんなもの 2. 世界の言語と日本語:日本語は 3. 文法:「ラ抜き言葉」は間違った 4. 音声:音声 なぜ「ないか」「はないか 5. 文法:「どうします」と「申します」と「申します」と「中間試験 10. 語彙:「ヤー」と「ナイター」と 11. 位相:「わしは博士「ヤター」と 11. 位相:「ヤー」と 12. 音声構造:「大分」「大学」と 11. 位相:「かしは博士「大学」と「13. グループ発表 15. グループ発表 15. グループ発表 とまとめ 【学生がより深く学換しながら、理例 2 学習者自身で事例を集め、言語規則 2 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を | 持殊な言語か :日本語? 、 、 したんですか。 にげますの違い origairu」どうま : 共通点は? 大分大学」の区 になっている。 | いは? 長記する? ^医 別ができる? |
| 時間外学習 | 学習者自身で事例を集め、言語規則や特徴を見つけられるような課題を扱う。 ・授業では留学生と日本人学生とのグループディスカッションを行うため、課題文を読んで、まとめと意見を書く。(10h) ・興味のある分野について、自分たちで調査し、発表準備をする。(10h) ・授業の復習と宿題をする。(10h) ・グループ活動についてレポートにまとめる。(10h) | | |
| 教科書 | ハンドアウトを配布する | | |
| 参考書 | 庵功雄(2012)『新しい日本語学入『 ワーク | 引ことばのしく | みを考える』スリーエーネット |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 中間試験 30%、グループ活動 40%、 | 課題 20%、平 | 营点 10 点 |
| 備考・注意事項 | 日本語能力試験 N1 合格レベル以上のる。日本語に興味があり、積極的に調組み合わせができるように、日本人 | 果題に取り組む | 学生が受講できる。留学生との |

| 授業科目名 | ビジネスジャパニーズ演習 1 | | | |
|---------------------------|--|-------------|-----------------|--|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 月曜 2 限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | このコースは、江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、主に経済に関する新聞記事を読み解く能力の習得を目指すものである。さらに、それらの情報を用いて意見を述べる能力の習得も目指す。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | ・経済に関する新聞記事の内容を理解することができるようになる。 ・新聞記事の内容を整理し、要点をまとめることができるようになる。 ・新聞記事の内容を正確に分かりやすく伝え、情報と意見を区別しながら文章化することができるようになる。 | | | |
| 授業の内容 | 1.コースの概要説明 2-4.新聞記事を読む練習 I 内容理解と要約 5-6.新聞記事を読む練習 II 情報の整理、アウトラインの作成 7.情報検索 8.引用と参考文献 9-10.新聞記事を読む練習Ⅲ 意見を述べる 11-14.発表 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 インターネットニュースなどから適切な情報を選択し、調査する。チームによるディスカッション及びディベートの実施。発表を録画し、ルーブリックを用いた自己評価、フィードバックを行う。 | | | |
| 時間外学習 | 日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、新聞等に触れる習慣を身に付けること。 | | | |
| 教科書 | 経済問題を扱った新聞記事、ハンドアウト | | | |
| 参考書 | 日本語辞書など(その他授業で提示) | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度・宿題(15%)、聴解(10%)、読解作文(15%)発表(15%)、期末試験 (45%) | | | |
| 備考・注意事項 | 本コースは上記以外の留学生も受講す | 可能とする。 | | |

| 授業科目名 | ビジネスジャパニーズ演習 2 | | |
|---------------------------|--|---------------------------|-----------------|
| 担当教員 | 前田京子 | 所属部局 | 国際教育推進センター(非常勤) |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 木曜 2限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | os190008@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | このコースは、江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、自己分析を通して、ビジネス場面に必要な会話能力やライティング能力の習得を目指すものである。 | | |
| 具体的な 到達目標 | ・自己について客観的に分析し、丁寧に伝えることができるようになる。 ・ビジネス場面における会話能力を中心に、ライティング能力、マナーなども身に 付ける。 ・日本人の就職事情や仕事に関する考え方などを知る。 | | |
| 授業の内容 | 1.コースの概要説明 2.日本の就職事情 3.日本人の仕事観 4-7.調査の準備 テーマの選択、調査方法(イン 8-9.発表の準備 10.発表 11.自己分析 12.履歴書・エントリーシートの作成 13.面接の準備、敬語の練習 14.模擬面接 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 チームによる調査(アンケート或いし模擬面接では相互評価を行う。 チームでの報告書作成に加え、個人し | よインタビュー レポートも作成 |)の実施。 する。 |
| 時間外学習 | 自己の性格や歴史について振り返り、自己アピール力を身に付ける。また、日本の 大学生の就職活動や仕事への考え方などにも関心を持つ。さらに、改まった場面で のコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。 | | |
| 教科書 | ハンドアウト | | |
| 参考書 | 日本語辞書など(その他授業で提示) | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 授業態度 (10%)、課題 (20%)、プレゼンテーション (25%)、期末レポート (45%) | | |
| 備考・注意事項 | 本コースは上記以外の留学生も受講す | 可能とする。 | |

| 担当教員長池一美所属部局国際教育推進センター単 位2学期・曜日・時限後期:水(3限)担当教員の 研究室 電話・e-mail教養教育棟 3階 3-4番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jpマンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによっしまった。 日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Lovウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。具体的な到達目標1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガ研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。3. マンガ研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。 | | |
|---|--|--|
| 担当教員の 研究室 | | |
| 研究室 電話・e-mail 教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp マンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによって日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Lovウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 具体的な 到達目標 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 電話・e-mail マンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによって日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Lovウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 具体的な到達目標 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| マンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによって 日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Lov ウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文 分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。この スでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社 特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび 外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Lovウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 具体的な到達目標 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| ウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 具体的な到達目標 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 授業のねらい 分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このスでは日本のポピュラー・カルチャー (特にマンガ) がどのように現代日本社特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 具体的な到達目標 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| スでは日本のポピュラー・カルチャー (特にマンガ) がどのように現代日本社 特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび 外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならび 外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 具体的な 到達目標 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 具体的な 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 | | |
| 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 到達目標 | | |
| 3 マンガ研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。 | | |
| | | |
| 1) コースの概要について、ポピュラー・カルチャーとは? | | |
| 2) ソフトパワー研究 3)-5)マンガの「描き方」分析 | | |
| 6) 少年マンガ研究 7) 少女マンガ研究 | | |
| 8) レディース・コミックス研究 9) BL 研究 | | |
| 10) マンガとデータベース消費論 11) マンガと規制問題 | | |
| 授業の内容 12) マンガと人種問題 13) ゆりマンガ研究 | | |
| 14) マンガとグローバライゼーション | | |
| 15) 復習 | | |
| | | |
| 【子生がより深く子へるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッション、プロジェクト準備・発 | | |
| 中心として構成される。 | | |
| 指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと | | |
| 時間外学習 題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。 | | |
| 教科書特に指定しない。 | | |
| 3,7112 | | |
| 参考書第一の授業で配布。 | | |
| 授業への積極的な参加 20% 成績評価の方法 | | |
| 成領評価の方法 | | |
| 期末試験 50% | | |
| この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジ | | |
| 備考 発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。 | | |

| 授業科目名 | 日本文法とディスコース | | | |
|---------------------------|---|--|--------------------------------|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日•時限 | 後期 金曜 3限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | 英語を話す初級日本語学習者が学ぶ文構成に必要な格助詞(を、に、と、へ、で)の用法を理解する。主題提示を行う「は」の機能を理解する。日本語の動詞 群の構成法を理解する。日本語のテクスト(文章)構成の原理をスキーマの視点 から理解する。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 英語を母語とする初級日本語学習者に格助詞の使い方の説明ができるようになる。長い動詞群の構成(例えば「たべされられてしまっているのかもしれない」)がどうしてそのような構成になっているのが説明できるようになる。 「は」の基本的機能が理解でき、「は」を巡る文章構成の指導ができるようになる。 | | | |
| 授業の内容 | 第1回:オリエンテーション 第2回:日本語品詞 第3-7回:日本語における経験機能:本 第8回:日本語における経験機能:本 第9回:日本語における経験機能:格 第10-12回:対人機能と動詞と文章 第13-14回:「は」の機能と文2 【学生がより深く学べるための工夫】 授業はグループディスカッマを表 短にされることのないテーマ表 の文法説明能力の養成にき、かれていく。 | が詞と構文 2 、文化 ジをとる。授業 分析力を身に がっていく。コ | 着けていく。それがひいては 一ス参加者は品詞の性質から | |
| 時間外学習 | 予習1 時間、復習2 時間が必要。 | | | |
| 教科書 | プリントを授業で配布する。 | | | |
| 参考書 | 授業中に参考文献のリストを配布する。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 小さい課題 (5点×10回) 、プレゼンテーション 1 (20点) 、プレゼンテーション 2 (30点) | | | |
| 備考・注意事項 | この科目は本学正規生が留学生と一線 ョンへの参加は必須。授業は日本語は | | <u> </u> | |

| 授業科目名 | ソーシャルネットワークと大分からの | の発信 II | |
|---------------------------|--|--|--|
| 担当教員 | 南里 敬三 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 火曜 3限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| 授業のねらい | この科目は国東の魅力をブログとホームページを通じて発信し、インターネット 上における効果的な情報発信力を身に付けることを目的とするが、それと同時に グループワークができる人材養成も念頭においた科目でもある。 | | |
| 具体的な 到達目標 | 具体的なコースの目的は次の通り。(1)ネチケットを学び、守る。(2)ブログ記事・ホームページ記事の特徴を知る。(3)国東の特徴を知る。(4)里山と過疎の関係を知る。授業はグループワークを基本として進めていく。 | | |
| 授業の内容 | 第1回:オリターションを 第2回:インターネットの基礎で 第3回:インターネットの基礎で 第5回:過解を 第5回:過解を 第6回:近球地で 第6回:型山を 第6回:型山を 第8回:Wix で 第10回:歌材準備。 第10回:歌材準備。 第11回:歌材修旅行(一ジを 第11回:歌子との 第11回:本一ムペーの 第12回:本一ムペーの 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシを 第13回:ホームペーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシー | 、ブログと でで で で で で で で で で で で で で で で で で で | で方、授業まとめ 2 3 とめ 5 とめ 5 とめ 5 とと 書記がお で発業内容を理解して して提出。各グループは自分 ジで発表。この発表を通して |
| 時間外学習 | 予習1 時間、復習2 時間が必要。参考文献は授業で使用しているブログに掲載する。研修旅行1回は2回分の授業に相当。 | | |
| 教科書 | プリントを授業で配布する。 | | |
| 参考書 | ブログに掲載する。 | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 課題(10 点)、フィールドワーク(研修旅行)(第一回10点、第二回10点)、ブログ作成・発表(20点)、ホームページ作成・発表(25点)。最終報告書(25点)。ブログとホームページ作成はグループワーク。70%以上の出席がない場合は不合格とし、フィールドワークと最終報告書の点数を合計点から除外する。無断欠席一回につき2点減点。 | | |
| 備考・注意事項 | この科目は本学正規生が留学生と一編 ョンへの参加は必須。 | 者に学ぶ授業で | ある。 <u>グループディスカッシ</u> |

| 授業科目名 | Sustainability and Glocal Developme | nt in Oita サス | テナビリティ大分 |
|---------------------------|---|---|---|
| 担当教員 | ブルカート香織 | 所属部局 | 国際教育推進センター |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 木曜4限 |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教養教育棟 3階 3番 | 097-541-6171 | kburkart@oita-u.ac.jp |
| 授業のねらい | このクラスの主な目的は、主に環境問題に関連する身近なテーマを通じて、世界や大分の環境や人間社会の持続可能な発展について考える。持続可能な未来を創造するために不可欠な知識を身近なテーマから積み上げ、学生自身の価値観をと向き合う。グローカルな視点で、持続可能な発展を支援する姿勢を育み、自ら考え行動する Critical Thinking Skills を培う。 | | |
| 具体的な 到達目標 | より深い知識を構築するための独自のけんきゅう・調査を行う。 地方都市が抱える問題がいかに国際的問題でありうるかを知る。 異なる文化と多様な考え方に触れ、自己の考えを振り返ってまとめる。 | | |
| 授業の内容 | 第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第 | SDGs#17 と1 環 さなー 地真? プーラニ学ン 地真? プー・ューテーン ボ実! ゼーニー行ー ルー・ファックの場っ での場っ | オ 対策課 映画視聴 マン予備または研修見学) ティビティ(ロールプレイ、デック)を通して Critical Thinking スケジュールが前後する場合が レポートのみ。 |
| 時間外学習 | 2回オンラインディスカッションを設ける。インタビュー、フィールドワークや研修・見学に参加するなどの時間外学習も重要な一部とみなす。 | | |
| 教科書 | 教材・資料は担当教員が配布する。 | | |
| 参考書 | 参考資料は随時クラスのウェブサイ | ト Moodle に掲載 | 載する。 |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40% | | |
| 備考・注意事項 | このクラスは本学正規学生と留学生とが一 行われる。 <u>授業中のディスカッションやオ</u> 期末レポートは英語もしくは日本語のいず | ンラインディスカ | ッションも英語を共通語とするが、 |

| 授業科目名 | 認知言語学から見た日英対照分析 | | | |
|---------------------------|---|-------------------|-------------|--|
| 担当教員 | 橋本 美喜男 | 所属部局 | 教育学部 | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後 木曜 4 限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 教育学部 B 棟 5 階 097-554-7578 mikioha@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | 本コースのねらいは、認知言語学の観点から英語と日本語を比較し、日本語や英語 はどんな言語なのかをより深く理解することである。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | 英語と日本語では視点の違いにより、同じ状況に対して異なる言語形式を用いる。例えば、「ここはどこですか」は英語では "Where am I?"になる。 英語には "I"が現れるが、日本語には現れない。なぜこのような違いが生じるのかを理解することで、英語と日本語の表現能力を高めるたい。 | | | |
| 授業の内容 | 第1回 ローマーステンジャングラックでは、 | ル ハ 詞と不規則動詞 | | |
| 時間外学習 | 毎回の講義で課す課題に取り組む。 | | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | | |
| 参考書 | 特に指定しない。 | | | |
| 成績評価の方法 及び評価割合 | 毎回の授業の課題 40% 最終レポート 60% | | | |
| 備考・注意事項 | | | | |

| 授業科目名 | 情報技術入門 | | | |
|---------------------------|--|---|----------------|--|
| 担当教員 | 紙名 哲生 | 所属部局 | 理工学部 | |
| 単位 | 2 | 学期 曜日・時限 | 後期 木曜 4限 | |
| 担当教員の 研究室 電話・e-mail | 理工 6 号館 2 階 097-554-7873 kamina@oita-u.ac.jp | | | |
| 授業のねらい | 現在の情報化社会を支える情報技術について、計算機システム(コンピュータネットワーク、コンピュータグラフィクスなど)や知能システム(人工知能、画像処理、電子図書館など)の観点から、総合的に概観する。 | | | |
| 具体的な 到達目標 | (1)情報技術の基礎的な知識について説明できる。 (2)情報技術の発展の流れを説明できる。 (3)情報技術が人間,社会,文化,環境に及ぼす影響を説明できる。 | | | |
| 授業の内容 | 1. 講義子図書館とせんでは、 | D表現と処理 方法 支術 ーシコン 人工知能 いは、各自の意 | 見を問うレポート課題や小テス | |
| 時間外学習 | 適宜,図書館等での事前の下調べをする(2h)。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(8h)。 | | | |
| 教科書 | 教科書は用いない。 | | | |
| 参考書 | 適宜、参考資料を配布する。 | | | |
| | レポート課題:70% 小テスト:30% | | | |
| 備考・注意事項 | 中島誠(理工),古家賢一(理工),福 (理工),池部実(理工),賀川経夫(明 (理工),池部実(理工),賀川経夫(明 | | | |

| | Language ar | nd Japanese | Studies | Courses for | r International |
|----------|-------------|-------------|---------|-------------|-----------------|
| Students | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| Course Title | Japanese I: Grammar | | | | |
|------------------------------|---|-----------------|---|--|--|
| Lecturer | BURKART, Kaori I. | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Tuesdays 1 st Period Fall: Tuesdays 2 nd Period | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No | o. 3-3 097-55 | 4-6171 kburkart@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | Acquisition of basic Japanese gramı | mar and langua | age functions. | | |
| Learning Outcomes | At the end of the course, students will be able to 1. Read and write Kana characters including both Hiragana and Katakana; 2. Understand the basic Japanese grammar and language functions and use them when expressing requests, preferences, reasons, and wishes. | | | | |
| Content | Week 1: Introduction to the course (Week 2: Lesson 1 (Vocabulary/Gran Week 3: Lesson 2 Week 4: Lesson 3 Week 5: Lesson 4 Week 6: Lesson 5 Week 7: Lesson 6 Week 8: Mid-term Exam Week 9: Lesson 7 Week 10: Lesson 8 Week 11: Lesson 9 Week 12: Lesson 10 Week 13: Lesson 11 Week 14: Lesson 12 Week 15: Semester Review (Specific modes of teaching to enhal Learner-centered hands-on activities language acquisition. Satisfactory corequired. Weekly lecture notes and it | nmar) & Introdu | arning) I to enhance basic Japanese eekly homework and quizzes are | | |
| Recommendation | Students are expected to spend at le | east 3 hours of | self-study time each week. It is every | | |
| for Private Study | student's responsibility to complete | all homework a | nd to prepare for quizzes and exams. | | |
| Textbooks | Genki I: An Introduction to Elementa ISBN: 978-4789017305 | iry Japanese (3 | ord ed.). The Japan Times. | | |
| References | A dictionary of basic Japanese gram Japanese-English Learner's Dictiona | , , | , | | |
| Assessment Criteria | Weekly homework and quiz (40%), I | Mid-term exam | (30%), and Final exam (30%) | | |
| Supplementary Information | Students are required to attend mo final examination. | re than 70% of | f the classes to be eligible to take the | | |

| Course Title | Japanese I: Conversation | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|
| Lecturer | BURKART, Kaori I. | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring : Wednesdays 2 nd Period Fall : Wednesdays 1 st Period | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No | o. 3-3 097-54 | 11-6171 kburkart@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | Acquisition of basic Japanese oral co | ommunication s | skills | | |
| Learning Outcomes | At the end of the course, students will be able to: 1. Carry on basic conversations in several situations 2. Express requests, preferences, reasons, and wishes using basic vocabulary and Japanese language functions | | | | |
| Content | Week 1: Introduction to the course & Week 2: Lesson 1 Week 3: Lesson 2 Week 4: Lesson 3 Week 5: Lesson 4 Week 6: Lesson 5 Week 7: Lesson 6 Week 8: Mid-term Examination Week 9: Lesson 7 Week 10: Lesson 8 Week 11: Lesson 9 Week 12: Lesson 10 Week 13: Lesson 11 Week 14: Lesson 12 Week 15: Semester Review (Specific modes of teaching to enhance Learner-centered hands-on activities oral communication skills. Satisfactor Weekly lecture notes and handouts as | nce student lea based on real- ry completion c | life situations are used to enhance of weekly homework is required. | | |
| Recommendation | Students are expected to spend at le | east 3 hours of | self-study time each week. It is every | | |
| for Private Study | student's responsibility to complete a | all homework ar | nd to prepare for quizzes and exams. | | |
| Textbooks | Genki I: An Introduction to Elemental ISBN: 978-4789017305 | ry Japanese (3 | rd ed.). The Japan Times. | | |
| References | A dictionary of basic Japanese gram Japanese-English Learner's Dictiona | | | | |
| Assessment Criteria | Weekly homework and quiz (40%), N | | • | | |
| Supplementary Information | Students are required to attend more examination. | than 70% of th | ne classes to be eligible to take the final | | |

| Course Title | Japanese I: Integrated Activities | | | | |
|------------------------------|--|---------------------------------|---|--|--|
| Lecturer | BURKART, Kaori I. | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring & Fall Semesters Thursdays 2 nd Period | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No | 0. 3-3 097- | -541-6171 kburkart@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | Acquisition of basic Japanese langua | age skills throu | gh comprehensive learning activities | | |
| Learning Outcomes | At the end of the course, students will be able to 1. Grasp basic Japanese grammar and language functions 2. Express requests, preferences, reasons, and wishes by using vocabulary typical in daily life | | | | |
| Content | Week 1: Introduction to the course (g Week 2: Lesson 1 Comprehensive le Week 3: Lesson 2 Week 4: Lesson 3 Week 5: Lesson 4 Week 6: Lesson 5 Week 7: Lesson 6 Week 8: Mid-term Examination Week 9: Lesson 7 Week 10: Lesson 8 Week 11: Lesson 9 Week 12: Lesson 10 Week 13: Lesson 11 Week 14: Lesson 12 Week 15: Semester Review (Specific modes of teaching to enhant Learner-centered learning activities is overall language skills. Satisfactory of lecture notes and handouts are proving | earner-centered completion of w | rning) ife situations are used to enhance reekly homework is required. Weekly | | |
| Recommendation | · | | self-study time each week. It is every | | |
| for Private Study | · | | nd to prepare for quizzes and exams. | | |
| Textbooks | Genki I: An Introduction to Elemental ISBN: 978-4789017305 | | | | |
| References | A dictionary of basic Japanese gram Japanese-English Learner's Dictiona | , , | · | | |
| Assessment Criteria | Weekly homework and quiz (40%), N | /lid-term exam | (30%), and Final exam (30%) | | |
| Supplementary Information | Students are required to attend more examination. | than 70% of th | ne classes to be eligible to take the final | | |

| Course Title | Japanese 1 Reading | | | |
|----------------------------------|--|------------------|---|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Mondays, 4 th period | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd | d Floor Office | No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | |
| Aims | It aims at helping learr | ners read and w | rite the complete range of basic kanji characters. | |
| Learning Outcomes | | • | kana and 145 Kanji. They will be able to write and ting of the weekly assigned-kanji. | |
| Content | Week 1: Introduction of Hiragana (practice). Week 2: Introduction of Katakana (practice) and Lesson 1 (vocabulary/Grammar). Week 3: Lesson 2 (vocabulary/Grammar). Week 4: Lesson 3 (vocabulary/Grammar). Week 5: Lesson 4 (vocabulary/Grammar). Week 6: Lesson 5 (vocabulary/Grammar). Week 7: Lesson 6 (vocabulary/Grammar). Week 8: Lesson 7 (vocabulary/Grammar). Week 9: Lesson 8 (vocabulary/Grammar). Week 10: Revision of Lessons 1-8 (vocabulary/Grammar). Week 11: Lesson 9 (vocabulary/Grammar). Week 12: Lesson 10 (vocabulary/Grammar). Week 13: Lesson 11 (vocabulary/Grammar). Week 14: Lesson 12 (vocabulary/Grammar). Week 15: Revision of all lessons (vocabulary/Grammar). (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Weekly assignments and tests are given to assist students to acquire Kanji. | | | |
| Recommendation for Private Study | Revision of the weekly-introduced Kanji is very important. Practice reading and writing the Kanji daily until you feel confident. | | | |
| Textbooks | An Introduction to Elementary Japanese (Genki I); Third Edition; The Japan Times. (The Second Edition of the Book should not be acceptable.) | | | |
| References | A dictionary of basic Japanese grammar, The Japan Times. Japanese-English Learner's Dictionary, Kenkyusha. | | | |
| Assessment Criteria | Weekly Tests 40%; Weekly Assignments 20%; Final Examination 40%. It is a requirement that a student should attend more than 70 % of the class time to be eligible for the final examination. | | | |
| Supplementary Information | Attendance of ALL clas | sses is essentia | al for a successful course outcome. | |

| Course Title | Japanese 2 Grammar | | | |
|------------------------------|--|---|--|--|
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester 1, Tuesdays 2 st Period Semester 2, Tuesdays 1 nd Period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic | ce No. 5 097-55 | 54-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | |
| Aims | By the end of the semester, students chronologically well-organised texts employing basic modal expressions, | in short forms, | | |
| Learning Outcomes | between events, to present future pla and the like, to report events caused based on the social relationship betw | ans and expect by someone, a veen him/her a | and to properly speak to someone nd his/her addressee. | |
| Content | Weeks 1-2: Review of <i>te</i> -forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.) Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do. Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members. Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses. Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i> , <i>maeni</i> , <i>tekara</i> , give us accurate accounts of past events. Weeks 8-9: Review. Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address. Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions. Week 14-15: Report events caused by someone. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by patte | | | |
| Recommendation | Students are expected to spend two hours for reviewing after the class | hours for prepa | aration for the class and another two | |
| for Private Study | - | | | |
| Textbooks | Genki II: An Integrated Course in El | | | |
| References | A Dictionary of Basic Japanese Grar A Dictionary of Intermediate Japanes | • | | |
| Assessment Criteria | Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%. | | | |
| Supplementary Information | | | he classes to be eligible to sit for the anese 2 Conversation and Japanese 2 | |

| Course Title | Japanese 2 Conversation | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------|--|--|
| Lagturar | NANRI, Keizo | Faculty | Global Education and Intercultural | |
| Lecturer | NANRI, Keizo | 1 acuity | Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester 1, Wednesdays 1st Period | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester 2, Wednesdays 2 nd Period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office | No. 5 097-554 | -7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | |
| Aims | By the end of the semester, students chronologically well-organised texts employing basic modal expressions, | in short forms, | | |
| Learning | Specifically, students are expected to | | | |
| Outcomes | least 8 minutes in a dialogic situation schedule, distressing experience, gif | | ceiving occasions, and my personality | |
| | and performance. They will also be a | able to use <i>keig</i> | 10. | |
| Content | Weeks 1-2: Review of <i>te</i> -forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.) Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do. Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members. Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses. Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i> , <i>maeni</i> , <i>tekara</i> , give us accurate accounts of past events. Weeks 8-9: Review. Weeks 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address. Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions. Week 14-15: Report events caused by someone. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by pattern practice and then by a product-oriented activity to consolidate the linguistic knowledge | | | |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class. | | | |
| Textbooks | Genki II: An Integrated Course in El | ementary Japa | nese, The Japan Times | |
| References | A Dictionary of Basic Japanese Gra A Dictionary of Intermediate Japanes | | | |
| Assessment Criteria | Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%. | | | |
| Supplementary Information | • | | he classes to be eligible to sit for the anese 2 Conversation and Japanese 2 | |

| Course Title | Japanese 2 Integrated Activities | | | |
|----------------------------------|--|---|--|--|
| Looturor | NANDI Koizo | Fooults: | Global Education and Intercultural | |
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester 1, Fridays 2 nd Period | |
| Gredit | 2 | Timetable | Semester 2, Fridays 2 nd Period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office | No. 5 097-554 | -7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | |
| Aims | By the end of the semester, students chronologically well-organised texts employing basic modal expressions, | in short forms, | | |
| Learning Outcomes | whose topics are: weekly schedule, | distressing expoerformance. Th | ney will also be able to write an essay | |
| Content | Weeks 1-2: Review of <i>te</i> -forms, shorthe class is monitored by weekly quitobservation of students' performance Week 2: With potential forms, tell us Week 3: With expressions of giving-exchanging presents with friends and Week 4: Give extra information to the Weeks 5-6: With giving-receiving verwhat you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expression tekara, give us accurate accounts of Weeks 8-9: Review. Week 10: Brush up your grammatical transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn keigo (i.e., honce expressions) so that you can speak relation between you and your address week 13: Tell us about your awful expressions. Tell us about your awful expressions is conducted in such a way practice and then by a product-orient | rt forms, (Stude zzes and assigne in the class.) about what you receiving, tell us d family memberings you are tall rbs, tell us what past events. al accuracy by use to your addresses. Experience by us by someone. Ince students' leay that grammat ted activity to contact to your addresses. | Ints' understanding of the content of naments as well as the instructor's a can do and cannot do. Is about your experience of ers. It is about with embedded clauses. It other people have done for you and anyou've heard. With tara, maeni, anderstanding the difference between dest expressions, and humble see properly, according to the social sing indirect passive expressions. | |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class. | | | |
| for Private Study Textbooks | Genki II: An Integrated Course in Elementary Japanese, The Japan Times | | | |
| TEXIDOOKS | - | | | |
| References | A Dictionary of Basic Japanese Grar A Dictionary of Intermediate Japanes | | | |
| Assessment Criteria | Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%. | | | |
| Supplementary Information | Students are required to attend more final examination. This subject is required activities. | | ne classes to be eligible to sit for the anese 2 Conversation and Japanese 2 | |

| Course Title | Japanese 2 Reading | | | | |
|-------------------|---|-------------------|--|--|--|
| Lastinas | MAEDA Kusha | Esselt. | Global Education and Intercultural | | |
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Advancement Center | | |
| Cradit | 2 | T' () | Spring: Mondays 1st period | | |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Thursdays 1st period | | |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | | | |
| Aims | This course aims to enable stude | nts who have | completed the second-level unit of | | |
| Aiiiis | elementary Japanese to acquire new | words, expres | ssions, and kanji written characters. | | |
| | To read and write the basic 300 Ka | anji | | | |
| Learning | To learn words utilizing the basic k | Kanji | | | |
| Outcomes | To read short essays (in the textbo | ook) | | | |
| | To write paragraphs | | | | |
| | 1. Orientation & Review (1) | | | | |
| | 2. Review (2) | | | | |
| | 3. Interesting Experiences in Japan (| (1) | | | |
| | 4. Interesting Experiences in Japan (| (2) | | | |
| | 5. Personal Advice Column | | | | |
| | 6. My Favorite Place | | | | |
| | 7. The Manga <i>Doraemon</i> | | | | |
| | 8. Mid-term Exam | | | | |
| | 9. Yoko Ono | | | | |
| Content | 10. College Life | | | | |
| | 11. Letters and E-mails | | | | |
| | 12. A Cat's Plate | | | | |
| | 13. Unlucky Ages | | | | |
| | 14. Tomomi's Diary | | | | |
| | 15. What Does This Face Mean? | | | | |
| | 16. Final Exam | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enhar | nce students' le | earning) | | |
| | Students are required to take a Kanji | quiz each wee | ek. This will enhance students' ability to | | |
| | use their newly acquired written and | oral vocabulary | y. | | |
| Recommendation | At least four hours of private study p | er week, for pr | reparation and review, will be required. | | |
| for Private Study | Students are expected to come to cla | ass fully (at lea | st adequately) prepared. | | |
| Textbooks | Genki II: An Integrated Course in | Elementary Jap | panese, The Japan Times | | |
| Deferences | New Japanese-English Character Di | ctionary, Kenky | yusha | | |
| References | A Dictionary of Basic Japanese Grar | nmar, The Japa | an Times | | |
| Assessment | Participation (10%), Homework (20 | %), Quiz (10% | 6), Mid-term and Final Exams (60%). | | |
| Assessment | Students must attend more than 70% | % of the class r | meetings to be eligible to take the final | | |
| Criteria | examination. | | | | |
| Supplementary | Attandence of All places is accordi | al for a succes | afil acura automa | | |
| , , | Attendance of ALL classes is essenti | ai iui a succes | stul course outcome. | | |

| Course Title | Japanese 3 Grammar | | | | |
|-------------------|--|-------------------|--|--|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Wednesdays 2 nd period Fall: Tuesdays 2 nd period | | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | p | | | |
| | The first semester of Intermediate S | Spoken Japane | se course. The course aims to review | | |
| Aims | and reinforce previous knowledge of | Japanese and | systematically develop the patterns of | | |
| | expression and vocabulary needed i | n various situat | ions common in daily life. | | |
| | 1. Students learn the patterns of exp | ression and vo | cabulary needed in various situations | | |
| | of daily life. | | | | |
| | 2. Students enable to apply the gram | nmar and the se | entence patterns they learned | | |
| Learning | appropriately in reality. | | | | |
| Outcomes | Students enable to speak accurate | ely in order to c | earry out daily conversation. | | |
| | 4. Students enable to improve their I | istening compre | ehension and grasp the contents on | | |
| | various topics. | | <u> </u> | | |
| | Introducing friends and family | | | | |
| | 2. Memories of a childhood | | | | |
| | 3. Character | | | | |
| | 4. Description of circumstance | | | | |
| | Introducing home country Providing advice | | | | |
| | 7. Travel | | | | |
| | 8. Life-change | | | | |
| | 9. Comparison of national character | | | | |
| Content | 10. Impression of Japan | | | | |
| | 11. Future Plan | | | | |
| | 12. 30 years later13. Food and health | | | | |
| | 14. Stress release | | | | |
| | 15. Words of young people | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enh | ance students' | learning) | | |
| | Various activities such as pair work | k, role play, an | d so on are designed for students to | | |
| | acquire communicative competence | in Japanese. | | | |
| Recommendation | Students are expected to study abo | ut 2 hours per | week on homework, practice listening | | |
| for Private Study | and speaking, and memorize and re- | view of vocabul | ary and grammatical patterns. | | |
| Textbooks | J Bridge to Intermediate Japanese, E | Bonjinsha | | | |
| References | Recommended : A Dictionary of Inte | rmediate Japar | nese Grammar, The Japan Times | | |
| | Lesson tests 30%, final exam 30%, v | ocabulary quiz | zes 15%, | | |
| Assessment | homework, class performance, and e | etc. 25%. | | | |
| Criteria | It is required that a student attend m | ore than 70% o | of the class time to be eligible to sit the | | |
| | final examination. | | - | | |
| Supplementary | Japanese 2 is a prerequisite for enro | ollment. Other s | students must pass a placement test in | | |
| Information | order to enroll. Japanese 3 Gramma | | | | |
| | | | | | |

| Course Title | Japanese 3 Conversation | | |
|------------------------------|---|------------------------------------|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Mondays 1 st period Fall: Thursdays 2 nd period |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | р | |
| Aims | | Japanese and | se course. The course aims to review systematically develop the patterns of ions common in daily life. |
| Learning Outcomes | of daily life. 2. Students enable to apply the appropriately in reality. 3. Students enable to speak accurate 4. Students enable to improve their various topics. | grammar and | the sentence patterns they learned carry out daily conversation. |
| Content | Introducing friends and family Memories of a childhood Character Description of circumstance Introducing home country Providing advice Travel Life-change Comparison of national characte Impression of Japan Future Plan 30 years later Food and health Stress release Words of young people (Specific modes of teaching to enhance Various activities such as pair work acquire communicative competence | ance students' k, role play, an | learning) d so on are designed for students to |
| Recommendation | Students are expected to study abo | ut 2 hours per | week on homework, practice listening |
| for Private Study | and speaking, and memorize and re- | view of vocabul | ary and grammatical patterns. |
| Textbooks | J Bridge to Intermediate Japanese, E | Bonjinsha | |
| References | Recommended : A Dictionary of Inte | <i>rmediate</i> Japar | nese Grammar, The Japan Times |
| Assessment Criteria | Lesson tests 30%, final exam 30%, whomework, class performance, and 6 70% of the class time to be eligible to | etc. 25%. It is re | equired that a student attend more than |
| Supplementary Information | Japanese 2 is a prerequisite for enro | | students must pass a placement test in ation are co-requisites. |

| Course Title | Japanese 3 Reading II | | | |
|------------------------------|--|--|---|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Tuesday Period: 1 | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.be | ppu-u.ac.jp | | |
| Aims | Read short sentences at the | ne first interme | ediate level about Japan and understand them. | |
| | 1. Understand the structure | e of sentence | s. | |
| Learning | 2. Search for necessary in | formation in s | entences quickly. | |
| Outcomes | 3. Learn the proper usages | s of conjunction | ons and adverbs. | |
| | 4. Learn about Japanese li | fe and culture | 2. | |
| Content | 1. Guidance 2. Living in Japan 1 3. Living in Japan 2 4. Living in Japan 3 5. Living in Japan 4 6. Living in Japan 5 7. Living in Japan 6 8. Mid-term Exam 9. Understanding Japan 1 10. Understanding Japan 2 11. Understanding Japan 3 12. Understanding Japan 3 13. Understanding Japan 3 14. Understanding Japan 6 15. Review 16. Final Exam (Specific modes of teaching Time for pair-work or group) | 2 3 4 5 5 6 g to enhance | •, | |
| Recommendation | Students are expected to r | eview after ev | very class. | |
| for Private Study | | | | |
| Textbooks | Handouts will be distribute | | | |
| References | References will be given a | | | |
| Assessment Criteria | Participation, Quizz (30%), Mid-term exam (30%), Final exam(40%) Students required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination. | | | |
| Supplementary Information | This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. | | | |

| Course Title | Japanese 3 Writing II | | | | |
|------------------------|--|---|--|--|--|
| 1 | MAEDA K. J. | F W | Global Education and Intercultural | | |
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Advancement Center | | |
| | | | Semester: Spring | | |
| Credit | 2 | Timetable | Day of the Week: Thursdays | | |
| | | | Period: 2 | | |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | | | |
| Aims | This course is designed to develop v | This course is designed to develop writing skills by writing 600~700 word-letter essays | | | |
| Aiiis | familiar topics using first intermediate | e level vocabula | aries, expressions, and grammars. | | |
| | 1. Be able to write Japanese compos | sitions using cle | ear, developed paragraphs. | | |
| Learning | 2. Understand sentence construction | on and write s | entences that uses conjunctions and | | |
| Outcomes | adverbs effectively. | | | | |
| | 3. Understand how to use traditional | Japanese mar | uscript paper properly. | | |
| | 1. Guidance | | | | |
| | 2. Ask a person's permission | | | | |
| | 3. Express one's gratitude | | | | |
| | 4. Refuse a request | | | | |
| | 5. Advertise a commodity | | | | |
| | 6. Self-introduction | | | | |
| | 7. Review | | | | |
| | 8. Mid-term Exam | | | | |
| Content | 9. Convey an event information | | | | |
| Content | 10. Express an emotion | | | | |
| | 11. Give someone advice① | | | | |
| | 12. Give someone advice② | | | | |
| | 13. Foresee the future | | | | |
| | 14. Comparison of Past and Present | | | | |
| | 15. Review | | | | |
| | 16. Final Exam | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enhai | nce students' le | earning) | | |
| | Time for pair-work and short present | ation will be all | otted in class. | | |
| Recommendation | Review after every class. | | | | |
| for Private Study | Preparation for presentation. | | | | |
| Textbooks | Handouts will be distributed every cla | | | | |
| References | References will be given as needed. | | | | |
| Assessment Criteria | Participation & Homework (10%), Tasks (20%), Presentation (15%), Exams (55%) | | | | |
| | This course is for pre-intermediate | e level studen | ts who have successfully completed | | |
| Supplementary | elementary level courses or students | whose proficie | ency level in Japanese is 3 according to | | |
| Information | the result of the CIER placement t | est. The class | will be conducted in Japanese. It is | | |
| imormation | required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take | | | | |
| | the final examination. | | | | |

| Course Title | Extensive Reading in Japanese | | |
|----------------------------------|--|--|---|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Thursdays 3 rd Period |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | ip | |
| Aims | This course offers students at intermentance their reading skills as well a Extensive Reading method with sho authentic materials written for native | as developing tl rt stories writter | ne pleasure of reading utilizing |
| Learning Outcomes | In this course, the emphasis is put on acquiring the skill to enjoy the contents without translation. Gradually shifting to the materials of higher levels, students will find themselves absorbing the contents without translating each word or sentence into their native language. Through this type of reading, students will develop general language competence, knowledge of vocabulary, prediction skills, as well as writing and speaking skills. | | |
| Content | the instructor carefully monitors their to improve their reading skills. 1. Introduction and orientation 2. extensive reading 3. oral book report and extensive of the standard extensive of the standa | reading behareading reading re | |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to read books. | | |
| Textbooks | Materials including <i>Nihongo Tadoku Books</i> and <i>Japanese Graded Readers</i> to be provided in class. | | |
| References | "Extensive Reading"(http://extensive | ereading.net/) | |
| Assessment Criteria | Number of books (20%), Reading log (20%), Oral book reports (10%), Writing a story (15%), Presentation (25%), Participation and class performance (10%) | | |
| Supplementary Information | Students must pass level 3 or higher | r in the placeme | ent test to be admitted to this course. |

| Course Title | Japanese 4 Grammar II | | | |
|-------------------|---|-----------------|---|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement | |
| Lecturer | Education C10020, Militario 1 additiv | Center | | |
| | | | Semester: Spring | |
| Credit | 2 Timetable | | Day of the Week: Tuesday | |
| | | | Period: 2 | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.be | ppu-u.ac.jp | | |
| Aims | This course is designed to | improve inter | mediate-level grammatical knowledge further. | |
| Learning | Understand the meaning | and usage of | intermediate-level grammar points and | |
| Outcomes | expressions and use the | em accurately | | |
| | The textbook is the sam | e as that is us | ed in Japanese 4 Grammar I . | |
| | Lessons7 through 16 v | will be covered | d in this course. | |
| | 1. Guidance, Diagnostic | test, etc. | | |
| | 2. Structure of complex | sentences 1 | | |
| | 3. Noun modification | | | |
| | 4. Expressions that form | n complex ser | itences 1 | |
| | 5. Expressions that form | n complex ser | itences 2 | |
| | 6. Expressions that form complex sentences 2, 3 | | | |
| | 7 . Expressions that form complex sentences 3 | | | |
| Contont | 8 . Mid-term Exam | | | |
| Content | 9 . Expressions to deny something | | | |
| | 10. Conveying subjective information 1 | | | |
| | 11. Conveying subjective | information 1 | , 2 | |
| | 12. Conveying subjective | e information 2 | 2 | |
| | 13. Adverbs that are used like idioms | | | |
| | 14. Adverbs that are used like idioms / Conjunctions | | | |
| | 15. Conjunctions | | | |
| | 16. Final Exam | | | |
| | (Specific modes of teaching | g to enhance | students' learning) | |
| | Time for making example s | sentences will | be allotted in class. | |
| Recommendation | Students are expected to s | study at least | 2 hours per week on homework and reviewing | |
| for Private Study | after the class. | | | |
| Textbooks | "Chuukyuu Nihongo Bump | oo Yooten Se | iri Pointo 20 " (3A-Network) | |
| References | References will be given a | s needed. | | |
| Assessment | Participation, homework (| 30%) , Mid-te | rm exam (30%), Final exam(40%) | |
| | It is required that a studen | t should atten | d more than 70% of the class time to be eligible to | |
| Criteria | take the final examination. | | | |
| | This course is for interm | ediate level | students who have successfully completed pre- | |
| Supplementary | intermediate level courses | or students w | whose proficiency level in Japanese is 4 according | |
| Information | to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. Students | | | |
| | are required to have a prio | r knowledge o | of at least 500 basic kanji. | |

| Course Title | Japanese 4 Speaking | | |
|----------------------------------|--|---|---|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Thursdays 1st period Fall: Wednesdays 2nd period |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | The second semester course of Intermediate Spoken Japanese. The course aims to develop the speaking and listening ability to communicate in various situations commonly encountered at the university level. In this course, students go to town with group members to gather information by interviewing local people and get a better understanding about Oita and Japan. | | |
| Learning Outcomes | Students acquire practical commappropriate expressions and specific speak in a letter of the speak in a lett | eak accurately a ngth of a sever nal and informa | and actively on general topics. al paragraphs. |
| Content | students to acquire communicative o | their group menuestionnaire or Japanese studene interview h on their topic for the presentation ance students' ance students' competence in a | mbers for the final project. a topic students chose ents or local people ation |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to study about 2 hours per week on homework, practice listening, making dialogues, preparing for speeches and a group project, and memorize and review of vocabulary and grammatical patterns. | | |
| Textbooks | Speaking Skills Learned through Listening: Japanese "Live" Intermediate & advanced Level, Kurosio | | |
| References | 15 Communication Tips for Becomin | g a Good Spea | aker and Listener, ASK Publishing |
| Assessment Criteria | Midterm exam 30%, Final exam 15%, presentation 10%, vocabulary quizzes 10%, homework 10%, final project 15%, class performance, etc. 10%. | | |
| Supplementary Information | Japanese 3 is a prerequisite. Other applicants must pass a placement test to be admitted to this course. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to join the final project. | | |

| Course Title | Japanese 4 Reading II | | | |
|------------------------------|--|-------------------------------------|---|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period:2 | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor Office N | No.3-6 097-554 | 4-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | |
| Aims | Students will acquire intermediate-advanced level vocabulary and expressions while reading various genres such as articles, novels, essays, and haiku, and acquire reading comprehension skills. Through these readings, they will not only deepen their understanding of Japanese society and culture, but also gain the ability to think for themselves on the themes. | | | |
| Learning Outcomes | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | tion and the au | | |
| Content | | ho are also pope e issues and tl | oular overseas (Haruki M., Banana Y., hemes raised in the text as their own | |
| Recommendation | Students do weekly preparations and | assignments. | | |
| for Private Study | Review new vocabulary to be quizzed | l on regularly. | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by the le | ecturer. | | |
| References | Chu-jo kyu gakushusha muke Nihonb | unka o yomu, A | ALC | |
| Assessment | Mid-term exam (30%), Final exam (30 | 0%), Assignmer | nts (20%), Word quiz (20%) | |
| Supplementary Information | Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination. | | | |

| Course Title | Japanese 4 Writing II | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period:1 | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor (| Office No.3-6 0 | 97-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | |
| Aims | | on various them | derstand and detailed essays by learning nes. They will also learn the basics of writing | |
| Learning Outcomes | 1.To be able to write easy-to from the course themes.2. To be able to explain some3. To be able to write logical results. | what complicate | | |
| Content | weaknesses in writing by dis- | s academic repor y enhance stude t to write on cussing and wi | | |
| Recommendation | Students write a composition | every week. | | |
| Textbooks | To be prepared and provided | by the lecturer. | | |
| References | Daigaku de manabu tameno nihongo raityingu, Japan times, 2006 Kakukoto o tanoshimu chukyusakubun, Bonjinsha, 2020 Nihongo o manabuhito no tameno Akademikku raityingu koza, ASK, 2020 | | | |
| Assessment | | | | |
| Supplementary Information | Interim report (30%), Final report (30%), Assignments (40%) Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report. | | | |

| Course Title | Japanese 4 Contextual Japanese II | | | |
|------------------------------|---|--------------------------------|---|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Mondays Period: 2 | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | р | | |
| Aims | _ | to put their a | panese language skills. It places an already acquired Japanese skills into nvironments. | |
| Learning | Students will acquire necessary skills | s to participate | in discussions in Japanese, as well as | |
| Outcomes | learning how to fluently express their | own opinions | and analysis in Japanese. | |
| Content | Orientation Learning from media materials Independent Project 1 Independent Project 2 Independent Project 3 Independent Project 4 Presentation, comments Presentation, comments Final Exam (Specific modes of teaching to enhance Students are required to actively par | 2 3 4 5 6 7 8 nce students' le | liscussion session in Japanese. | |
| Recommendation | Students are expected to study at lea | ast 2 hours per | week on homework and reviewing | |
| for Private Study | after the class. | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by Lecturer. | | | |
| References | References will be given as needed. | | | |
| Assessment Criteria | Participation (20%)、Project (30%)、Assignments (20%) Examination (30%) | | | |
| Supplementary Information | | anese courses | enroll in this course have taken or s. Students must attend more than 70% xamination. | |

| Course Title | Japanese 5 Speaking | | | |
|------------------------------|--|------------------------------------|--|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Thursdays 2 nd period Fall: Mondays 1 st period | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | ip | | |
| Aims | This course is for advanced learners | s. It is designed | to improve speaking skills. | |
| Learning Outcomes | Students will be able to do the following: 1. To deliver a 3-minute speech composed of many paragraphs. 2. To describe and explain complicated matters. etc. 3. To speak appropriately in a polite manner. 4. To accept different thoughts and opinions, etc. | | | |
| Content | Guidance Introducing yourself effectively How I started to do ~ Talking about your experience of the sequence of more Explaining the sequence of more Explaining the sequence of more Mid-term Exam Talking about the interesting as to the sequence of more More than the sequence of more Mid-term Exam Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as to the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the interesting as the sequence of more Talking about the i | vement 1 vement 2 spects of your h | obby, sports, and the like | |
| Recommendation | Students are expected to study at le | ast 2 hours per | week on homework and reviewing | |
| for Private Study | after the class. | | | |
| Textbooks | Nihongo jookyuu washa e no michi, 3A-Network | | | |
| References | References will be given as needed. | | | |
| Assessment Criteria | Participation, homework (30%), Mid-term exam (30%), Final exam(40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination. | | | |
| Supplementary Information | This course is for students whose presult of the CIER placement test or 4 Speaking Course (Grade B or about | students who h | in Japanese is 5 according to the nave successfully completed Japanese | |

| Course Title | Japanese 5 Reading / Writing II | | |
|------------------------------|--|--|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Wednesdays 1st Period |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | р | |
| Aims | and which are different from the texts | s provided in Ja | nodern Japanese literature in the original, apanese 5 Reading/Writing I, in order to nts will learn the basic skills of academic |
| Learning Outcomes | Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields. Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly. Students read modern Japanese literature and enable to explain the content. Students get insight into Japanese society and how Japanese think. Students learn the structures of paragraphs, and enable to write summaries and opinions. | | |
| Content | academic fields. Structures each 1. written language 2. structures of a paragraph 3. outline and complex sentences 4. theory evolution and sentence 5. theory evolution and sentence 6. summary 7. Mid-term II. Writing: structures each week inc 8. learn fundamental way of writin 9. learn how to describe situation 10. learn how to compare and cont 11. learn how to write cohesive sur III. Read short novels in the original, 12-15. Fiction reading (Specific modes of teaching to enhal | week include the structure 1 structure 2 clude the following papers and express operadict mmaries and learn vocance students' learn control of the students | ings: pinions abulary and expressions. |
| Recommendation | Students are expected to study about | ut 2 hours per v | veek on such as checking the meaning |
| for Private Study | of words, reading texts, and writing a | and rewriting co | ompositions. |
| Textbooks | Japanese for International College / | Graduate Stud | ents 3: Reading Essays, ALC |
| References | Japanese for International College / Graduate Students 2: Writing Essays, ALC Japanese for International College / Graduate Students 4: Writing Essays, ALC | | |
| Assessment | Mid-term exam 30%, Final exam 30% | %, composition | 20%, homework 10%, |
| Criteria | class performance, etc. 10%. | | |
| Supplementary Information | | e. It is required | d to be at JLPT N1 level. Japanese 5 that students attend more than 70% of ation. |

| Course Title | Japanese 5 Grammar II | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period:1 | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Flo | or Office No.3-6 | 6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | - | | erly use intermediate and advanced grammar e various expressions in daily conversation and | | |
| Learning Outcomes | To learn advanced level (No. 2. To understand the meaning) To use those similar expressions | g and usage of | • | | |
| Content | board so that they can corre | g to enhance sto ces using the le ct each other. I | udents' learning) arned sentence patterns and write them on the f there is any misuse, they will think about it in narp sense of language in Japanese. | | |
| Recommendation | Students prepare, review an | d submit weekl | y assignments. | | |
| Textbooks | To be prepared and provided | d by the lecture | r. | | |
| | Donna toki tsukau Nihongo I | nyogen bunkei j | iiten, ALC | | |
| References | Kurabete wakaru Nihongo h | | | | |
| | Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten, ASK | | | | |
| Assessment | Mid-term exam (40%), Final | | | | |
| Supplementary Information | Permission to attend this class depends on the result of a placement. This course is aimed at upper level students. Knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at N2 of JLPT is a prerequisite. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination. | | | | |

| Course Title | Independent Research Project I | | | |
|----------------------------------|---|------------------|---|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Fridays, 5 th period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd floor Office | No. 3-4 097-5 | 54-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | |
| Aims | This course will provide students with in which students have been engage | _ | search skills and experience in the field | |
| Learning Outcomes | Students will gain further knowledge for the research project. | ge and understan | iding of the area that they have chosen | |
| Content | Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester. The procedure is as follows: 1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester); 2. Make a project plan with your supervisor; 3. Engage in the research under the guidance of your supervisor; 4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Weekly assignments and tests are given in order to assist students to acquire grammar. A supervisor is able to monitor his student's progress. | | | |
| Recommendation for Private Study | Students should start the project as early as possible and they should work on it every week. Whenever they encounter a problem, seek their supervisor immediately. | | | |
| Textbooks | None. | | | |
| References | To be provided by supervisor. | | | |
| Assessment Criteria | Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100% Note: Penalties will be incurred for late submission. | | | |
| Supplementary Information | Important Note: Students should p the first Friday of the Semester at t | | of their proposal with Prof. Nagaike by | |

| Course Title | Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students | | | |
|----------------------------------|---|------------------------|----------------------|--|
| Lecturer | Instructors of GAIA | Faculty GAIA | | |
| Credit | To be announced | Timetable | To be announced | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd floor | | | |
| Aims | This is a six-month beginners' Japanese course for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders. Students study the basic Japanese to acquire listening, speaking, reading and writing skills. Basic English language ability is required. All seven classes are co-requisites. | | | |
| Learning Outcomes | To learn basic daily conversation s To be able to read and write hiraga To be able to read and write short | ana, katakana, | and basic kanji | |
| Content | To be able to read and write short passages Grammar, expression, and vocabulary will be taught in close relationship to the associated language functions. Some of the major functions to be covered in this course are: 1. greetings 2. self-introduction 3. counting and telling time 4. shopping 5. telling your schedule 6. making a plan 7. inviting 8. describing location 9. telling what you did 10. expressing likes and dislikes 11. telling reasons 12. making requests 13. giving permission 14. prohibiting 15. identifying people [Specific modes of teaching to enhance students' learning] Various activities such as pair work, role play, and so on are designed for students to | | | |
| Recommendation for Private Study | Revision and preparation of each les | sson. | | |
| Textbooks | Genki I: An Integrated course in Eler Genki I Workbook, The Japan Times | | ese, The Japan Times | |
| References | Recommended: A Dictionary of Basic Japanese Gran | <i>mmar</i> , The Japa | an Times | |
| Assessment Criteria | Spoken test 30%, Weekly tests and Assignments 30%, Final Exam 40% | | | |
| Supplementary Information | This course is offered for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders (Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students). | | | |

| Course Title | Japanese 3 Reading I | | | | | |
|-------------------|--|------------------|---|--|--|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Wednesday Period: 2 | | | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp | | | | | |
| Aims | Read short stories at the first interme | ediate level abo | out Japan and understand them. | | | |
| | 1. Understand the structure of senter | nces. | | | | |
| Learning | 2. Search for necessary information | in sentences qu | uickly. | | | |
| Outcomes | 3. Learn the proper usages of conjur | nctions and adv | erbs. | | | |
| | 4. Learn about Japanese life and cul | ture. | | | | |
| | 1. Guidance | | | | | |
| | 2. story 1 | | | | | |
| | 3. story 2 | | | | | |
| | 4. story 3 | | | | | |
| | 5. story 4 | | | | | |
| | 6. story 5 | | | | | |
| | 7. story 6 | | | | | |
| | 8. Mid-term Exam | | | | | |
| Oantant | 9. story 7 | | | | | |
| Content | 10. story 8 | · | | | | |
| | 11. story 9 | | | | | |
| | 12. story 10 | | | | | |
| | 13. story 11 | | | | | |
| | 14. story 12 | | | | | |
| | 15. review | | | | | |
| | 16. Final Exam | | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enhar | nce students' le | arning) | | | |
| | Time for pair-work or group-work will | be allotted in o | class. | | | |
| Recommendation | Students are expected to review after | r every class a | nd to prepare for the quiz every time. | | | |
| for Private Study | | | | | | |
| Textbooks | Handouts will be distributed every tin | ne. | | | | |
| References | References will be given as needed. | | | | | |
| A00-00-0-1 | Participation, Quizz (30%) , Mid-term exam (30%), Final exam(40%) | | | | | |
| Assessment | Students required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final | | | | | |
| Criteria | examination. | | | | | |
| | This course is for pre-intermediate | e level studen | ts who have successfully completed | | | |
| Supplementary | • | | • . | | | |
| Information | elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. | | | | | |
| | <u>'</u> | | · | | | |

| Course Title | Japanese 3 Writing I | | | |
|---------------------|--|-------------------|---|--|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Mondays Period: 1 | |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | | |
| | This course is designed to develop v | writing skills by | writing 600~700 word-letter essays on | |
| Aims | familiar topics using first intermediate level vocabularies, expressions, and grammars. | | | |
| | 1. Be able to write Japanese compos | sitions using cle | ear, developed paragraphs. | |
| Learning | 2. Understand sentence construction | on and write s | entences that uses conjunctions and | |
| Outcomes | adverbs effectively. | | | |
| | 3. Understand how to use traditional | Japanese mar | nuscript paper properly. | |
| | 1. Guidance | | | |
| | 2. Self-introduction | | | |
| | 3. Introduce a friend | | | |
| | 4. Request a person to do | | | |
| | 5. Describe things | | | |
| | 6. Tell the news | | | |
| | 7. Review | | | |
| | 8. Mid-term Exam | | | |
| Content | 9. Express oneself | | | |
| Contont | 10. Foresee the future | | | |
| | 11. Assert oneself | | | |
| | 12. Image of Japanese | | | |
| | 13. Prepare for an interview | | | |
| | 14. The results of the interview | | | |
| | 15. Presentation | | | |
| | 16. Final Exam | | | |
| | (Specific modes of teaching to enha | | • | |
| | Time for pair-work and short present | ation will be all | otted in class. | |
| Recommendation | Review after every class. | | | |
| for Private Study | Preparation for presentation. | | | |
| Textbooks | Handouts will be distributed every cl | | | |
| References | References will be given as needed. | | | |
| Assessment Criteria | Participation & Homework (10%), Tasks (15%), Presentation (20%), Exams (55%) | | | |
| | This course is for pre-intermediate | e level studen | ts who have successfully completed | |
| Supplementary | elementary level courses or students | whose proficie | ency level in Japanese is 3 according to | |
| Information | the result of the CIER placement t | est. The class | will be conducted in Japanese. It is | |
| | required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take | | | |
| | the final examination. | | | |

| Course Title | Japanese 4 Grammar I | | | |
|------------------------------|--|---------------------------------|--|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako Faculty Global Education and Intercultur Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Monday Period:2 | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp | | | |
| Aims | This course is designed to improve in | ntermediate-lev | vel grammatical knowledge further. | |
| Learning | Understand the meaning and usage | of intermediate | -level grammar points and expressions | |
| Outcomes | and use them accurately. | | | |
| Content | and use them accurately. The textbook is the same as that is used in Japanese 4 Grammar II. Lessons1 through 6 and Lessons17 through 20 will be covered in this course. 1. Guidance 2. Particles with various functions 3. Topicalization 4. Phrases used like grammatical particles 1 5. Phrases used like grammatical particles 2 6. Phrases used like grammatical particles 2 7. Phrases used like grammatical particles 3 8. Mid-term Exam 9. How to nominalize verbs and adjectives 1 10. How to nominalize verbs and adjectives 2 / Expanding your vocabulary 1 11. Expanding your vocabulary 2 / Formal sentences 1 12. Formal sentences 2 / Polite expressions 1 13. Polite expressions 2 14. Cohesion in conversation and written language 1 15. Cohesion in conversation and written language 2 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) | | | |
| Recommendation | Students are expected to study at lea | ast 2 hours per | week on homework and reviewing | |
| for Private Study | after the class. | 0.115.11.55 | N. (OA N. (| |
| Textbooks | "Chuukyuu Nihongo Bumpoo Yooten | | , | |
| References | "A Dictionary of Basic Japanese Gra | , | | |
| Assessment Criteria | "A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar" (The Japan Times) Participation, homework (30%), Mid-term exam (30%), Final exam(40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination. | | | |
| Supplementary Information | intermediate level courses or studen | ts whose proficest. The class w | ho have successfully completed pre- ciency level in Japanese is 4 according will be conducted in Japanese. Students 00 basic kanji. | |

| Course Title | Japanese 4 Reading I | | |
|----------------------------------|---|-----------------|---|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period:1 |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office | No.3-6 097-5 | 54-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp |
| Aims | Students will acquire reading comprehension to read academic texts by reading essays, newspaper articles, data, etc. on several themes. Also, through reading activities, they will not only gain knowledge about Japanese society, but also gain the ability to think for themself on social themes. | | |
| Learning Outcomes | To be able to read cohesive texts on social themes. To accurately understand information and data. To be able to quickly understand and comprehend the content and main points of texts. To develop critical thinking skills using the acquired knowledge from the course content. | | |
| Content | 1. Orientation / I and Japan ① 2. I and Japan ② 3. I and Japan ③ 4. I and Japan ④ 5. Children and education ① 6. Children and education ③ 8. Mid-term exam 9. Youth sensibility ① 10. Youth sensibility ② 11. Youth sensibility ③ 12. Youth sensibility ④ 13. Work consciousness ① 14. Work consciousness ② 15. Work consciousness ③ 16. Final exam (Specific modes of teaching to enhance Students will expand their knowledge each theme through issues familiar to | through reading | arning) g material and data. They will also discuss |
| Recommendation for Private Study | Students should do weekly preparati quizzes. | ons and assign | nments, as well as reviews prior to word |
| Textbooks | To be prepared and provided by the le | | |
| References | Chukyu nihongo kyokasho watashi nc Chu-jokyu nihongo kyokasho Nihon e | | |
| Assessment | Mid-term exam(30%), Final exam(30%) | | |
| Supplementary Information | at intermediate level students. Stude have a vocabulary of 3000 words. | nts taking this | of a placement test. This course is aimed course should know about 500 kanji and that the than 70% of the class time to be eligible |

| Course Title | Japanese 4 Writing I | | |
|------------------------------|--|------------------|---|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period:2 |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office | e No.3-6 097 | -554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp |
| Aims | reports, presentation manuscripts | , emails, etc.). | rts according to their purpose (academic To that end, they learn expressions and lation and how to write logical sentences. |
| Learning Outcomes | To be able to write sentences according to the situation (academic reports, presentation manuscripts, emails, etc.). To be able to explain some somewhat complicated ideas and information. To be able to write logical reports of 800 characters or more. | | |
| Content | 3. To be able to write logical reports of 800 characters or more. 1. Orientation / Self-introduction 2. Hometown introduction 3. How to write emails ①: Formal email, basic expressions 4. How to write emails ②: Email according to the situation 5. Recommend favorites 6. Advice: Study abroad life in Oita 7. Peer reading ① 8. Formal written Japanese 9. Explaining differences 10. Reporting events 11. Explaining origins and meanings 12. Expressing an opinion 13. Thinking about logical connections: Conjunctions and demonstrative pronouns 14. Basic knowledge of writing reports 15. Peer reading ② / Summary (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students will learn many useful and practical expressions. They will practice writing composition on a range of scenarios every week. In addition, through peer reading they will learn writing skills alongside their classmates and improve their writing ability. | | |
| Recommendation | Students write a composition ever | y week. | |
| Textbooks | To be prepared and provided by the | ne lecturer. | |
| References | Ryugakusei no tameno kokogatais Shoronbun eno 12 no suteppu, 3A | | nyougen no ruru, 3A Network |
| Assessment | Interim report (30%), Final report (| 30%), Assignm | nents (40%) |
| Supplementary Information | Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report. | | |

| Course Title | Japanese 4 Contextual Japanese I | | | |
|------------------------------|---|-----------------|---|--|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Tuesday Period: 1 | |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac.j | р | | |
| Aims | | to put their a | panese language skills. It places an already acquired Japanese skills into nvironments. | |
| Learning Outcomes | Students will acquire necessary skills learning how to express their own op | | in discussions in Japanese, as well as alysis in Japanese. | |
| Content | 1. Orientation 2. Learning from media materials 1 3. Learning from media materials 2 4. Learning from media materials 3 5. Learning from media materials 4 6. Learning from media materials 5 7. Learning from media materials 6 8. Learning from media materials 7 9. Learning from media materials 8 10. Independent Project 1 11. Independent Project 2 12. Independent Project 3 13. Independent Project 4 14. Presentation, comments 15. Presentation, comments 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students are required to actively participate in the discussion session in Japanese. | | | |
| Recommendation | Students are expected to study at lea | ast 2 hours per | week on homework and reviewing | |
| for Private Study | after the class. | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by Lec | turer. | | |
| References | References will be given as needed. | | | |
| Assessment | Participation (20%)、Project (30%) |)、Assignments | s (20%) Examination (30%) | |
| Supplementary Information | It is recommended that students who wish to enroll in this course have taken or simultaneously take other level 4 Japanese courses. Students must attend more than 70% of the class meeting to be eligible to take the final examination. | | | |

| Course Title | Japanese 5 Reading / Writing I | | |
|------------------------------|--|--|---|
| Lecturer | OTSUBO, Minako | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Wednesdays 1 st Period |
| Lecturer's Office | mohtubo@nm.beppu-u.ac. | р | |
| Aims | This course aims to introduce academic papers and modern Japanese literature, and develop a higher level of reading competency. Students will learn the basic skills of academic writing as well. | | |
| Learning Outcomes | Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields. Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly. Students read modern Japanese literature and enable to explain the content. Students get insight into Japanese society and how Japanese think. Students learn the structures of paragraphs, and enable to write short paper. | | |
| Content | I. Reading: read a variety of literary academic fields. Structures each w. 1. written language 2. topic, main idea, and particles 3. main sentences and subordinat 4. quotation, conjunction 5. facts and ideas 6. paragraph construction 7. Mid-term exam II. Writing: structures each week incl. 8. learn fundamental way of writin 9. learn how to use written langua 10. learn how to presenting topics 11. learn how to define and classify III. Read short novels in the original, 12-15. fiction reading (Specific modes of teaching to enhal Feedbacks of compositions will be gestudents to rewrite compositions. | eek include the e sentences, de ude the following g papers ge and learn voca | emonstrative phrases ngs: |
| Recommendation | Students are expected to study about | ut 2 hours per v | veek on such as checking the meaning |
| for Private Study | of words, reading texts, and writing a | and rewriting co | empositions. |
| Textbooks | Japanese for International College / | Graduate Stud | ents 3: Reading Essays, ALC |
| References | Japanese for International College / Japanese for International College / | | • |
| Assessment | Mid-term exam 30%, Final exam 30 | %, composition | 20%, homework 10%, |
| Criteria | class performance, etc. 10%. | | |
| Supplementary Information | In order to take this course, students are expected to be at JLPT N1 level. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination. | | |

| Course Title | Japanese 5 Grammar I | | |
|------------------------------|---|---------------|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period:2 |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor Of | fice No.3-6 | 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp |
| Aims | 1 | | ly use intermediate and advanced grammar various expressions in daily conversation and |
| Learning Outcomes | To learn advanced level (N1 of 2. To understand the meaning an 3. To use those similar expression) | d usage of s | similar expressions. |
| Content | To use those similar expressions accurately and precisely. Orientation / Simultaneous Start & end point Incidental situation Before and after Adjunct Conditions Connect Mid-term exam Rationality Forced Feelings State Degree Others Summary Final exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students make short sentences using the learned sentence patterns and write them on the board so that they can correct each other. If there is any misuse, they will think about it in | | |
| Recommendation | Students prepare, review and sul | bmit weekly | assignments. |
| Textbooks | To be prepared and provided by | the lecturer. | |
| References | Donna toki tsukau Nihongo hyogen bunkei jiten, ALC Kurabete wakaru Nihongo hyogen bunkei jiten, J-research Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten, ASK | | |
| Assessment | Mid-term exam (40%), Final exar | n (40%), Ass | signments (20%) |
| Supplementary Information | at upper level students. Knowled of JLPT is a prerequisite. | lge of Japan | ne result of a placement. This course is aimed nese grammar equivalent to that tested at N2 tend more than 70% of the class time to be |

| Course Title | Academic Writing in Japanes | se | | |
|------------------------------|---|--|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 3 | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floo | r Office No.3-6 | 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | |
| Aims | characteristics of reports and | d essays and, the teresting and co | essays. To do this, students will learn the le appropriate vocabulary and writing style to mpelling report, focusing on how to choose a lices. | |
| Learning Outcomes | language and use them prop 2. To be able to use the expi | To recognize the difference in vocabulary and writing style between spoken and written language and use them properly. To be able to use the expression patterns required to write a report. To write a report of 5000 characters or more, including an introduction, main theory, | | |
| Content | 1. Orientation / Before writing 2. Type and composition of s 3. Basics of reports and treat 4. Report of pros and cons 5. Quoting rules and method 6. Data presentation and and 7. Data presentation and and 8. Structure of report and tre 9. How to write an introduction 10. How to write a main theo 11. How to write a main theo 12. How to write a conclusion 13. How to write a research 14. Sentence clarity 15. Sentence cohesion (Specific modes of teaching The teacher will point out methods instruct the students on correct | sentences tises (Academic s alysis ① alysis ② atise on ary ① Explanatio ry ② Argument n plan g to enhance stud isuse of express | and formal expression) on mode mode dents' learning) sion and style in submitted assignments and | |
| Recommendation | Students should write an ess | say using acader | nic writing style every month. | |
| Textbooks | To be prepared and provided | d by the lecturer. | | |
| References | Good writing eno pasupoto, Repoto - Ronbun Hyogen H | | daigaku shuppankai etc | |
| Assessment | Interim reports (20% × 3), Fir | nal report (40%) | | |
| Supplementary Information | This course is for very advar Permission to attend this cla | nced students. C | class enrollment will be limited to 20 students. The result of a placement test. The tend more than 70% of the class time to be | |

| Course Title | Independent Research Project II | | |
|----------------------------------|---|-------------------|---|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Fridays, 5 th period |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd floor Office | No. 3-4 097-554 | 4-7953 nagaike@oita-u.ac.jp |
| Aims | This course will provide students win which students have been engage | • | earch skills and experience in the field |
| Learning Outcomes | Students will gain further knowledge for the research project. | ge and understand | ing of the area that they have chosen |
| Content | Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester. The procedure is as follows: 1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester); 2. Make a project plan with your supervisor; 3. Engage in the research under the guidance of your supervisor; 4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) A supervisor is able to monitor his student's progress. | | |
| Recommendation for Private Study | Students should start the project as early as possible and they work on it every week. Whenever they encounter a problem, seek their supervisor immediately. | | |
| Textbooks | None. | | |
| References | To be provided by supervisor. | | |
| Assessment Criteria | Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100% Note: Penalties will be incurred for late submission. | | |
| Supplementary Information | Important Note: Students should provide an outline of their proposal with Prof. Nagaike by the first Friday of the Semester at the latest. | | |

| 2. Global Studies Co (offered in either l | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| Course Title | Analysis of Japanese Grammar | | | | |
|----------------------------------|--|---------------|---|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Tuesdays Period:2 | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor C | Office No.3-6 | 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | _ | anding of Ja | n various linguistic perspectives. Through this work, apanese as a language and develop the ability to eneral, not limited to Japanese. | | |
| Learning Outcomes | 2. To compare Japanese with ot | her language | pply it to the analysis of words and sentences. es and explain the similarities and differences. Japanese as a foreign language. | | |
| Content | To propose a method to effectively teach Japanese as a foreign language. Introduction: What is "Analysis of Japanese Grammar" Analyzing Japanese from linguistics ① Language characteristics Analyzing Japanese from linguistics ② Language function Japanese in the world Japanese grammar system ① Basic sentence patterns / Particles, etc. Japanese grammar system ② Benefactive expression / Honorific Japanese grammar system ③ Predicate structure and function Japanese language teaching method ① Teaching material analysis Japanese language teaching method ② Creating a lesson plan Japanese mock lessons ① Japanese from the perspective of pragmatics ① Japanese from the perspective of pragmatics ② Japanese from the perspective of cognitive linguistics ① Japanese from the perspective of cognitive linguistics ② Final exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Japanese students and international students form groups and analyze Japanese from various perspectives. By presenting the results and experiencing a mock lesson that teaches Japanese, | | | | |
| Recommendation for Private Study | they will develop the ability to analyze the language objectively. Students do weekly preparations and assignments. They prepare for group presentations and mock lessons. | | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by | the lecturer. | | | |
| References | Nihongokyoshi no tameno oyoninchigengogaku, Bonjinsha Nishongokyoshi no tameno nyumon gengogaku -Enshu to kaisetsu, 3A Network Shin kokokara hajimaru nihongogaku, Hitsujishobo Nihongokyoiku no stato rain, 3A Network | | | | |
| Assessment | Final examination (50%), Mock I | esson (30%) | , Assignments (10%), Class performance (10%) | | |
| Supplementary Information | It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination. In the case of international students, knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at level 1 of the Japanese Language Proficiency Test is a prerequisite. | | | | |

| Course Title | Business Japanese Seminar 3 | | | | |
|----------------------------------|--|-------------|---|--|--|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Mondays Period: 2 | | |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | | | |
| Aims | This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and enhancing not only their reading skills but also describing and expressing their own opinions of newspaper articles, news and topics related mainly to economics. | | | | |
| Learning Outcomes | Choose appropriate information Organize, summarize and accurately communicate the newspaper articles Communicate clearly the contents of newspaper articles Critique objectively on the newspaper articles Utilize appropriate objectively information and express opinions | | | | |
| Content | 1. Orientation and outline of course 2. Significance of selecting media information (media literacy) 3. Read newspaper articles 4. Summarize newspaper articles after reading 5. Critique on newspaper articles after readings 6. Listen to news items 7. Summarize news items after listening 8. Critical listening 9-13. Select information to describe and express opinions 14. Presentations 15. Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) • Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate. • Hold team discussions and debate. | | | | |
| Recommendation | Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric. Get into the habit of watching Japanese news. | | | | |
| for Private Study | Fannamia nassa and as a to for | haitas es e | man antiala a and le anderste | | |
| Textbooks | Economic news and movies from we | • | | | |
| References Assessment Criteria | Japanese dictionaries, other. To be instructed in class. Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%) | | | | |
| Supplementary Information | The course is also open to other students. | | | | |

| Course Title | Business Japanese Seminar 4 | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|--|--|--|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Tuesdays Period: 1 | | | |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | | | | |
| Aims | This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring necessary speaking and conversational skills together with writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves. | | | | | |
| Learning Outcomes | Summarize information and commConduct conversation in business | Utilize various resources in collecting information Summarize information and communicate comprehensively Conduct conversation in business settings Formulate and write business documents (E-mail or documents) | | | | |
| Content | Orientation and outline Industry, occupation and the company Decide a subject corporation for research Formulate a project plan by the team Collect data and conduct online or e-mail negotiations Summary and report writing Presentations Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) In a team, research a company, negotiate, visit the company, and conduct an interview. In addition to creating a team report, also create an individual report. | | | | | |
| Recommendation for Private Study | Get into the habit of watching Japanese news. | | | | | |
| Textbooks | Handouts | | | | | |
| References | Japanese dictionaries, other. To be in | nstructed in cla | ss. | | | |
| Assessment Criteria | Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%) | | | | | |
| Supplementary Information | The course is also open to other students. | | | | | |

| Course Title | Learning Oita Through Kyogen | | | | |
|-------------------|--|------------------------|--|--|--|
| Lecturer | Keizo NANRI, Yoriko NISHIJIMA | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| | | | Semester 1 | | |
| Credit | 2 | Timetable | Day of the Week: Tuesdays | | |
| | | | Period: 4 th Period | | |
| Lastriania Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic | ce No. 5 097-55 | i4-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic | ce No. 6 097-55 | i4-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | | |
| | This course aims to provide studen | ts with knowled | dge and experience sound enough to | | |
| Aims | appreciate traditional Japanese socie | ety and current | Oita culture through writing a script for | | |
| Aiiiis | kyogen play and role-playing the so | enario in the s | cript on the <i>noh</i> stage. The course is | | |
| | taught in Japanese. | | | | |
| Learning | By the end of the semester, students | will be able to t | alk about the history of <i>kyogen</i> , to draft | | |
| Outcomes | a short <i>kyogen</i> script, will understand | d basic patterns | s of <i>kyogen</i> moves and phonation, and | | |
| Outcomes | will become familiarized with some c | ultural issues ir | n Oita. | | |
| | Week1: Orientation, the History and | plots of <i>kyogen</i> | | | |
| | Week 2: Basic moves in kyogen | | | | |
| | Weeks 3-6: Typical plots of <i>kyogen</i> | | | | |
| | Week 6: Kyogen workshop @ Nhogakudo | | | | |
| | Week 7-12: Script writing | | | | |
| | Week 13-14: Script revision, Script p | erforming | | | |
| Content | Week 15: Performance Examination @ Nhogakudo | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enhance students' learning) | | | | |
| | | | edge from reading materials but with | | |
| | · | • | en on the sage under the guidance of a | | |
| | | | ouraged to actively conduct a research | | |
| | on Oita local culture. | o ure aloo erroc | draged to dolivery conduct a research | | |
| Recommendation | 2 to 4 hours per week are required t | to make yourse | elf familiarized with kyogen moves and | | |
| for Private Study | phonation. About 3 hours per week v | • | | | |
| Textbooks | Hand-outs will be provided in the class. | | | | |
| References | A list of references will be provided in the class. | | | | |
| A = = = = = 1 | General introduction to kyogen (10° | %), plot outline | (5%); script submissions 1 to 3 (5% | | |
| Assessment | ent each) final script submission (10%) performance test (10%); final performance | | | | |
| Criteria | [script memorizing 20%, acting15%, | plot originality | 15%]). | | |
| | Students who fail to attend 70% of the | ne classes fail the | nis course, and are not eligible to sit | | |
| Supplementary | | | | | |
| Information | and the maximum number of students to be enrolled is 20. Students are also required to | | | | |
| | addend the <i>Kyogen</i> Workshop in May. | | | | |
| | , | | | | |

| Course Title | Sustainability and Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分 2 | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---|--|--|--|
| Lecturer | BURKART, Kaori I. | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Thursdays 4 th 前期:木 4 | | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office N | lo. 3-3 kbu | urkart@oita-u.ac.jp | | | |
| Aims | globally and in Oita. The course is in essential to creating a sustainable further themes related to our immediate sur empower students to reconsider their | The main purpose of this course is to discuss key sustainable development issues globally and in Oita. The course is intended to develop knowledge, attitudes, and values essential to creating a sustainable future through familiar environmental and social themes related to our immediate surroundings. It is also designed to motivate and empower students to reconsider their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development from a democratic perspective. | | | | |
| Learning Outcomes | Conduct their own research and knowledgeCompare and contrast cultural el | Compare and contrast cultural elements behind international relationships | | | | |
| Content | Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course Week 2: Theme 1-1 What's your favorite 100-yen shop? Week 3: Theme 1-2 Responsible consumption Week 4: Theme 2-1 Food waste causes lifestyle diseases?! Week 5: Theme 2-2 Obesity and starvation: Health and Welfare Week 6: Oita City Environmental Faire Visit Week 7: Sustainability-related movie watch Week 8: Movie Talk (group discussions) Week 9: Theme 3-1 Wars triggered by your mobile phone?! Week 10: Theme 3-2 Global disparity Week 11: Theme 4-1 Poverty issues Week 12: Theme 4-2 What do you mean by equity? Week 13: Presentation 1/2 Week 14: P presentation 1/2 Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion < Specific modes of teaching to enhance students' learning > Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation | | | | | |
| Recommendation for Private Study | Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper. | | | | | |
| Textbooks | To be provided by the instructor | | | | | |
| References | Additional materials are provided on | Additional materials are provided on the class website. Please check periodically. | | | | |
| Assessment | Homework & online discussion 20%; | | | | | |
| Criteria Supplementary Information | Presentation (individual) 40%; Final Report 40% In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese. このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。 | | | | | |

| Course Title | City Project: Oita & Beppu | | | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|--|--|
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: 1 Day of the Week: Fridays Period: 3 | | | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic | ce No. 5 097-55 | 54-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | | |
| Aims | shi within the framework of design the | This course aims to critically but constructively review the streetscapes in Beppu-shi and Oitashi within the framework of design thinking. The areas to be reviewed are the central areas of Oita and Beppu-shi, and Kannawa area in Beppu. | | | | |
| Learning Outcomes | By the end of the course, students will have a good understand of the following: (1) what major cultural facilities in Oita-shi are like and what they need to improve to attract visitors through a comparison with similar facilities in other cities, (2) the significance of the existence of old folk houses in cities such as Beppu, (3) the uniqueness of onsen in Beppu, and (4) some universal characteristics of onsen. | | | | | |
| Content | , - | e central area ging Japan by on the interne ance students' ared with class bugh field trips a | et and plan events | | | |
| Recommendation for Private Study | 2 hours weekly will be needed for class preparation, and one hour for reviewing class content. | | | | | |
| Textbooks | Handouts to be provided in class. | | | | | |
| References | A list of references to be provided in | class. | | | | |
| Assessment Criteria | Presentation 1 (20%), Presentation 2 (30%), Assignments (5 x 10%). | | | | | |
| Supplementary Information | Students are required to attend at least 70% of the classes. The sessions are given in Japanese and English, but the former is the major medium language. If this course have overseas students who cannot come to Japan due to the pandemic of the new coronavirus, there will be no field trip and all sessions will be zoom sessions. | | | | | |

| Course Title | Oita Area Studies | | | | | |
|----------------------|--|--|--|--|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period: 2 | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor O | office No.3-6 | 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | | | |
| Aims | Students learn about Oita's society and history from the perspectives of plurilingualism and pluriculturalism. Through group work and fieldwork, they will not only have a deep understanding of Oita, but also be able to consider solutions to local problems from diverse cultural backgrounds and ways of thinking. Through activities on the Internet in multiple languages, they will be able to recognize various languages and raise interest in them. | | | | | |
| Learning Outcomes | To understand the history and social problems of Oita and propose solutions. Through these activities, be able to understand one other as individuals with different cultural and language backgrounds. To understand the diversity of languages through working in their mother tongue alongside other languages. | | | | | |
| Content | 5. Discussion (solution to the de 6. Creating and publishing an ir 7. History of Christians in Oita 8. Preparation for coverage 9. Visit to Taketa City (Taketa Ca 10. Discussion (Society that acc 11. Creating and publishing an 12. Summary: Final discussion 13. Presentation (Specific modes of teaching to 6. The policy of this class is to be | pulated area is epopulation proternet magazine Chapel, Talcepts diversity internet magazenhance studie agnostic to a | keda Christian Museum; converted to 2 lessons) y) nzine | | | |
| Recommendation | Students do weekly preparation | ns and assigni | ments. | | | |
| for Private Study | They prepare for group work ar | nd write article | es in a magazine. | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by | y the lecturer. | | | | |
| References | Reference materials will be pos | ted on Moodle | e for each issue | | | |
| Assessment | Fieldwork (10% x 2), Discussion | n (10% x 2) R | eport (10% x 2), Final presentation and report | | | |
| Criteria | (30%), class performance (10% | o) | | | | |
| | The maximum number of parti | icipants is 30 | . Intermediate to super advanced Japanese | | | |
| Supplementary | learners can register for this cla | ss. Intermedia | ate level learners must have knowledge of 500 | | | |
| Information | kanji and 3000 vocabulary. It is a requirement that a student should attend more than 70 | | | | | |
| | of the class time to be eligible for the final tasks. | | | | | |

| Course Title | Intercultural Communication | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---|--|--|--|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | E, Kazumi Faculty Global Education and Intercultural Advancement | | | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Tuesdays 3 rd Period | | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3 | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | | | | | |
| Aims | both required, in ord of internationalization concept which are re | Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enhance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological concept which are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, | | | | | |
| Learning Outcomes | Understanding the specific nature of Japanese society and culture: After taking this course, students will be able to explain key concepts concerning Japanese sociocultural structures. Acquiring theoretical perspectives on intercultural communication: After taking this course, students will be able to explain key theories of intercultural communication. Broadening the scope of multiculturalism: After taking this course, students will be able to analyze specific sociocultural circumstances within a broader multicultural context. | | | | | | |
| Content | April 13 th : Introduction and Orientation April 20 th : What is Intercultural Communication? April 27 th : The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (1) May 11 th : The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (2) May 18 th : The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (3) May 25 th : Culture Shock June 1s ^t : Gesture and Non-Verbal Communication June 8 th : Orientalism and Techno-Orientalism (1) June 15 th : Orientalism and Techno-Orientalism (2) June 22 nd : Nationalism and Imagined Community June 29 th : Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people) July 6 th : Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media) July 13 th : Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) (1) July 20 th : Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) (2) July 27 th : Review August 3 rd : Final Exam | | | | | | |
| Assessment | Participation: 20% | Presentation: 3 | 0% Final Examination: 50% | | | | |
| Supplementary Information | The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese. この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プレゼンテーション発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Please turn on your cameras during ZOOM sessions. If you don't, you will fail to gain participation marks for each session. ZOOM 中はカメラを on にしてください。 怠った場合は、participation ポイントがなくなります。 Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination. ※ Room: Kyoyo 26 (from April 19 th) | | | | | | |

| Course Title | Japanese Popular Culture Studies | | | | | |
|------------------------------|--|--|---|--|--|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Wednesday Period: 4 th | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3 | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | | | | |
| Aims | The contemporary debate about Japanese popular culture has provided various important perspectives from which to deal with questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese popular cultural materials—e.g. pre-modern Japanese popular culture, <i>Japanimation</i> (Japanese animations), pop idols, 2.5 dimension, <i>ranobe</i> (light novels), films, et cetera, and discuss the impact of these genres within both the Japanese socio-cultural and global contexts. We will discuss works which have been labeled as belonging to the Japanese aesthetic 'canon' of each period and | | | | | |
| Learning Outcomes | Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures. Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular). | | | | | |
| Content | 1) Introduction to Japanese Popular Culture 2) Ukiyoe (Pre-modern Japanese Popular Culture) 3-5) Anime 6-7) Pop Music and Idols 8) Ranobe (Light Novels) 9-11) Films 12) Voice Actor 13) 2.5 Dimension (Specific modes of teaching to enhance students' learning) This course includes three modes of teaching: lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities. | | | | | |
| Recommendatio | Students are expecte | ed to carefull | y read the assigned readings and summarize each of them | | | |
| n for Private | before class. At leas | st four hours | of private study per week will be required for preparation | | | |
| Study | and review. | | | | | |
| Textbooks | To be prepared and | provided by | Lecturer. | | | |
| References | To be provided by Le | | | | | |
| Assessment | Participation: 20% | Presentation | n: 30% Examination: 50% | | | |
| Supplementary Information | provided in Japane | se. | course is English and supplementary explanation is 70% of classes to be eligible to take the final examination. | | | |

| Course Title | Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | | | | | | | | |
|-------------------|---|---|---|--|--|--|--|--|--|
| Locturor | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement | | | | | | |
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Center | | | | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Wednesdays 3 rd Period | | | | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor O | office No. 3-4 0 | 97-554-7953 <u>nagaike@oita-u.ac.jp</u> | | | | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-3 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | | | | | | | |
| | Fashion in Japan is bound to be " | fashion in Japan is bound to be "boom"-oriented, in accordance with the various kinds of aesthetics which | | | | | | | |
| | have been cultivated during each | d. Accommodating the symbolic forms of beauty favored | | | | | | | |
| | in each period, Japanese fashion magazines have evolved and continue to produce innovative " | | | | | | | | |
| Aims | intended to increase magazine s | ales. In this cour | se, by mainly focusing on fashion magazines for women, | | | | | | |
| | we will learn about period-specifi | c semiotic struct | ures, content, layouts, and the developing audiences for | | | | | | |
| | fashion magazines in Japan. We | will examine a v | rariety of Japanese fashions and related aesthetic forms | | | | | | |
| | and discuss the socio-cultural im | pact of such ger | nres in both the Japanese and global contexts. | | | | | | |
| | 1) Understanding the value of | Japanese fashio | on culture: After taking this course, students will be able | | | | | | |
| | to explain the cultural values | s expressed in Ja | apanese fashion culture and consider the ways in which | | | | | | |
| | Japanese fashion culture re | flects socio-cultu | ıral structures. | | | | | | |
| Learning Outcomes | 2) Understanding the transnationality and globalization of Japanese fashion culture: After taking this | | | | | | | | |
| | course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese fashion culture. | | | | | | | | |
| | 3) Acquiring practical methods to communicate knowledge through project-oriented learning: After | | | | | | | | |
| | taking this course, students will be acquainted with global-standard communication skills. | | | | | | | | |
| | Orientation | | | | | | | | |
| | ● History of <i>kawaii</i> | | | | | | | | |
| | History of cross-dressing in | | | | | | | | |
| | Women's Fashion in Jazz A | | | | | | | | |
| | Blue Denim Pants & Stud | | | | | | | | |
| | Men's Clean-cut Fashion from the control of th | | | | | | | | |
| | Men's Fashion & Japan's E | | | | | | | | |
| Content | Women's Clean-cut Fashio Chibukaii Fashian and Bubl | | | | | | | | |
| | Shibukaji Fashion and BublNyūtora to Konsaba & Mec | • , | , | | | | | | |
| | Gyaru & Kyabajō Fashion (| , | 1960-2000) | | | | | | |
| | Rise and Fall of Women's 0 | • | n (1970-2021) | | | | | | |
| | Cosplay culture | Diean-cut i asino | 11 (1970-2021) | | | | | | |
| | Queer fashion culture (cros | s-dressing in the | 2 21st century) | | | | | | |
| | Review | o di coonig in the | , 21 contary, | | | | | | |
| | Review Final Exam | | | | | | | | |
| Assessment | Participation: 20% Presentation | n: 50% Final F | xamination: 30% | | | | | | |
| | • | | English and supplementary explanation is | | | | | | |
| | | | 言語は主に英語ですが、日本語での説明があり | | | | | | |
| Supplementary | | | 語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選 | | | | | | |
| Information | | | 70% of the class meetings to be eligible to take | | | | | | |
| | the final examination. | | 9 11 1 9 1 1 1 1 | | | | | | |
| | I | | | | | | | | |

| Course Title | Introduction to Japanese History, Culture and Society | | | |
|--|---|-----------------|---|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Mondays 3 rd Period | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3 | rd Floor Office | No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | |
| Aims | This is an introductory course designed for international students to acquire basic knowledge of Japan (history, culture, and society). | | | |
| Learning Outcomes | Becoming familiar with Japanese history Understanding the specific nature of Japanese culture (especially in the pre-modern period) Discussing the socio-cultural situation in contemporary Japan, based on our understanding of pre-modern Japan Experiencing traditional Japanese culture (e.g. the tea ceremony) | | | |
| Content | April 12 th : Orientation April 19 th : History of Japan (1) April 26 th : History of Japan (2) May 10 th : History of Japan (3) May 17 th : History of Japan (4) May 24 th : Quiz (1) May 31 st : Japanese Performing Arts (1) June 7 th : Japanese Performing Arts (1) June 14 th : Family and the Concept of <i>Ie</i> June 21 st : Japanese Companies and Labor Relations June 28 th : Quiz (2) July 5 th : Religion and <i>Dō</i> July 12 th : Japanese Pre-modern Literature and Aesthetics July 19 th : TBA July 26 th : Review | | | |
| Assessment Criteria | August 2 nd : Final Exam Participation: 30% Quiz: 30% Examination: 40% | | | |
| The main language of this course is English and supplementary oprovided in Japanese. この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語ではす。クイズ&期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Please turn on during ZOOM sessions. If you don't, you will fail to gain participation in session. ZOOM 中はカメラを on にしてください。怠った場合は、participation in the session. Zoom 中はカメラを on にしてください。 怠った場合は、participation in the session. Zoom 中はカメラを on にしてください。 怠った場合は、participation in the session. Zoom i | | | 使用言語は主に英語ですが、日本語での説明がありま か日本語が選べます。Please turn on your cameras t, you will fail to gain participation marks for each してください。怠った場合は、participation ポイン attend more than 70% of the class meetings to be | |

| Course Title | Ethnographic Study on Rural Japan | | | |
|------------------------------|--|---|--|--|
| Lecturer | Ryo Kubota | Faculty | Faculty of Economics | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period: 3 | |
| Lecturer's Office | Room 4-10 on the 4 th floor in Liberal | Art Building, 09 | 97-554-7730, yuralria@oita-u.ac.jp | |
| Aims | We explore various issues that are associated with being Inaka / living in Inaka, which can be translated as countryside or rural area but has slightly different connotation and value from its English counterparts. We study what means to be Inaka, what natural/cultural resources Inaka dwellers can appropriate to maintain their quality of life, and what we can do to support their challenges. | | | |
| Learning | You will deepen your understanding | · | | |
| Outcomes | You will acquire your communicative | | ove your cognitive skills. | |
| Content | ***The following schedule is tentative WEEK01 Guidance WEEK02 Ice break (tell us yourse WEEK03 Urban vs Rural (1) WEEK04 Urban vs Rural (2) WEEK05 Social Issues in contem WEEK06 Social Issues in contem WEEK07 Revitalizing the communication week08 Revitalizing the communication week10 Revitalizing the communication week10 Revitalizing the communication week11 Revitalizing the communication week11 Revitalizing the communication week12 Revitalizing the communication week13 Revitalizing the communication week14 Final Presentation (1) WEEK15 Final Presentation (2) (Specific modes of teaching to enhance to work on class activities diligently) | porary Japan (a porary Japan (a porary Japan (a nity (landscape nity (Green tour nity (Japanimat nity (mascot an nity (local festiv nity (internation | depopulation) aging) and natural resources) rism) falty) ion) d kawaii culture) rals) al recognition) | |
| Recommendation | | | vatch materials and think about issues | |
| for Private Study | you would like to discuss before the class. | | | |
| Textbooks | Reading assignments will be uploaded on Moodle. | | | |
| References | Additional materials will be provided | and distributed | via Moodle. | |
| Assessment Criteria | Assignments (10pt) Contribution to discussion (40pt) Final Paper (50pt) | | | |
| Supplementary Information | your own. All students should feel co | omfortable expr | es and opinions that might differ from essing their viewpoints and concerns atmosphere that makes this possible. | |

| Course Title | Globalization of Japan's Economy | | | | |
|----------------------------------|--|---|---|--|--|
| Lecturer | Shigeki SHIBATA | Faculty | Economics | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Thursdays Period: 2 | | |
| Lecturer's Office | | Lecture Room 419, 4th. fl, Faculty of Economics Building, TEL: 097-554-7715, Email: sshiba@oita-u.ac.jp | | | |
| Aims | _ | The aim of this course is to give international students a series of basic knowledge regarding globalization of Japan's Economy | | | |
| Learning Outcomes | Obtained basic knowledge regards Become capable at evaluating eco | At the end of the course, students should have 1. Obtained basic knowledge regarding globalization of Japan's economy 2. Become capable at evaluating economic policies in this domain. 3. Improved their ability to participate in discussions. | | | |
| Content | This course will concentrate on analyzing and explaining globalization of Japan's economy while reading textbooks. 1. Concepts of global economy 2. Development of Japan's economy 3. Globalizing Japan's economy by reading case studies (some articles) Students need to read assignments and prepare presentations. | | | | |
| Recommendation for Private Study | To be provided by lecturer based on | students' intere | ests | | |
| Textbooks | To be provided by lecturer | | | | |
| References | To be provided by lecturer | | | | |
| Assessment Criteria | Attendance and participation: 50% Power-point presentation: 50% | | | | |
| Supplementary Information | | | | | |

| Course Title | The Politics and Economics of the EU | | |
|----------------------------------|---|----------------|--|
| Lecturer | DAY, Stephen | Faculty | Economics |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring Day of the Week: Thursdays Period: 3 |
| Lecturer's Office | Faculty of Economics Bldg., 2rd Floo TEL: 097-534-6676 Email: srday@ | | 06, |
| Aims | | pment of the E | n an in-depth understanding of: 1) the European Union, 2) a selection of key d with Brexit |
| Learning Outcomes | A) Facilitate the ability of learners to critically discuss and evaluate some of the arguments advanced by the political mainstream and Eurosceptics vis-à-vis the EU and European integration B) Familiarize learners with the significance of the key institutional actors of the EU and the role that they play within the EU institutional architecture C) Facilitate the ability to discuss, in a cogent manner, the contextual realities that brought about Brexit | | |
| Content | Introductory overview Global issues beyond the borders of the EU What is the EU? Political and legal dynamics Historical background – a desire to end conflict The integration process - from an FTA to a political union Explaining EU-integration via theory European parliamentary elections European parliamentary elections Remembering the referendum campaign and result EU-UK relations Final Exam As an interactive class, there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios | | |
| Recommendation for Private Study | and evaluations of various types of media reports. Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán (eds.) (2022) European Union Politics, Oxford University Press (Seventh Edition) 『EU――欧州統合の現在(第 4 版)』創元社。2020 | | |
| Textbooks | For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), <i>The European Union: a very short introduction</i> , (4th edition) Oxford: OUP | | |
| References | | | |
| Assessment Criteria | Final assessment (50 percent) Portfolio of work (40 percent) Attendance (10 percent) | | |
| Supplementary Information | The determination to study the European Union (EU), via English, and a willingness to participate in classroom-based activities. Preparatory reading prior to class so as to aid understanding and facilitate discussion is recommended. We will make use of newspaper, video and web-based material during the module. | | |

| Course Title | International Comparative Life and Health Support | | |
|------------------------------|--|---|--|
| Lecturer | Langley, Raymond & Matsumoto, Yumi | Faculty | Health and Welfare Science |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Spring 2022 Day of the Week: Intensive Course Period: |
| Lecturer's Office | Health and Welfare Science Facult langley@oita-u.ac.jp | ty Offices Bldg | ., 1 st Floor Office No 097-554-6117 |
| Aims | | | countries have approached the problem welfare, physical therapy, and other |
| Learning Outcomes | Expanded and deepened understan and similarities and differences comp | • | science practice in one's own country, other countries. |
| Content | how to provide for the physical, psychological secure life. Every nation faces similar solutions, each nation ofter Accordingly, by examining how coupsychological counseling, and welfor problems in our own country. Since we are in Japan, we will be swill also study health and welfare in on student interest, and which counstudents come from Sweden, we will How is psychological counseling plapanese physical therapy changing countries learn from Japanese develoffer between Japan and Sweden? and more. This course is open to all universelfer Science students, and methodology will include lecture, discounted and some students will be used, so please do (Specific modes of teaching to enhance Students will come from a variety of reflect student interest and backgrounds. Classroom activities will include presentations. | chological, and is these issues. In seeks to so intries have appare support, we studying aspects other countries other countries students. I study Swedish practiced in Japa to cope with a elopments? He This course students, a international sussion, preserved not worry if you not worry if you not students' less to backgrounds, and to lecture, disconsippose students, and to lecture, disconsippose students. | can compared with America? How is n aging population, and how can other ow does the role of the social worker will consider these sorts of questions, and international students. Health and students, will have priority. Course station, and debate. Both English and u think your English level is too low. Farning) I and specific topics will be chosen to take advantage of students' cultural students, and individual and group |
| Recommendation | | • | vided materials and conduct individual |
| for Private Study Textbooks | research about topics to be discusse To be provided | eu in ciass. | |
| References | To be provided | | |
| Assessment Criteria | Demonstrate increased understanding of topics presented and discussed, to be assessed by individual and group presentations. | | |
| Supplementary Information | Please note that the class may not be to campus. | pe offered if inte | ernational students are unable to come |

| Course Title | Japanese Presentation Skill | | | | |
|----------------------------------|--|---|---|--|--|
| Lecturer | NISHIJIMA, Yoriko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Tuesdays Period:4 | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floo | r Office No.3-6 | 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | The aim of this class is to actively participate in discussions and to be able to accurately convey information and views in Japanese. Students will analyze content and develop the skills to speak logically. In addition, international students and Japanese students will deepen mutual understanding through group work. | | | | |
| Learning Outcomes | 1. To present a formal speed2. To be able to talk logically3. To collaborate and discus | and convincing | | | |
| Content | discuss points for improvement | on ① on ② gical and persu iscussing witho ebate ① ebate ② to enhance stu t only perform ent within the g | ut removing the points | | |
| Recommendation for Private Study | Students do weekly assignments. They carry out group activities outside of class for presentations and ensure sufficient preparation time. | | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided | d by the lecture | r. | | |
| References | Chi no navigeta, Kuroshio Koto-happyo to Toron no gijuts, Tokaidaigakushuppansha. Ronriteki de tadashii nihongo o tsukautame no gijutu to toreningu, Beret | | | | |
| Assessment Criteria | Group discussion (20%), Pre | esentation (30% | 6), Debate (30%), Assignments (10%), | | |
| Supplementary Information | The maximum number of plearners can register this cla | ass. Intermedia a requirement t | 30. Intermediate to very advanced Japanese te level learners must have knowledge of 500 hat a student should attend more than 70% of ort. | | |

| Course Title | Japanese Linguistics I | | | |
|----------------------------------|--|---|---|--|
| Lecturer | HOSHINO, Tomoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Wednesdays 2 | |
| Lecturer's Office | shinotmk10@yahoo.co.jp | | | |
| Aims | This course aims at offering a basic overview of Japanese linguistics and showing how linguists analyze language. This course also provides beginning students with a solid grounding in basic Japanese linguistic concepts in the fields of grammar and so on. | | | |
| Learning Outcomes | To observe carefully in basic Jap vocabulary, grammar, and so on, and To research and analyze an area. | d acquire a soli | ic concepts in the fields of phonetics, d grounding. | |
| Content | 1. Overview 2. Japanese compared with other lar 3. Grammar 4. Phonetics: the sound of language 5. Grammar: [のだ] 6. Vocabulary: honorifics 7. Vocabulary: kana and kanji charace 8. Dialect 9. Mid-term exam 10. Vocabulary 11. Phrase 12. Phonetics 13. Preparation for group presentation 14. Group presentation 15. Group presentation and feedbace (Specific modes of teaching to enhance Students regularly exchange their ice each other to collect examples and feedbace | on k nce students' le deas and opini | ons in group. They have to work with | |
| Recommendation for Private Study | Students will be assigned homework class. | on a regular b | asis to consolidate the topic covered in | |
| Textbooks | Handouts to be provided in class. | | | |
| References | IORI, Isao (2012) Atarashii Nihongogaku Nyumon, 3A Network | | | |
| Assessment Criteria | Mid-term exam 30%, Group project work 40%, Homework and presentation 20%, Class performance, etc. 10%. | | | |
| Supplementary Information | In order to take this course, students are expected to have passed JLPT N1. Japanese students can take this course too. The class size is limited to 40 students. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination | | | |

| Course Title | Business Japanese Seminar 1 | | |
|----------------------------------|--|-------------------|---|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Mondays Period: 2 |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | | quiring reading s | "3+1" program. In the course, students skills based on mainly economic topics, on opinions. |
| Learning Outcomes | Choose appropriate information Read newspaper articles and organize the contents Accurately and comprehensibly communicate the contents of newspaper articles Utilize the selected information to express their opinions | | |
| Content | Orientation and outline of course Reading of newspaper articles Summarization of newspaper articles after reading Description and expression of opinions on selected information Significance of selecting information 11-14. Presentations Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate. Hold team discussions and debate. Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric. | | |
| Recommendation for Private Study | Get into the habit of reading Japanese newspaper. | | |
| Textbooks | Economic related news and movies | from websites, | newspaper articles and handouts |
| References | Japanese dictionaries, other. To be instructed in class. | | |
| Assessment Criteria | Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%) | | |
| Supplementary Information | The course is also open to other students. | | |

| Course Title | Business Japanese Seminar 2 | | |
|----------------------------------|---|-----------|---|
| Lecturer | MAEDA, Kyoko | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 2 |
| Lecturer's Office | os190008@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring speaking and writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves. | | |
| Learning Outcomes | Develop the ability to objectively analyze oneself and communicate politely. In addition to a focus on conversation ability in a business setting, other skills such as writing ability and Japanese business etiquette will be developed. Understand the circumstances of employment for Japanese people as well as the Japanese mindset as it relates to work. | | |
| Content | 1. Orientation and outline of course 2-9. Research into Japanese job market and their views of jobs 10. Presentations 11-13. Self-analysis 14. Interview 15. Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) • Conduct team-based investigation (survey or interviews). • Conduct mutual evaluation in mock interviews. • In addition to the team report, also create an individual report. | | |
| Recommendation for Private Study | Reflect on one's personality and history in order to develop an ability to promote one's own value. Additionally, foster an interest in Japanese university students' job-hunting activities and their attitudes towards work. Furthermore, develop communication skills for use in formal settings and aggressively execute on those skills. | | |
| Textbooks | Handouts | | |
| References | Japanese dictionaries, other. To be instructed in class. | | |
| Assessment Criteria | Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%) | | |
| Supplementary Information | The course is also open to other students. | | |

| Course Title | Intercultural Communication | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Tuesdays 3 rd Fall: Mondays 3 rd Period | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3r | rd Floor Office | e No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | |
| Aims | Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enchance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological conceptwhich are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth. | | | |
| Learning Outcomes | course, students sociocultural structure. 2. Acquiring theoret course, students statements. 3. Broadening the sociocultural structure. | will be able to exture will be able to extend to extend the cope of multicure. | re of Japanese society and culture: After taking this e to explain key concepts concerning Japanese res on intercultural communication: After taking this explain key theories of intercultural communication. Ilturalism: After taking this course, students will be able circumstances within a broader multicultural context. | |
| Content | 1) Introduction and Orientation 2) What is Intercultural Communication? 3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc) 6) Gesture and Non-Verbal Communication 7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies) 8) Nationalism and Imagined Community 9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people) 10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media) 11) Culture Shock 12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) 14-15) Group Project (Specific modes of teaching to enhance students' learning) This course includes three modes of teaching; lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities. | | | |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required. | | | |
| Textbooks | To be prepared and p | provided by Lec | cturer. | |
| References | To be provided by Led | cturer. | | |
| Assessment | Participation: 20% F | Presentation ar | nd Project: 30% Final Examination: 50% | |
| Supplementary Information | | se. Students m | se is English and supplementary explanation is ust attend more than 70% of the class meetings to be | |

| Course Title | Manga Studies | | | | | |
|----------------------------------|--|--------------|--|--|--|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Wednesday Period: 3 rd | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | | | | | |
| Aims | The contemporary debate concerning Japanese manga culture provides various important perspectives on questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese manga genres and discuss the socio-cultural impact of these genres, within both the Japanese and global contexts. The specific design characteristics and motifs of each manga genre will also be analyzed. | | | | | |
| Learning Outcomes | Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures. Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular). | | | | | |
| Content | 1) Orientation 2) Japanese "Soft Power" 3-5) Theoretical Perspectives on Manga Drawing (1)~(3) 6) Analysis of Shōnen (boys) manga 7) Analysis of Shōjo (girls) manga 8) Analysis of Ladies' Comics 9) Analysis of Boys' Love Manga 10) Data-Based Consumption and Manga 11) Censorship and Manga 12) Racial Issues in Manga 13) Analysis of Yuri Manga 14) Globalization and Manga 15) Review (Specific modes of teaching to enhance students' learning) This course includes three modes of teaching; lectures, group discussions, and | | | | | |
| Recommendation for Private Study | presentations. Students are required to actively participate in class activities. Students are expected to carefully read the assigned readings and summarize each of them before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation and review. | | | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by Lecturer. | | | | | |
| References | To be provided by Lecturer. | | | | | |
| Assessment | Participation: 20% | Presentation | n: 30% Examination: 50% | | | |
| Supplementary Information | provided in Japane | ese. | ourse is English and supplementary explanation is 70% of classes to be eligible to take the final examination. | | | |

| Course Title | Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies | | | | | |
|-------------------|--|---------------------|---|--|--|--|
| Lasturan | NAGAIKE, Kazumi | Faculty. | Global Education and Intercultural Advancement | | | |
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Fridays 4 th Period | | | |
| Lasturar's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor O | ffice No. 3-4 0 | 97-554-7953 <u>nagaike@oita-u.ac.jp</u> | | | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor O | ffice No. 3-3 0 | 97-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | | | |
| | Fashion in Japan is bound to be " | boom"-oriented, | in accordance with the various kinds of aesthetics which | | | |
| | have been cultivated during each | n historical period | d. Accommodating the symbolic forms of beauty favored | | | |
| | in each period, Japanese fashior | n magazines hav | e evolved and continue to produce innovative "formulas" | | | |
| Aims | intended to increase magazine sa | ales. In this cour | se, by mainly focusing on fashion magazines for women, | | | |
| | we will learn about period-specifi | c semiotic struct | ures, content, layouts, and the developing audiences for | | | |
| | fashion magazines in Japan. We | will examine a v | variety of Japanese fashions and related aesthetic forms | | | |
| | and discuss the socio-cultural im | pact of such ger | nres in both the Japanese and global contexts. | | | |
| | 1) Understanding the value of | Japanese fashio | on culture: After taking this course, students will be able | | | |
| | to explain the cultural values | s expressed in Ja | apanese fashion culture and consider the ways in which | | | |
| | Japanese fashion culture re | flects socio-cultu | ral structures. | | | |
| Learning Outcomes | 2) Understanding the transnationality and globalization of Japanese fashion culture: After taking this | | | | | |
| | course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese fashion culture. | | | | | |
| | 3) Acquiring practical methods to communicate knowledge through project-oriented learning: After | | | | | |
| | taking this course, students will be acquainted with global-standard communication skills. | | | | | |
| | Orientation | | | | | |
| | History of <i>kawaii</i> | | | | | |
| | History of cross-dressing in pre-modern Japan | | | | | |
| | Women's Fashion in Jazz Age from 1920s to 1945 | | | | | |
| | Blue Denim Pants & Student Activism from 1945 to 1970s | | | | | |
| | Men's Clean-cut Fashion from 1945 to 1960s & Presentation | | | | | |
| | Men's Fashion & Japan's Economic Growth (1960s to 1980) | | | | | |
| Content | Women's Clean-cut Fashion from 1945 to 1980 | | | | | |
| Content | Shibukaji Fashion and Bubble Economy (1970 to 1992) & Presentation | | | | | |
| | Nyūtora to Konsaba & Meci | hamote Outfits (| 1980-2006) | | | |
| | Gyaru & Kyabajō Fashion (| 1992-2012) | | | | |
| | Rise and Fall of Women's C | Clean-cut Fashio | n (1970-2021) | | | |
| | Cosplay culture | | | | | |
| | Queer fashion culture (cros | s-dressing in the | e 21 st century) | | | |
| | Review | | | | | |
| | Final Exam | | | | | |
| Assessment | Participation: 20% Presentation | n: 50% Final Ex | xamination: 30% | | | |
| | The main language of th | is course is | English and supplementary explanation is | | | |
| Supplementary | provided in Japanese. Z | の授業の使用 | <u>言語は主に英語ですが、日本語での説明があり</u> | | | |
| Information | ます。プレゼンテーション外 | 後表の言語は英 | 語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選 | | | |
| mornidadii | <u>べます。</u> Students must atte | nd more than | 70% of the class meetings to be eligible to take | | | |
| | the final examination. | | | | | |

| Course Title | Introduction to Japanese History, Culture and Society | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|
| Lecturer | NAGAIKE, Kazumi | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Spring: Fridays 2 nd Fall: Wednesdays 4 th | |
| Lecturer's Office | Arts (Kyoyo) Bldg., 3 | rd Floor Office | No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp | |
| Aims | This is an introduc knowledge of Japan | - | signed for international students to acquire basic and society). | |
| Learning Outcomes | period) 3. Discussing the understanding of pre | e specific nature socio-cultural s -modern Japan | istory of Japanese culture (especially in the pre-modern ituation in contemporary Japan, based on our culture (e.g. the tea ceremony) | |
| Content | 1) Orientation 2~5) History of Japan 6~7) Japanese Performing Arts 8) Family and the Concept of <i>Ie</i> 9~10) Experiencing Japanese Culture 11~12) Japanese Companies and Labor Relations 13) Religion and <i>Dō</i> 14) Japanese Pre-modern Literature and Aesthetics 15) Review (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students' progress is constantly assessed by means of quizzes. The primary components of this course are lectures and discussions. Students are required to actively participate in these class discussions. | | | |
| Recommendation for Private Study | Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required. | | | |
| Textbooks | To be prepared and provided by Lecturer. | | | |
| References | To be prepared and p | provided by Lecti | urer. | |
| Assessment Criteria | Participation: 30% Quiz: 30% Examination: 40% | | | |
| | The main language of this course is English and supplementary explanation is | | | |
| Supplementary | provided in Japane | se. | | |
| Information | Information Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the f examination. | | | |
| | | | | |

| Course Title | Japanese Grammar and Discourse | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|
| Lecturer | NANRI, Keizo | Faculty | Global Education and Intercultural Advancement Center | |
| Credit | 2 | Timetable | Semesters 2: Day of the Week: Fridays Period: 3 rd Period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office | No. 5 097-554 | -7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | |
| Aims | This course aims to explore the Japa construction and discourse construction focusing on 5 case markers (o, ni, to and serial verb construction. The disperspective of schema. | tion. The senter b, e, de) the topi | ntial exploration will be conducted by ic marker <i>wa</i> , the subject marker <i>ga</i> , | |
| Learning Outcomes | By the end of the semester, students are expected to be able to improve their linguistic performance in Japanese by understanding (a) the function of the foregoing 5 case markers, (b) the mechanism of Japanese serial verb construction, (c) how the particle <i>wa</i> contributes to text construction, and (d) some Japanese ways of text creation (which will be explored from the perpositive of selection). | | | |
| Content | be explored from the perspective of schema). Week 1: Orientation & an Overview of the Japanese Language. Week 2. Parts of Speech. Weeks 3-7: Experiential Function and Sentence Structure I Week 8. Presentation 1 Week 9. Experiential Function and Sentence Structure II Weeks 10-12: Interpersonal Function and Serial Verbal Construction. Weeks 13-14: The Function of Wa,Text structure, and Japanese Culture Week 15: Presentation 2 (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in an interactive manner. A strong emphasis will be placed on discussion. Two or three topics are presented for discussion in each session. Students are encouraged to analyze provided data and find out theories behind it. Students will be navigated from the discussion of parts of speech through to that of Japanese culture from the viewpoint of schema. | | | |
| Recommendation for Private Study | Students are encouraged to explore the Japanese language by reading online articles linked from those reading lists. They are expected to spend two hours for class preparation and another two for reviewing the class. | | | |
| Textbooks | Handouts to be provided in the class | | | |
| References | To be provided in the class. | | | |
| Assessment Criteria | Small assignments (5 marks x 10 times), First Presentation 20 marks, Second Presentation 30 marks, Students who fail to attend more than 70% fail this course. | | | |
| Supplementary Information | The class will be conducted in Englis | sh and Japanes | se. | |

| Course Title | Social Networks and Introduction of Oita to the World II | | | |
|----------------------------------|---|------------------|------------------------------------|--|
| Lecturer | NANDI Koizo | Faculty | Global Education and Intercultural | |
| Lecturer | NANRI, Keizo | | Advancement Center | |
| | | | Semester 2 | |
| Credit | 2 | Timetable | Day of the Week: Tuesdays | |
| | | | Period: 3rd Period | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office | No. 5 097-554 | -7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp | |
| Aims | This Course aims to provide students with a basic training to disseminate information on the Internet by making use of blogs and web sites that report the rural landscapes in Kunisaki. Students are encouraged to positively participate in group discussion. The class is conducted in Japanese and English. | | | |
| Learning Outcomes | By the end of this semester, students are expected to (1) acquire a sound understanding of the netiquette and the basic knowledge of blog and homepage article writing and (2) to find out the characteristics of the Satoyama system, the ecosystem founded on the symbiotic relationship between the nature and the people living there. A greater emphasis is placed on group activities in this course | | | |
| Content | is placed on group activities in this course. Session 1: Orientation, finding group member, session summary 1 Session 2: An introduction to the Internet 1; getting to know blogs, session summary 2. Session 3: An introduction to the Internet 2, session summary 3. Session 4: Getting to know the life in mountainous areas in Japan. Session 5: Field Strip 1: Exploring the <i>Kunisaki Mikuni</i> area .(provisional destination) Session 6: Blog presentation Session 7: The Satoyama, session summary 4. Session 8: Launch a Wix Hompage, session summary 5. Session 9: Preparation for field trip 2 Session 10: Field trip 2: the <i>Musashi</i> Area in <i>Kunisaki</i> (provisional destination) Session 11: Edit a homepage. Session 12: Summary Session 13: Homepage presentation. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The knowledge introduced in the class will be consolidated through group discussion. The last 10 or 15 minutes of the session will be spend to summarize the content of the class; each student submit their summary to the lecturer in the following session, which enables them to monitor students understanding of the class. | | | |
| Recommendation for Private Study | 2 hours are needed for class preparation and one hour for reviewing the class content. Field trips 1 and 2 will last 8 hours. One field trip accounts as two sessions. | | | |
| Textbooks | Handouts to be provided in class | | | |
| References | A list of references to be posted on a blog. | | | |
| Assessment Criteria | Class summaries (10 marks), field work (1 st 10 marks, 2 nd 15 marks), launching a blog (20 marks), launching a homepage (20 marks), the final report (25 marks). Students who attend less than 70% of the sessions will not pass this course; marks allocated the field works and the final report will not be included in their final marks. 2 marks are deduced from you total marks for each absence from the session. | | | |
| Supplementary Information | International students will learn with | local students i | n this course. | |

| Course Title | Sustainability and Glocal Development in Oita サステナビリティ大分 | | | |
|----------------------------------|--|-------------|--|--|
| Lecturer | BURKART, Kaori I. Faculty Global Education and Intercultural Advancement Center | | | |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Thursdays 4 th period 後期:木4 | |
| Lecturer's Office | Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office N | lo. 3-3 kbu | ırkart@oita-u.ac.jp | |
| Aims | The main purpose of this course is to discuss key sustainable development issues globally and in Oita. The course is intended to develop knowledge, attitudes, and values essential to creating a sustainable future through familiar environmental and social themes related to our immediate surroundings. It is also designed to motivate and empower students to reconsider their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development from a democratic perspective. | | | |
| Learning Outcomes | At the end of the semester, students should be able to Conduct their own research and present the results in class to construct deeper knowledge Compare and contrast cultural elements behind international relationships Reflect on their own cultural biases via learning about different cultural values | | | |
| Content | 1. Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course 2. Week 2: What is "sustainability"? SDGs #1-17 Introduction 3. Week 3 Sustainability—What do you know?! Anything to do with you? 4. Week 4 Theme 1 Potato chips kill elephants!? 5. Week 5: Theme 2 What's going on underwater? 6. Week 6: Theme 3 Let's eat Japanese traditional Tempura soba! 7. Week 7: Special Lecture by guest speakers 8. Week 8: Sustainability-related movie watch 9. Week 9: Movie Talk (group discussions) 10. Week 10: Theme 4 Blueberries cause global warming?! 11. Week 11: Theme 5 Convenience stores' inconvenient business?! 12. Week 12: Theme 6 Hamburgers will take over the world?! 13. Week 13: Presentation 1/2 14. Week 14: Presentation 2/2 15. Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion < Specific modes of teaching to enhance students' learning > Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation during the semester. Possibilities of site visits. | | | |
| Recommendation for Private Study | Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper. | | | |
| Textbooks | To be provided by the instructor | | | |
| References | Additional materials are provided on the class Moodle site. Please check periodically. | | | |
| Assessment Criteria | Homework & online discussion 20% Presentation (individual) 40%; Final report 40% | | | |
| Supplementary Information | In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese. このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。 | | | |

| Course Title | The Politics and Economics of Globalization | | | |
|----------------------------------|--|------------------------------------|--|--|
| Lecturer | DAY, Stephen | Faculty | Economics | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 3 | |
| Lecturer's Office | Faculty of Economics Bldg., 2nd Flo TEL: 097-534-6676 Email: srday@ | · | 06, | |
| Aims | The purpose of this module is to provide learners with an understanding of various aspects of global issues and globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Is globalization being superseded by de-globalization? | | | |
| Learning Outcomes | A) Familiarize learners with the key debates and provide the means to assess and comment upon those debates in a critical and lucid fashion B) Enable learners to articulate the pros and cons of globalization by drawing together some theoretical and real-world experiences C) Enable learners to evaluate and comment upon the impact of global issues in a cogent and concise manner | | | |
| Content | Introductory overview Critical thinking skills Remembering the Cold War Historical – political and economic developments 1945-1989 Explaining political and economic change Revisiting the 2008 global financial crisis Understanding and evaluating Globalization Hyperglobalists, sceptics, and transformationalists Thinking about global governance Borders and identity Hater the control of th | | | |
| Recommendation for Private Study | and evaluating a wide range of media reports. Manfred B. Steger and Paul James, Globalization Matters: Engaging the Global in Unsettled Times, Cambridge University Press, 2019 | | | |
| Textbooks | For absolute beginners I would recommend Manfred B. Steger (2020), <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> , (5th edition) Oxford: Oxford University Press | | | |
| References | | | | |
| Assessment Criteria | Final Assessment - 50 percent Portfolio of work - 40 percent Attendance - 10 percent | | | |
| Supplementary Information | participate in classroom-based activ | rities. Preparato on is recomme | o study in English and a willingness to bry reading prior to class so as to aid nded. We will make use of newspaper, | |

| Course Title | Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics | | | |
|----------------------------------|---|--|---|--|
| Lecturer | HASHIMOTO, Mikio | Faculty | Education | |
| Credit | 2 | Timetable | Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 4 | |
| Lecturer's Office | Education Bldg. B, 5 th Floor 09 | 7-554-7578 | mikioha@oita-u.ac.jp | |
| Aims | One of the main goals is to help you between Japanese and English from | | ome differences of the basic structures of Cognitive Linguistics. | |
| Learning Outcomes | You will be able to understand the ir culture. | nterconnectedn | ess between language, cognition, and | |
| Content | Week 1 How to represent Japanese Week 2 Basic Sentence Types and Week 3 Syntactic differences betwee Week 4 Cause-Effect Relation Week 5 Structure of Speech Situation Week 6 Conjugations of Japanese Week 7 Conjugations of Japanese Week 8 Tense and Aspect Week 9 Semantic Classification of Week 10 Semantic Classification of Week 11 Japanese Passive Constructive Week 12 English Passive Constructive Week 13 English Causative Constructive Week 14 Japanese Causative Constructive Week 15 Summary (Specific modes of teaching to enhance You will discuss relevant topics in great street of the week 15 Summary | Stage Model een Japanese a ion Verbs (Group 2 Japanese verb f English Verbs ructions stions uctions structions | and English 2 and irregular verbs) s earning) | |
| Recommendation for Private Study | You will work on tasks assigned in the lectures. | | | |
| Textbooks | Handouts to be provided in class through Moodle | | | |
| References | Handouts to be provided in class through Moodle | | | |
| Assessment Criteria | Weekly Assignment 40% Essay 60% | | | |
| Supplementary Information | | | | |

| Course Title | Introduction to Information Technology | | | |
|----------------------------------|---|------------------|---|--|
| Lecturer | KAMINA, Tetsuo | Faculty | Science and Technology | |
| Credit | 2 | Timetable | Fall: Thursdays 4 th Period | |
| Lecturer's Office | 2nd floor of Dept. Comp. Sci. Bldg. | 097-554-78 | 73 kamina@oita-u.ac.jp | |
| Aims | | uter graphics, e | logy from the viewpoints of computer etc.) and intelligence systems (artificial | |
| Learning Outcomes | At the end of the course, participants should be able to do the following: 1. explain the basic knowledge of information technology. 2. explain the history of the development about information technology. 3. describe the influence that information technology gives to human life, society, culture, and environment | | | |
| Content | and environment. 1. Guidance, History of the Internet and its fundamentals 2. Digital libraries and search engines 3. Information retrieval technology 4. Properties of software and its design methods 5. Introduction to programming 6. Intelligent robots 7. xR technology 8. Digital representation of sound 9. Audio signal processing 10. Digital image representation and processing 11. Principles of pattern recognition 12. Design and architecture of computers 13. Dependable computing technology 14. Numerical analysis, parallel processing, and simulation 15. Data science, machine learning, and artificial intelligence (Specific modes of teaching to enhance students' learning) For each topic, the lecturer will give quizzes or assignments to confirm the participants' comprehension or ask their opinions. The lecturer will also give some homework that | | | |
| Recommendation for Private Study | requires participants to do some preliminary research, in case of its necessity. Preliminary research in library etc. according to its necessity (2h). Improving the work on given assignments by making use of participants' understanding (8h). | | | |
| Textbooks | None. | | | |
| References | To be announced according to its ne | cessity. | | |
| Assessment Criteria | Report: 70% Quiz: 30% | | | |
| Supplementary Information | Lectures will also be given by NAKASHIMA Makoto, FURUYA Ken'ichi, TAKAMI Toshiya, OHTAKE Satoshi, HATANAKA Yuji, GYOHTEN Keiji, IKEBE Minoru, KAGAWA Tsuneo, and SATO Keizo. | | | |

| Course Title | Japanese Management and Sustainable Development | | | | |
|------------------------------|--|------------------|-------------------------------------|--|--|
| Lecturer | Kunio IKARI Faculty Economics | | | | |
| | | | Semester: Fall | | |
| Credit | 2 | Timetable | Day of the Week: Fridays | | |
| | | | Period: 3 | | |
| Lecturer's Office | Economics Bldg., 4th Floor Office No | . 15, 097-554-7 | 7711, kunioik2@oita-u.ac.jp | | |
| Aims | The purpose of this course is to learn basic knowledges on traditional and cultural | | | | |
| Aiiis | uniqueness of Japanese corporation | S. | | | |
| Learning | Understanding historical and social b | ackground of c | Japanese corporations and economics | | |
| Outcomes | in Kyushu and Oita. | | | | |
| | 1. Introduction | | | | |
| | 2. Positioning Japan for the twenty | -first century | | | |
| | 3. The challenge to Japan's econo | my in an evolvi | ng world | | |
| | 4. Challenges facing Japan's scier | ice and technol | logy | | |
| | 5. Cool Japan and the struggle wit | h globalization | | | |
| | 6. Entrepreneurship in Japan | | | | |
| | 7. Group exercise: Make groups and choose industrial sectors | | | | |
| Content | 8. Group exercise: International comparisons of countermeasures against social crisis | | | | |
| Content | 9. Group Presentation | | | | |
| | 10. Disparity Problem between Tokyo and Local cities | | | | |
| | 11. Entrepreneurship in Japanese local cities | | | | |
| | 12. Economics in Kyushu | | | | |
| | 13. Economics in Oita | | | | |
| | 14. Tourism sector in Oita | | | | |
| | 15. Necessarily of social entrepreneurship in Oita | | | | |
| | (Specific modes of teaching to enhance students' learning) | | | | |
| Recommendation | Read a reacquired chapter at a textb | ook (2 hours) | | | |
| for Private Study | | | | | |
| Textbooks | Mouer, Ross. (Eds.). (2015). Globalizing Japan: Striving to Engage the World, Australia: | | | | |
| TEXEBOOKS | Transpacific press | | | | |
| | Abegglen, J. C., & Stalk, G. (1985). Kaisha Japanese Corporation. Basic Books. | | | | |
| References | Jacoby, S. M. (2007). The Embedded Corporation: Corporate Governance and | | | | |
| | Employment Relations in Japan and the United States. Princeton University Press. | | | | |
| Associant | Participate to discussion 20% | | | | |
| Assessment | Short presentation 20% | | | | |
| Criteria | Final report 60% | | | | |
| Supplementary Information | All students have to attend over 70 % | % of this course |). | | |

